鹿屋体育大学体育学部の学位授与方針

鹿屋体育大学体育学部では、スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおける実践的かつ創造的で市民性、国際性を備えたリーダーを養成するために、以下のような知識・能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学位を認定します。

1　国民各層のスポーツ・武道及び体育・健康づくりを指導し、普及させるための基礎的な知識及び豊かな教養を身につけている。
2　スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する実技力、科学的支援力及び表現力を身につけている。
3　スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関して、年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や事業運営力を身につけている。
4　スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する課題について、体育学の知識を総合的に活用・応用し、説明することができる。
5　スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関心をもち、主体的かつ計画的に、課題解決に向かって取り組む意志をもっている。
6　スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおけるリーダーシップとコミュニケーション能力をもつとともに、社会の一員として適切に振る舞う態度を身につけている。

鹿屋体育大学体育学部の教育課程方針

鹿屋体育大学体育学部では、スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおける実践的かつ創造的で、市民性、国際性を備えたリーダーを養成するために、課程や学生の志向性に沿って、学年進行で１．専門性の深化と充実、２．社会人としての豊かな教養の涵養、３．将来を展望し、勤労観・職業観を醸成できるための教育課程を編成する。

１　専門性の深化と充実を目指して

○体育学の基礎となる人文・社会及び自然系の分野の内容を理解するため、「基礎科目Ａ」群を選択科目として，修学前半期に配置する。

○スポーツ・武道及び体育・健康づくりについての指導・普及のための基礎的な内容を理解するため、「基礎科目Ｂ」群を選択科目として、修学前半期に配置する。

○国民各層のスポーツ・武道及び体育・健康づくりを指導し、普及させるための専門的、応用的な内容を身につけるため、「応用科目」群を選択科目として、修学後半期に配置する。

○スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する基礎的な科学的支援力や表現力を身につけるため、「実験演習科目」群を必修及び選択科目として、修学前半期に配置する。

○スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する基礎的な実技力を身につけるため、「関連実技科目」群を選択科目として、修学全期にわたって配置する。

○スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおける関心あるテーマについて、体育学の知識を総合的に活用し、課題設定、解決、説明する能力を身につけるため、「ゼミナール」と「卒業研究」を必修科目として修学後半期に配置する。

○課程毎に、より専門的な知識と技能を体系的に学ぶため、課程独自の科目の配置や選択を設ける。

○スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関して、年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や事業運営力を身につけるため、理論と実習を連結した「専修科目」群を必修科目として、複数年次にわたって配置する。

○専修科目等で身につけた体系的な実技指導力や事業運営力を実地的・実践的に活用し、深めるため、「指導実践科目」群を必修科目として、修学中間期に配置する。

２　社会人としての豊かな教養を目指して

○国内はもとより国際社会で活躍できる語学力とコミュニケーション能力を涵養するため、「コミュニケーション科目」群を選択科目として、修学全期に渡って配置する。特に、英語力の涵養の科目は修学前半期に必修科目として配置する。

○人間、社会、文化、自然及び環境に関する教養や態度を涵養するため、「社会・文化・自然科目」群を選択科目として、修学全期にわたって配置する。

○基礎的な情報リテラシー、表現力や討論力を身につけるため、「総合科目」群を選択科目として、修学全期にわたって配置する。

３　将来を展望し、勤労観・職業観の醸成を目指して

○実践的、創造的なリーダーとしての将来を展望し、勤労観・職業観及びキャリアデザイン力を醸成するため、「キャリア形成科目」群を一部必修科目として、修学全期にわたって配置する。

○スポーツリーダーとして社会的に活躍できるよう、スポーツ・武道関連資格の取得につながる資格関連の科目も開設する。

体育学部のディプロマポリシーで目指す12の資質・能力と授業科目との関係一覧表

大分類	中分類	科目	実技力 スポーツ、武道、健康づくりの運動等を自ら学び、その習得・改善過程を理解しながら目指すパフォーマンスを達成することができる（模範できる、身体表現できる）資質・能力のこと。	実技指導力 スポーツ等の指導を行うことが出来る示範力、評価力、処方力、コーチング力等を総合した資質・能力のこと。	事業運営力 市民の健康・体力づくり等をコーディネイトし、スポーツクラブ等の事業運営やプログラム開発を行うことができるプログラム等開発力、プログラム等運営力、事業コーディネイト力、組織・施設マネジメント力を総合した資質・能力のこと。	指導者基礎力 指導をする相手(プレーヤー)の意思を尊重しながらも、プレーヤーの人間性・関係性・有能さ・自信を育てる指導をするための基礎的な資質・能力のこと。	コミュニケーション力 「一方的に意思を伝達する」だけでなく、異なる意見や感覚を持つ人々と交わり、耳を傾け、柔軟に自らの意見を変容させる「対話をする」の資質・能力のこと。また、英語でのコミュニケーション力も含む。	リーダーシップ 集団に何らかの目標を設定し、集団を統率しつつ、人々の意欲を高め、成長させながら、その課題を遂行・先導する資質・能力のこと。	キャリアデザイン力 「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関係を踏まえて「働くこと」を位置づけ、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく資質・能力のこと。	課題解決力 本質的な問題を発見し、解決策を考え、計画し、それを実行、成果がでるまでPDCAサイクルを円滑に回し、課題解決に向けた取り組みを実施できる資質・能力のこと。	一般教養・倫理 社会で必要とされ、身につけていることが望ましい基本的な知識や物事の良し悪しを判断し、人として守るべき秩序を守れる資質・能力のこと。	科学的支援力 アスリートへの科学的サポート、生涯スポーツにおける健康科学的サポートを行うことができる仮説・企画力、実験・調査力、分析・考察力、説明力を総合した資質・能力のこと。	科学的表現力 スポーツ等の専門的な知識・教養を総合的に活用し、論理的にレポート・論文等を作成できるとともに、他者に伝わるように表現できる資質・能力のこと。	専門的な知識・教養 スポーツ等の指導者やリーダーに求められる基礎的・応用的な知識ならびに幅広い教養のこと。
一般科目	コミュニケーション科目	英語Ⅰ（基礎①）					●				●				
		英語Ⅰ（基礎②）					●				●				
		英語Ⅰ（初級A）					●				●				
		英語Ⅰ（初級B）					●				●				
		英語Ⅰ（初級C）					●				●				
		英語Ⅰ（中級）					●				●				
		英語Ⅱ（基礎①）					●				●				
		英語Ⅱ（基礎②）					●				●				
		英語Ⅱ（初級A）					●				●				
		英語Ⅱ（初級B）					●				●				
		英語Ⅱ（初級C）					●				●				
		英語Ⅱ（中級）					●				●			○	
		上級英語					●				●				
		英語コミュニケーションⅠ（基礎①）					●				●				
		英語コミュニケーションⅠ（基礎②）					●				●				
		英語コミュニケーションⅠ（初級A）					●				●				
		英語コミュニケーションⅠ（初級B）					●				●				
		英語コミュニケーションⅠ（初級C）					●	○			●				
		英語コミュニケーションⅠ（中級）					●	○			●				
		英語コミュニケーションⅡ（基礎①）					●				●				
		英語コミュニケーションⅡ（基礎②）					●				●				
		英語コミュニケーションⅡ（初級A）					●				●				
		英語コミュニケーションⅡ（初級B）					●				●				
		英語コミュニケーションⅡ（初級C）					●	○			●				
		英語コミュニケーションⅡ（中級）					●	○			●				
		上級英語コミュニケーション					●	○			●				○
		中国語					●				●				
		韓国語					●				●				
		国語・文章表現法					●				●			○	
		ドイツ語					●				●				
		留学生のための英語					●				●				
		日本語演習Ⅰ					●				●			●	
		日本語演習Ⅱ					●				●			●	
		現代日本事情					●				●				
		日本事情					●				●				
	社会・文化・自然科目	倫理・哲学							○		●				
		人権論					●				●			○	
		ジェンダー論				●			○	○	●				○
		歴史学									●				
		社会学									●				
		日本国憲法					●				●			○	
		日本文化論									●				
		異文化理解					●				●				○
		国際関係論					●				●				○
		生物化学論								○	●	○		●	○
		身体科学論													○
		環境論						○			●	●		●	
	総合科目	総合演習A					●				●			○	
		総合演習E					●			○	●				
		情報処理A									●			○	○
		情報処理B									●	○		●	○
		プレゼンテーション・討論Ⅰ					●				●			○	
		プレゼンテーション・討論Ⅱ					●				●			○	
キャリア形成科目	キャリアデザイン科目	キャリアデザインⅠ					●		●	○	○				
		キャリアデザインⅡ					○		●						
		キャリアデザインⅢ					●		●		○				
		キャリアセミナー					○		●						
		キャリアコミュニケーション					○		●						
		企業実習					●		●	○	●				
		キャリア対策セミナー（教員）							●		●				○
		キャリア対策セミナー（一般企業）					○		●		●				○
		キャリア対策セミナー（公務員）							●		●				
		ボアンティア活動					●			○	●				
専門科目	基礎科目A	解剖生理学													●
		体育・スポーツ哲学と倫理								●				●	●
		体育・スポーツ史												●	●
		健康教育学				○									●
		運動生理学											○		●
		スポーツ栄養学				○									●
		スポーツ社会学													●
		スポーツ経営・管理学概論						●	○		○			●	●
		生涯スポーツ学概論			○	●			○		●				●
		スポーツ心理学				●									●
		バイオメカニクス											○	○	●
		衛生学・公衆衛生学						●					●	●	○
		スポーツ医学				●		○	○				●		●
	基礎科目B	救急処置論・実習				●		○	○				●		●
		トレーニング科学概論				○							●	●	●
		スポーツカウンセリング論				○							○		●
		運動学概論		●		●								○	●
		学校保健				○									●
		スポーツと法				●								○	●
		コーチ学概論		●		●	○	○							●
		障がい者スポーツ論				●	○	●				○			●
		武道学概論										○			●
	応用科目	マッサージ・テーピング論	●			○									●
		生涯スポーツ実践論													●
		武道史								○	●			●	●
		運動生化学								○	●	○		●	●
		アスレチックリハビリテーション論				●		○	○			●			●
		アスレチックリハビリテーション実習	●	○						○		●			●
		スポーツ産業論								○	○			●	●
		スポーツ老年学				○									●
		スポーツ文化論				○				○					●
		スポーツトレーニング実践論		○						●		○		●	●
		体育・スポーツ行政学													●
		武道文化論		○		○	●								●
		身体発育発達論				○									●
		スポーツ戦術実践論				○							●		●
		社会調査論											●	○	●
		スポーツ運営論			○		●			●	○				●
		スポーツマーケティング論			●						●			○	●
		運動処方論				○							○		●
		応用スポーツ心理学				●							○		●
		イベント管理学概論			●					●					●
		ヘルスプロモーション論・実習		○											●
	実験演習科目	体育学実験Ⅰ											●	●	●
		体育学実験Ⅱ-運動生理学-											●	●	●
		体育学実験Ⅱ-バイオメカニクス-											●	●	●
		体育学実験Ⅱ-スポーツ心理学-											●	●	●
		体育学実験Ⅱ-衛生学・公衆衛生学 スポーツ栄養学-				○							●	●	●
		陸上・体操・水泳	●	●			○			○					○
		バスケットボール	●	●		○	●								○
		サッカー	●	●											○

大分類	中分類	科目	実技力 スポーツ、武道、健康づくりの運動等を自ら学び、その習得・改善過程を理解しながら目指すパフォーマンスを達成することができる（模範できる、身体表現できる）資質・能力のこと。	実技指導力 スポーツ等の指導を行うことが出来る示範力、評価力、処方力、コーチング力等を総合した資質・能力のこと。	事業運営力 市民の健康・体力づくり等をコーディネイトし、スポーツクラブ等の事業運営やプログラム開発を行うことができるプログラム等開発力、プログラム等運営力、事業コーディネイト力、組織・施設マネジメント力を総合した資質・能力のこと。	指導者基礎力 指導をする相手(プレーヤー)の意思を尊重しながらも、プレーヤーの人間性・関係性・有能さ・自信を育てる指導をするための基礎的な資質・能力のこと。	コミュニケーション力 「一方的に意思を伝達する」だけでなく、異なる意見や感覚を持つ人々と交わり、耳を傾け、柔軟に自らの意見を変容させる「対話をする」の資質・能力のこと。また、英語でのコミュニケーション力も含む。	リーダーシップ 集団に何らかの目標を設定し、集団を統率しつつ、人々の意欲を高め、成長させながら、その課題を遂行・先導する資質・能力のこと。	キャリアデザイン力 「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関係を踏まえて「働くこと」を位置づけ、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく資質・能力のこと。	課題解決力 本質的な問題を発見し、解決策を考え、計画し、それを実行、成果がでるまでPDCA サイクルを円滑に回し、課題解決に向けた取り組みを実施できる資質・能力のこと。	一般教養・倫理 社会で必要とされ、身につけていることが望ましい基本的な知識や物事の良し悪しを判断し、人として守るべき秩序を守れる資質・能力のこと。	科学的支援力 アスリートへの科学的サポート、生涯スポーツにおける健康科学的サポートを行うことができる仮説・企画力、実験・調査力、分析・考察力、説明力を総合した資質・能力のこと。	科学的表現力 スポーツ等の専門的な知識・教養を総合的に活用し、論理的にレポート・論文等を作成できるとともに、他者に伝わるように表現できる資質・能力のこと。	専門的な知識・教養 スポーツ等の指導者やリーダーに求められる基礎的・応用的な知識ならびに幅広い教養のこと。
専門科目	関連実技科目	ラグビー	●	●	○									○
		ダンス	●	●			○			○				○
		バレーボール	●	●				○						○
		柔道	●	●		●								○
		剣道	●	●										○
		エアロビックダンス	●	●			○							○
		ジョギング&ウォーキング	○	●	○									○
		生涯スポーツ・レクリエーション&ゲームズ	●	●			●							○
		テニス	●	●										○
		夏季山岳レジャースポーツ実習			●		○	●		●				○
		冬季山岳レジャースポーツ実習	●		●			●						○
		海洋スポーツ	●	●										○
		卓球	●	●			○							○
		バドミントン	●	●										○
		ソフトボール	●	●										○
		ゴルフ	●	●										○
		なぎなた	●	●										○
		相撲	●	●										○
		弓道	●	●										○
		野外活動	●	●			○							○
		体力トレーニング	●	●									○	○
専攻科目	専修科目	競技スポーツ論・実習Ⅰ－陸上競技	●	○		●				○				○
		競技スポーツ論・実習Ⅱ－陸上競技	●	●		●				○				○
		競技スポーツ論・実習Ⅲ－陸上競技	○	●	●	●								○
		競技スポーツ論・実習Ⅳ－陸上競技	○	●		●				●				○
		競技スポーツ論・実習Ⅰ－水泳	●	●		●								○
		競技スポーツ論・実習Ⅱ－水泳	●	●		●								○
		競技スポーツ論・実習Ⅲ－水泳	●	●	○	●							○	○
		競技スポーツ論・実習Ⅳ－水泳	●	●	○	●							○	○
		競技スポーツ論・実習Ⅰ－体操競技	●	●		●				○				○
		競技スポーツ論・実習Ⅱ－体操競技	●	●		●				○				○
		競技スポーツ論・実習Ⅲ－体操競技	●	●		●				○				○
		競技スポーツ論・実習Ⅳ－体操競技	●	●		●				○				○
		競技スポーツ論・実習Ⅰ－バレーボール	●	○		●								○
		競技スポーツ論・実習Ⅱ－バレーボール	●		●	●								○
		競技スポーツ論・実習Ⅲ－バレーボール	●	●		●				○			○	○
		競技スポーツ論・実習Ⅳ－バレーボール	●	●		●				○			○	○
		競技スポーツ論・実習Ⅰ－バスケットボール	●	●	○	●								○
		競技スポーツ論・実習Ⅱ－バスケットボール	●	●	○	●								○
		競技スポーツ論・実習Ⅲ－バスケットボール	●	●	○	●								○
		競技スポーツ論・実習Ⅳ－バスケットボール	●	●	○	●								○
		競技スポーツ論・実習Ⅰ－サッカー	●	●		●				○				○
		競技スポーツ論・実習Ⅱ－サッカー	●	●		●				○				○
		競技スポーツ論・実習Ⅲ－サッカー	●	●		●				○				○
		競技スポーツ論・実習Ⅳ－サッカー	●	●		●				○				○
		競技スポーツ論・実習Ⅰ－テニス	●	●		●								○
		競技スポーツ論・実習Ⅱ－テニス	●	●		●								○
		競技スポーツ論・実習Ⅲ－テニス	●	●		●								○
		競技スポーツ論・実習Ⅳ－テニス	●	●		●								○
		競技スポーツ論・実習Ⅰ－海洋スポーツ	●	●		●								○
		競技スポーツ論・実習Ⅱ－海洋スポーツ	●	●		●								○
		競技スポーツ論・実習Ⅲ－海洋スポーツ	●	●		●								○
		競技スポーツ論・実習Ⅳ－海洋スポーツ	●	●	●	○								○
		競技スポーツ論・実習Ⅰ－自転車競技	○	●		●			●		●			○
		競技スポーツ論・実習Ⅱ－自転車競技	●	○		●	●							○
		競技スポーツ論・実習Ⅲ－自転車競技	●	●	○	●		○						○
		競技スポーツ論・実習Ⅳ－自転車競技	○	●	●	●						○		○
		レジャー・レクリエーション論			●		○							●
		施設・用具・プログラム論			●		○				●			●
		生涯スポーツ論・演習Ⅰ-コミュニティスポーツ			○	●	○		●					●
		生涯スポーツ論・演習Ⅱ-コミュニティスポーツ			●	○	●		●					○
		生涯スポーツ論・演習Ⅰ-健康・体力		○	●		●			○				●
		生涯スポーツ論・演習Ⅱ-健康・体力		●	●		●					○		○
		生涯スポーツ論・演習Ⅰ-野外教育		●	●		●							○
		生涯スポーツ論・演習Ⅱ-野外教育		●	●		●							○
		専修武道論・実習Ⅰ-柔道	●	●		●	○							○
		専修武道論・実習Ⅱ-柔道	●	●		●	○							○
		専修武道論・実習Ⅲ-柔道	●	●		●	○							○
		専修武道論・実習Ⅳ-柔道	●	●		●	○							○
		専修武道論・実習Ⅰ-剣道	●	○		●								○
		専修武道論・実習Ⅱ-剣道	●	●	○	●								○
		専修武道論・実習Ⅲ-剣道	●	●	○	●								○
		専修武道論・実習Ⅳ-剣道	●	●	●									○
	指導実践科目	スポーツ指導実践概論		●	○	●								●
		スポーツ指導実習（スポーツコーチ実習）		●	○	●	○	●		○				○
		スポーツ指導実習（生涯スポーツ指導実習）		●	○	●	●							
		スポーツ指導実習（武道指導実習）		●	●	○	○	●						
教職科目	教職	教師論				●			○		●			●
		教育心理学				●					●			●
		特別支援教育				●					●			●
		道徳の理論と指導法				●					●			●
		総合的な学習の時間の指導法				●					●			●
		特別活動論				○					●			●
		教育方法・技術				○	○			●	●			○
		学校の教育と歴史									●			●
		教育法・教育行政									●		○	●
		介護等体験				○	●		○	●	●			○
		生徒・進路指導論				●				○	●			●
		教育相談・カウンセリング論				●	●							●
		教育課程論				○					●			●
	教職専門	保健体育科教育法Ⅰ				●								●
		保健体育科教育法Ⅱ			○	●								●
		保健体育科教育法Ⅲ			●	●	○	○						●
		保健体育科教育法Ⅳ			●	○	●	○						●
		教育実習Ⅰ			○	●	●	○						●
		教育実習Ⅱ			○	●	●	○						●
		教職実践演習（中・高）			●	●	○							●
○合計			5	9	20	21	24	16	9	28	7	15	15	86
●合計			64	70	20	71	63	7	12	8	75	14	19	70
ゼミナール		濱田初幸ゼミ						○		●		○	●	○
		北川ゼミ		○						●		●	●	○
		瓜田ゼミ								●		○	●	○
		金高ゼミ								●			●	○
		濱田幸二ゼミ					○			●		●	●	○
		前阪ゼミ								●	○		●	○
		高橋ゼミ												
		木葉ゼミ								●		○	●	○
		萬久ゼミ								●		●	●	○
		中村夏実ゼミ								●		○	●	○
		竹中ゼミ				●	○		○	●			●	○
		松村ゼミ								●		○	●	○
		三浦ゼミ								●		○	●	○
		塩川ゼミ		○						●			●	○
		桑樂ゼミ								●			●	○
		坂中ゼミ												
		小森ゼミ												
		添嶋ゼミ								●			●	○
		赤嶺ゼミ					●			●		○	●	○
		山本ゼミ					●			●		○	●	○
		前田明ゼミ								●		○	●	○
		荻田ゼミ								●		○	●	○

大分類	中分類	科目	実技力 スポーツ、武道、健康づくりの運動等を自ら学び、その習得・改善過程を理解しながら目指すパフォーマンスを達成することができる（模範できる、身体表現できる）資質・能力のこと。	実技指導力 スポーツ等の指導を行うことが出来る示範力、評価力、処方力、コーチング力等を総合した資質・能力のこと。	事業運営力 市民の健康・体力づくり等をコーディネイトし、スポーツクラブ等の事業運営やプログラム開発を行うことができるプログラム等開発力、プログラム等運営力、事業コーディネイト力、組織・施設マネジメント力を総合した資質・能力のこと。	指導者基礎力 指導をする相手(プレーヤー)の意思を尊重しながらも、プレーヤーの人間性・関係性・有能さ・自信を育てる指導をするための基礎的な資質・能力のこと。	コミュニケーション力 「一方的に意思を伝達する」だけでなく、異なる意見や感覚を持つ人々と交わり、耳を傾け、柔軟に自らの意見を変容させる「対話をする」の資質・能力のこと。また、英語でのコミュニケーション力も含む。	リーダーシップ 集団に何らかの目標を設定し、集団を統率しつつ、人々の意欲を高め、成長させながら、その課題を遂行・先導する資質・能力のこと。	キャリアデザイン力 「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関係を踏まえて「働くこと」を位置づけ、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく資質・能力のこと。	課題解決力 本質的な問題を発見し、解決策を考え、計画し、それを実行、成果がでるまでPDCA サイクルを円滑に回し、課題解決に向けた取り組みを実施できる資質・能力のこと。	一般教養・倫理 社会で必要とされ、身につけていることが望ましい基本的な知識や物事の良し悪しを判断し、人として守るべき秩序を守れる資質・能力のこと。	科学的支援力 アスリートへの科学的サポート、生涯スポーツにおける健康科学的サポートを行うことができる仮説・企画力、実験・調査力、分析・考察力、説明力を総合した資質・能力のこと。	科学的表現力 スポーツ等の専門的な知識・教養を総合的に活用し、論理的にレポート・論文等を作成できるとともに、他者に伝わるように表現できる資質・能力のこと。	専門的な知識・教養 スポーツ等の指導者やリーダーに求められる基礎的・応用的な知識ならびに幅広い教養のこと。
	ゼミナールⅠ	田巻ゼミ												
		中垣内ゼミ												
		イスラムゼミ				○	○			●		●	●	○
		吉田ゼミ								●	○	●	●	○
		藤田ゼミ								●		○	●	○
		沼尾ゼミ												
		高井ゼミ					○			●		●	●	○
		與谷ゼミ												
		長島ゼミ								●		●	●	○
		村田宗紀ゼミ												
		竹下ゼミ			○					●		●	●	○
		前田博子ゼミ								●		●	●	○
		山田ゼミ								●		●	●	○
		森克己ゼミ								●		●	●	○
		北村ゼミ								●		●	●	○
		和田ゼミ								●		●	●	○
		中本ゼミ								●		○	●	○
		萩原ゼミ												
		中村勇ゼミ					○			●		●	●	○
		坂口ゼミ								●		●	●	○
		隅野ゼミ					○			●		●	●	○
	ゼミナールⅡ	濱田初幸ゼミ						●		●		○	●	○
		北川ゼミ		○						●		●	●	○
		瓜田ゼミ								●		○	●	○
		金高ゼミ								●		○	●	○
		濱田幸二ゼミ					○			●		●	●	○
		前阪ゼミ		●						●	○		●	○
		高橋ゼミ								●		○	●	○
		木葉ゼミ								●		●	●	○
		萬久ゼミ								●		●	●	○
		中村夏実ゼミ								●		○	●	○
		竹中ゼミ		●						●		○	●	○
		松村ゼミ								●		○	●	○
		三浦ゼミ								●		●	●	○
		塩川ゼミ		●						●		○	●	○
		榮樂ゼミ												
		坂中ゼミ												
		小森ゼミ												
		添嶋ゼミ												
		赤嶺ゼミ								●			●	○
		山本ゼミ								●		○	●	○
		前田明ゼミ					●			●		○	●	○
		荻田ゼミ					●			●		○	●	○
		田巻ゼミ					○			●		●	●	○
		中垣内ゼミ								●		●	●	○
		イスラムゼミ				○	○			●		●	●	○
		吉田ゼミ								●	○	●	●	○
		藤田ゼミ								●		●	●	○
		沼尾ゼミ								●		○	●	○
		高井ゼミ					○			●		●	●	○
		與谷ゼミ								●		●	●	○
		長島ゼミ								●			●	○
		村田宗紀ゼミ			○					●		●	●	○
		竹下ゼミ					●			●		○	●	○
		前田博子ゼミ								●			●	○
		山田ゼミ								●		○	●	○
		森克己ゼミ			○					●		●	●	○
		北村ゼミ								●	○	●	●	○
		和田ゼミ								●		●	●	○
		中本ゼミ								●		●	●	○
		萩原ゼミ					○			●		●	●	○
		中村勇ゼミ								●			●	○
		坂口ゼミ								●		●	●	○
		隅野ゼミ					○		○	●	○		●	○
○合計			0	4	6	4	19	1	5	0	13	44	0	111
●合計			0	5	0	1	7	2	0	111	0	46	111	0

カリキュラムマップ【スポーツ総合課程】

科目区分		単位修得要件	学習目標	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
一般科目	コミュニケーション	最低修得単位数：**10単位** 英語科目（英語Ⅰ・Ⅱ、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ）8単位を必修とする	国内にはもとより国際社会で活躍できる語学力とコミュニケーション能力を涵養する	英語Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅠ（再）	英語Ⅱ	上級英語コミュニケーション	上級英語		
				留学生のための英語	国語・文章表現法	英語コミュニケーションⅡ	現代日本事情	中国語	英語コミュニケーションⅡ（再・編）		
				日本語演習Ⅰ	日本事情	日本語演習Ⅱ		韓国語	フランス語		
								ドイツ語			
				各国文化研究							
	社会・文化・自然	最低修得単位数：**8単位**	社会の一員として、人間、社会、文化、自然及び環境に関する教養や態度を涵養する	倫理・哲学	人権論（1）		歴史学（1）	異文化理解			国際関係論
				日本文化論	ジェンダー論（1）		社会学（1）				
				生物化学論	日本国憲法						
				身体科学論	環境論						
	総合	最低修得単位数：**4単位** 情報処理科目（情報処理A、B、C）は、1科目以上修得しなければならない	社会の一員として、基礎的な情報リテラシー、表現力や討論力を身につける	情報処理A		情報処理C	情報処理B	総合演習A	総合演習C		
						総合演習D	総合演習B		プレゼンテーション・討論Ⅱ（1）		
						総合演習E	プレゼンテーション・討論Ⅰ（1）				
				交流リベラルアーツ							
キャリア形成科目	キャリアデザイン	最低修得単位数：**4単位** キャリアデザインⅠ（2単位）を必修とする。	実践的・創造的なリーダーとしての将来像を展望し、勤労観・職業観を醸成する	キャリアデザインⅠ	キャリアデザインⅡ（1）		キャリアデザインⅢ（1）	キャリアセミナー（1）			
								キャリア対策セミナー(1)			
							企業実習1週（1）				
							企業実習2週				
								キャリアコミュニケーション			
				ボランティア活動（1）							
専門科目	基礎A	最低修得単位数：**14単位**	体育学の基礎となる人文・社会及び自然系の分野の内容を理解する	解剖生理学	運動生理学	スポーツ社会学	運動生理学（再）	スポーツ医学			
				体育・スポーツ哲学と倫理	スポーツ栄養学	スポーツ経営・管理学概論					
				体育・スポーツ史	スポーツ心理学	生涯スポーツ学概論					
				健康教育学		バイオメカニクス					
						衛生学・公衆衛生学					
	基礎B	最低修得単位数：**10単位**	スポーツ・武道及び体育・健康づくりについての指導・普及のための基礎的な内容を理解する		武道学概論	救急処置論・実習	トレーニング科学概論	スポーツと法	障がい者スポーツ論		
						スポーツカウンセリング論	運動学概論（1）				
							コーチ学概論(1)				
							学校保健				
	応用	最低修得単位数：**10単位**	国民各層のスポーツ・武道及び体育・健康づくりを指導し、普及させるための専門的、応用的な内容を身につける			武道史	アスレチックリハビリテーション論	マッサージ・テーピング論・実習	マッサージ・テーピング論・実習	ヘルスプロモーション論・実習	
						運動生化学	スポーツ産業論	生涯スポーツ実践論	体育・スポーツ行政学		
						スポーツ文化論	スポーツ老年学	アスレチックリハビリテーション実習（1）	武道文化論		
								スポーツトレーニング実践論	身体発育発達論		
								スポーツマーケティング論	スポーツ戦術実践論		
								イベント管理学概論	社会調査論		
									スポーツ運営論		
									体育・スポーツ統計学		
									運動処方論		
									応用スポーツ心理学		
				救急法実習（1）							
	実験演習	最低修得単位数：**2単位** 体育学実験Ⅰ（2単位）を必修とする。	スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する基礎的な科学的支援力や表現的能力を身につける		体育学実験Ⅰ	体育学実験Ⅱ（4）					
	関連実技	最低修得単位数：**8単位**	スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する基礎的な実技力を身につける	バスケットボール（1）	バスケットボール（1）	ラグビー（1）	テニス（1）	陸上・体操・水泳（2）		ダンス（1）	ダンス（1）
				サッカー（1）	サッカー（1）	テニス（1）	ソフトボール（1）	バレーボール（1）	バレーボール（1）	ゴルフ（1）	ゴルフ（1）
				柔道（1）	柔道（1）	ソフトボール（1）	ジョギング＆ウォーキング（1）	卓球（1）	卓球（1）		弓道（1）
				剣道（1）	剣道（1）	夏季山岳レジャースポーツ実習（1）	冬季山岳レジャースポーツ実習（1）	バドミントン（1）	バドミントン（1）		
				生涯スポーツ・レクリエーション＆ゲームズ（1）	エアロビックダンス（1）	海洋スポーツ（1）	ラグビー（1）	ダンス（1）	ダンス（1）		
						相撲（1）	なぎなた（1）				
						野外活動（1）	弓道（1）				
							体力トレーニング（1）				
		最低修得単位数：**14単位** ゼミナールⅠ以外を必修とする	スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおける関心あるテーマについて、体育学の知識を総合的に活用し、課題設定、解決、説明する能力を身につける			ゼミナールⅠ（4）		ゼミナールⅡ（4）		ゼミナールⅢ（4）	
										卒業研究（6）	
専攻科目	専修科目 アスリート・コーチング系	最低修得単位数：**18単位** 論・実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは同一の種目であること。	スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関して、年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や事業運営力を身につける	競技スポーツ論・実習Ⅰ（6）		競技スポーツ論・実習Ⅱ（6）		競技スポーツ論・実習Ⅲ（6）		競技スポーツ論・実習Ⅳ（6）	
	専修科目 生涯スポーツ系	最低修得単位数：**6単位** 論・実習Ⅰ、Ⅱは同一のコースであること。				レジャー・レクリエーション論	施設・用具・プログラム論	生涯スポーツ論・演習Ⅰ	生涯スポーツ論・演習Ⅱ		
						↖ 1科目以上選択 ↗		コミュニティスポーツ	コミュニティスポーツ		
								健康・体力	健康・体力		
								野外教育	野外教育		
	指導実践	指導実践科目は、専修科目で選択した同一の種目の実習を必修とする。	専修科目等で身につけた体系的な実技指導力や事業運営力を実地的・実践的に活用し、深める		スポーツ指導実践概論(1)			【アスリート・コーチング系】スポーツコーチ実習（1～2）	SCO-OP 実習（4）		SCO-OP 実習（4）
								【生涯スポーツ系】生涯スポーツ指導実習			

注）1．（）内の数字は単位数を示す。なお、表記のないものはすべて2単位科目である。

2．表中の色は以下のことを示す。なお、着色していない科目はすべて選択科目である。

- は必修科目を示す
- はアスリート・コーチング系の必修科目を示す。
- は生涯スポーツ系の必修科目を示す。
- は生涯スポーツ系の選択必修科目を示す。

カリキュラムマップ【武道課程】

科目区分		単位修得要件	学習目標	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
一般科目	コミュニケーション	最低修得単位数：10単位 英語科目（英語Ⅰ・Ⅱ、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ）8単位を必修とする。	国内にはもとより国際社会で活躍できる語学力とコミュニケーション能力を涵養する	英語Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅠ（再）	英語Ⅱ	上級英語コミュニケーション	上級英語		
				留学生のための英語	国語・文章表現法	英語コミュニケーションⅡ	現代日本事情	中国語	英語コミュニケーションⅡ（再・編）		
				日本語演習Ⅰ	日本事情	日本語演習Ⅱ		韓国語	フランス語		
								ドイツ語			
				各国文化研究							
	社会・文化・自然	最低修得単位数：8単位	社会の一員として、人間、社会、文化、自然及び環境に関する教養や態度を涵養する	倫理・哲学	人権論（1）		歴史学（1）	異文化理解			国際関係論
				日本文化論	ジェンダー論（1）		社会学（1）				
				生物化学論	日本国憲法						
				身体科学論	環境論						
	総合	最低修得単位数：4単位 情報処理科目（情報処理A、B、C）は、1科目以上修得しなければならない	社会の一員として、基礎的な情報リテラシー、表現力や討論力を身につける	情報処理A		総合演習D	総合演習B	総合演習A	総合演習C		
						総合演習E	情報処理B		プレゼンテーション・討論Ⅱ（1）		
						情報処理C	プレゼンテーション・討論Ⅰ（1）				
				交流リベラルアーツ							
キャリア形成科目	キャリアデザイン	最低修得単位数：4単位 キャリアデザインⅠ（2単位）を必修とする。	実践的・創造的なリーダーとしての将来像を展望し、勤労観・職業観を醸成する	キャリアデザインⅠ	キャリアデザインⅡ（1）		キャリアデザインⅢ（1）	キャリアセミナー（1）			
								キャリア対策セミナー(1)			
							企業実習1週（1）				
							企業実習2週				
								キャリアコミュニケーション			
				ボランティア活動（1）							
専門科目	基礎A	最低修得単位数：14単位	体育学の基礎となる人文・社会及び自然系の分野の内容を理解する	解剖生理学	運動生理学	スポーツ社会学	運動生理学（再）	スポーツ医学			
				体育・スポーツ哲学と倫理	スポーツ栄養学	スポーツ経営・管理学概論					
				体育・スポーツ史	スポーツ心理学	生涯スポーツ学概論					
				健康教育学		バイオメカニクス					
						衛生学・公衆衛生学					
	基礎B	最低修得単位数：10単位	スポーツ・武道及び体育・健康づくりについての指導・普及のための基礎的な内容を理解する		武道学概論	救急処置論・実習	トレーニング科学概論	スポーツと法	障がい者スポーツ論		
						スポーツカウンセリング論	運動学概論（1）				
							コーチ学概論(1)				
							学校保健				
	応用	最低修得単位数：10単位	国民各層のスポーツ・武道及び体育・健康づくりを指導し、普及させるための専門的、応用的な内容を身につける			武道史	アスレチックリハビリテーション論	マッサージ・テーピング論・実習	マッサージ・テーピング論・実習	ヘルスプロモーション論・実習	
						運動生化学	スポーツ産業論	生涯スポーツ実践論	体育・スポーツ行政学		
						スポーツ文化論	スポーツ老年学	アスレチックリハビリテーション実習（1）	武道文化論		
								スポーツトレーニング実践論	身体発育発達論		
								スポーツマーケティング論	スポーツ戦術実践論		
								イベント管理学概論	社会調査論		
									スポーツ運営論		
									体育・スポーツ統計学		
									運動処方論		
									応用スポーツ心理学		
				救急法実習（1）							
	実験演習	最低修得単位数：2単位 体育学実験Ⅰ（2単位）を必修とする。	スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する基礎的な科学的支援力や表現的能力を身につける		体育学実験Ⅰ	体育学実験Ⅱ（4）					
	関連実技	最低修得単位数：8単位	スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する基礎的な実技力を身につける	バスケットボール（1）	バスケットボール（1）	ラグビー（1）	テニス（1）	陸上・体操・水泳（2）		ダンス（1）	ダンス（1）
				サッカー（1）	サッカー（1）	テニス（1）	ソフトボール（1）	バレーボール（1）	バレーボール（1）	ゴルフ（1）	ゴルフ（1）
				柔道（1）	柔道（1）	ソフトボール（1）	ジョギング＆ウォーキング（1）	卓球（1）	卓球（1）		弓道（1）
				剣道（1）	剣道（1）	夏季山岳レジャースポーツ実習（1）	冬季山岳レジャースポーツ実習（1）	バドミントン（1）	バドミントン（1）		
				生涯スポーツ・レクリエーション＆ゲームズ（1）	エアロビックダンス（1）	海洋スポーツ（1）	ラグビー（1）	ダンス（1）	ダンス（1）		
						相撲（1）	なぎなた（1）				
						野外活動（1）	弓道（1）				
							体力トレーニング（1）				
	ゼミナール（卒業研究）	最低修得単位数：14単位				ゼミナールⅠ（4）		ゼミナールⅡ（4）		ゼミナールⅢ（4）	
専攻科目	専修科目 武道系	最低修得単位数：18単位 論・実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは同一の種目であること。		専修武道論・実習Ⅰ（6）		専修武道論・実習Ⅱ（6）		専修武道論・実習Ⅲ（6）		専修武道論・実習Ⅳ（6）	
	専修科目 生涯スポーツ系	最低修得単位数：6単位 論・実習Ⅰ、Ⅱは同一のコースであること。				レジャー・レクリエーション論	施設・用具・プログラム論	生涯スポーツ論・演習Ⅰ	生涯スポーツ論・演習Ⅱ		
						↖ 1科目以上選択 ↗		コミュニティスポーツ	コミュニティスポーツ		
								健康・体力	健康・体力		
								野外教育	野外教育		
	指導実践	指導実践科目は、専修科目で選択した同一の種目の実習を必修とする。	専修科目等で身につけた体系的な実技指導力や事業運営力を実地的・実践的に活用し、深める		スポーツ指導実践概論(1)			【武道系】武道指導実習（1～2）	SCO-OP 実習（4）		SCO-OP 実習（4）
								【生涯スポーツ系】生涯スポーツ指導実習			

注）1．（ ）内の数字は単位数を示す。なお、表記のないものはすべて2単位科目である。

2．表中の色は以下のことを示す。なお、着色していない科目はすべて選択科目である。

- は必修科目を示す
- は武道課程に特化した必修科目を示す。
- に示す2科目のうち1科目以上を選択必修
- は生涯スポーツ系の必修科目を示す。
- は生涯スポーツ系の選択必修科目を示す。

※関連実技科目について、剣道、柔道、なぎなた、弓道の中から2科目（各1単位）以上修得しなければならない。

教育：8101-i3-3
教育に関する現況調査表（体育学部）
（抜粋）

平成３０事業年度　自己点検・評価報告書

鹿屋体育大学

©National Institute of Fitness and Sports in KANOYA

３．教育研究等の質の状況

教育研究等の質の状況における自己点検・評価結果は以下のとおり。

領域	項目数	評価結果件数		改善事項件数	備考
		適合	不十分		
教育課程	３５	３４	1	4	重点評価 12 項目を含む
学生支援	5	5	0	0	
学生受入	5	4	1	2	
研究活動	3	3	0	0	重点評価１項目を含む
管理運営	7	7	0	0	
施設設備	2	2	0	0	
社会連携・社会貢献	1	1	0	0	
中期目標・中期計画・年度計画	3	3	0	0	重点評価１項目を含む
合計	６１	５９	2	6	

年度計画における業務運営・財務内容等の状況に関する自己点検・評価結果は以下のとおり。

領域	Ⅳ（上回って実施）	Ⅲ（十分に実施）	Ⅱ（不十分）	Ⅰ（未実施）
業務運営の改善及び効率化	1	１１	0	0
財務内容の改善	1	3	0	0
自己点検・評価及び情報提供	2	1	0	0
その他の業務運営	0	１２	0	0
合計	4	２７	0	0

※Ⅳは「年度計画を上回って実施している」、Ⅲは「年度計画を十分に実施している」、
Ⅱは「年度計画を十分には実施していない」、Ⅰは「年度計画を実施していない」

©National Institute of Fitness and Sports in KANOYA

＜評価内容＞
【体育学部】
ⅰ）教育課程の編成の方針については、明示している。ⅱ）教育課程における教育・学習方法に関する方針については、平成 30 年度末時点においては規定していないが、シラバスにおいて各授業科目の教育内容及び学習方法を明示している。ⅲ）学習成果の評価の方針については、平成 30 年度末時点においては規定していないが、シラバスにおいて各授業科目の学習成果の評価方法を明示している。
【体育学研究科】
ⅰ）教育課程の編成の方針については、明示している。ⅱ）教育課程における教育・学習方法に関する方針及びⅲ）学習成果の評価の方針については、明示していないが、各授業科目のシラバスにおいて教育内容、学習方法及び学習成果の評価方法を明示している。
＜改善事項＞
体育学部、体育学研究科のⅱ）教育課程における教育・学習方法に関する方針及びⅲ）学習成果の評価の方針については、今後検討する。

【２２】自己点検項目（重点）	評価結果	根拠資料
教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること	【学部】適合 【研究科】適合	教育課程方針 学位授与方針

＜評価内容＞
【体育学部】
平成 26 年度からの教育課程において、教育課程方針が学位授与方針と整合性を有するように、教育課程方針と学位授与方針の見直しを行った。
【体育学研究科】
教育課程方針が学位授与方針と整合性を有するように、平成 28 年度に教育課程方針と学位授与方針の見直しを行い、学位授与方針を達成するために教育課程方針にそれぞれ必要な授業科目区分を明記した。
＜改善事項＞
なし

【２３】自己点検項目（重点）	評価結果	根拠資料
教育課程の編成が、体系性を有していること	【学部】適合 【研究科】適合	①カリキュラムマップ ②履修モデル

＜評価内容＞
【体育学部】
カリキュラムマップの概要（ディプロマポリシーで目指す学修成果と授業との関係）及び課程毎（スポーツ総合課程、武道課程）のカリキュラムマップを作成し、履修要項に記載している。また、アスリート・コーチング系、生涯スポーツ系、武道系の履修モデルを履修要項に記載している。カリキュラムマップ及び履修モデルにより、教育課程の編成が体系性を有しているといえる。
【体育学研究科】
体育学専攻修士課程では、共通、専門（基礎科目、応用科目）、課題研究の区分、体育学専攻博士後期課程では、共通、専門の区分、修士課程スポーツ国際開発学共同専攻では、専門科目（講義（基礎、応用、関連）、演習（学内、学外）、実践（母国、海外））区分、３年制博士課程大学体育スポーツ高度化共同専攻では、専門科目（実践的教育能力育成科目、実践的研究能力育成科目、博士論文研究能力育成科目）及び専門基礎科目を配置している。体育学部のようなカリキュラムマップや履修モデルはないが、基礎から応用へと繋げる科目の配置をしており、教育課程の編成が体系性を有しているといえる。
＜改善事項＞
なし

【２４】自己点検項目（重点）	評価結果	根拠資料
成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること	【学部】適合 【研究科】適合	成績評価基準

＜評価内容＞
【体育学部】
「鹿屋体育大学体育学部の教育課程及び履修方法等に関する規定」第 20 条（履修要項 P133 および履修要項 P68～69）において、各授業科目のシラバス内の教育内容、学習方法及び学習成果の評価方法と整合性をもって、成績の評価基準を策定している。成績評価基準は、A(80～100 点)：到達目標を達成し、優秀な成績を修めている、B(70～79 点)：到達目標を達成している、C(60～69 点)：到達目標を最低限達成している、D(59 点以下)：到達目標を達成していない、K(履修放棄)。また、シラバスにおいて、各授業科目の授業の到達目標、成績評価の方法、成績評価の基準を明記している。
【体育学研究科】
体育学専攻修士課程及び体育学専攻博士後期課程は、「鹿屋体育大学大学院体育学研究科履修規定」第 10 条において、各授業科目のシラバス内の教育内容、学習方法及び学習成果の評価方法と整合性をもって、成績の評価基準を策定している。成績評価基準は、A(80～100 点)：到達目標を達成し、優秀な成績を修めている、B(70～79 点)：到達目標を達成している、C(60～69 点)：到達目標を最低限達成している、D(59 点以下)：到達目標を達成していない。

©National Institute of Fitness and Sports in KANOYA

平成31年度　学年暦（教務関連）

○　前期（４月１日～９月３０日）

	日	月	火	水	木	金	土	
4月		1	2 オリ	3 オリ	4 オリ	5 入学式	6	２日　新入生オリエンテーション、第３年次編入学生オリエンテーション 英語プレイスメントテスト
	7	8 ①	9 ①	10 ①	11 ①	12 ①	13	２日～８日　成績等への異議申立て期間（在学生）
								３日　在学生ガイダンス、小クラス懇談会
	14	15 ②	16 ②	17 ②	18 ②	19 ②	20	４日　新入生オリエンテーション、関連実技科目ガイダンス
								５日　入学式、小クラス懇談会
	21	22 ③	23 ③	24 ③	25 ③	26 ③	27	８日　授業開始
								８日～１９日　履修登録期間
	28	29	30					２６日　競技力向上の会

	日	月	火	水	木	金	土	
5月				1	2	3	4	
	5	6	7 月④	8 ④	9 ④	10 ④	11	
	12	13 ⑤	14 ④	15 ⑤	16 ⑤	17 ⑤	18	
	19	20 ⑥	21 ⑤	22 ⑥	23 ⑥	24 ⑥	25	
	26	27 ⑦	28 ⑥	29 ⑦	30 ⑦	31 ⑦		３１日　卒業研究の概要（プロポーザル） 提出締切日（４年次）

	日	月	火	水	木	金	土	
6月							1	
	2	3 ⑧	4 ⑦	5 ⑧	6 ⑧	7 ⑧	8	
	9	10 ⑨	11 ⑧	12 ⑨	13 ⑨	14 ⑨	15	
	16	17 ⑩	18 ⑨	19 ⑩	20 ⑩	21 ⑩	22	
	23	24 ⑪	25 ⑩	26 ⑪	27 ⑪	28 ⑪	29	
	30							

	日	月	火	水	木	金	土	
7月		1 ⑫	2 ⑪	3 ⑫	4 ⑫	5 ⑫	6	
	7	8 ⑬	9 ⑫	10 ⑬	11 ⑬	12 ⑬	13	
	14	15	16 ⑬	17 ⑭	18 ⑭	19 ⑭	20	１７日～３０日の５限目　補講時間
	21	22 ⑭	23 ⑭	24 ⑮	25 ⑮	26 ⑮	27	
	28	29 ⑮	30 ⑮	31 ⑯				３１日～８月６日　期末試験

	日	月	火	水	木	金	土	
8月					1 ⑯	2 ⑯	3	
	4	5 ⑯	6 ⑯	7 予備日	8	9	10	７日　試験予備日
								８月上旬　　集中講義
	11	12	13	14	15	16	17	８月８日～９月３０日　　夏期休業期間
								２１日　成績公開日（前期末卒業予定者）
	18	19	20	21	22	23	24	２１日～２７日　成績等への異議申立て期間（前期末卒業予定者）
	25	26	27	28	29	30	31	２６日、２７日　第３年次編入学試験

	日	月	火	水	木	金	土	
9月	1	2	3	4	5	6	7	９月下旬　　集中講義
	8	9	10	11	12	13	14	１３日　成績公開日（在学生）
	15	16	17	18	19	20	21	１９日　卒業証書授与式（前期末卒業）
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30						

注１．授業可能日数（試験期間を除く）
　月曜日（１５日）、火曜日（１５日）、水曜日（１５日）、木曜日（１５日）、金曜日（１５日）
注２．休業期間中の集中講義については、その都度周知する。
注３．8月7日（水）「試験予備日」は、大学全体として休講等の措置を行った場合における予備日とする。

○　後期（１０月１日～３月３１日）

	日	月	火	水	木	金	土	
10月			1 開学記念日	2 ①	3 ①	4 ①	5	１日　開学記念日 １日～７日　成績等への異議申立て期間（在学生）
	6	7 ①	8 ①	9 ②	10 ②	11 ②	12	２日　授業開始 ２日～１６日　登録変更期間
	13	14	15 ②	16 ③	17 ③	18 ③	19	１５日　AO（SS）入試
	20	21 ②	22	23 ④	24 ④	25 ④	26	
	27	28 ③	29 ③	30 ⑤	31 ⑤			
11月	日	月	火	水	木	金	土	
						1 ⑤	2	
	3	4	5 ④	6 月④	7 ⑥	8 ⑥	9	
	10	11 ⑤	12 ⑤	13 ⑥	14 ⑦	15 ⑦	16	
	17	18 ⑥	19 ⑥	20 ⑦	21	22	23	２１日、２２日　推薦・特別入試（未定）
	24	25 ⑦	26 ⑦	27 ⑧	28 ⑧	29 ⑧	30	
12月	日	月	火	水	木	金	土	
	1	2 ⑧	3 ⑧	4 月⑨	5 ⑨	6 ⑨	7	
	8	9 ⑩	10 ⑨	11 ⑨	12 ⑩	13 ⑩	14	
	15	16 ⑪	17 ⑩	18 ⑩	19 ⑪	20 ⑪	21	
	22	23 ⑫	24 ⑪	25 ⑪	26	27	28	
	29	30	31					１２月２６日～１月７日　　冬期休業期間
1月	日	月	火	水	木	金	土	
				1	2	3	4	１２月２６日～１月７日　冬期休業期間 ８日　授業再開
	5	6	7	8 ⑫	9 ⑫	10 ⑫	11	１０日　卒業研究提出締切日　１７：００（４年次） １７日　午後センター試験準備
	12	13	14 ⑫	15 ⑬	16 ⑬	17 ⑬	18	（試験室を使用しなければ授業可） １８日、１９日　センター試験
	19	20 ⑬	21 ⑬	22 ⑭	23 ⑭	24 ⑭	25	１月２２日～２月４日の５限目　補講時間
	26	27 ⑭	28 ⑭	29 ⑮	30 ⑮	31 ⑮		
2月	日	月	火	水	木	金	土	
							1	
	2	3 ⑮	4 ⑮	5 ⑯	6 ⑯	7 ⑯	8	２月５日～２月１２日　　期末試験 １３日　試験予備日
	9	10 ⑯	11	12 火⑯	13 **予備日**	14	15	１８日　成績報告締切日（４年次） ２０日　成績公開日（４年次）
	16	17	18	19	20	21	22	２０日～２６日　成績等への異議申立て期間（４年次） ２４日（午後）入試準備
	23	24	25	26	27	28	29	２５日、２６日　一般選抜試験 ２７日　成績報告締切日（１～３年次）
3月	日	月	火	水	木	金	土	
	1	2	3	4	5	6	7	２月下旬～３月上旬　集中講義
	8	9	10	11	12	13	14	１１日～３１日　春期休業期間 １３日　成績公開日（在学生）
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	２４日　卒業証書授与式
	29	30	31					

注１．授業可能日数（試験期間を除く）

月曜日（１５日）、火曜日（１５日）、水曜日（１５日）、木曜日（１５日）、金曜日（１５日）

注２．休業期間中の集中講義については、その都度周知する。
注３．2月13日(木)「試験予備日」は、大学全体として休講等の措置を行った場合における予備日とする。

・　当該現況分析単位に関する「協定等に基づく留学期間別日本人留学生数」

（単位：人）

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	計
学生数	７７０	７６７	７６５	２,３０２
１か月未満	０	１３	１０	２３
１か月以上 ３か月未満	０	０	０	０
３か月以上 ６か月未満	０	０	０	０
６か月以上 １年未満	１	２	１	４
１年以上	０	０	０	０
不明	０	０	０	０

※　本様式記入に当たっての定義については、独立行政法人日本学生支援機構が毎年度実施している「留学生調査」記入要領のうち「【４】日本人学生留学状況調査」によるものとしてください。

なお、学生数については、各年度の５月１日現在としてください。

【調査票】

教育：8101-i4-5
教育に関する現況調査表（体育学部）

A 基本情報

学校種	大学・大学院	学校名	鹿屋体育大学
担当部署	教務課キャリア支援係	担当者名	伊地知　貴之
連絡先（TEL）	0994-46-4883	連絡先（e-mail）	gaku-in@nifs-k.ac.jp

大学・短期大学・高等専門学校におけるインターンシップ実施状況等調査

平成29年度　実施状況

インターンシップ実施状況①

B 学校名	C 学校基本調査分類	D 学部名／研究科名	E 学科名／専攻名	F 授業科目名	基本データ G 単位数	H 資格取得	I 必修選択	J 国内・海外	K 学年等別参加学生数（人） 合計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	専攻科1年	専攻科2年	修士1年	修士2年	博士1年	博士2年	博士3年	専門職1年	専門職2年	専門職3年	別科	留学生（学年不問）	その他	その他の内容	L 実習月 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	不明
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	教育実習Ⅰ	5	○	選択・必修	国内	75				73					1	1												○	○			○	○						
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	教育実習Ⅱ	4	○	選択・必修	国内	20				20																	○	○			○	○						
鹿屋体育大学	教育	体育学部	武道課程	教育実習Ⅰ	5	○	選択・必修	国内	26				26																	○	○			○	○						
鹿屋体育大学	教育	体育学部	武道課程	教育実習Ⅱ	4	○	選択・必修	国内	7				7																	○	○			○	○						
鹿屋体育大学	教育	体育学部	科目等履修生	教育実習Ⅰ	5	○	選択	国内	9																		9	科目等履修生		○	○			○	○						
鹿屋体育大学	教育	体育学部	科目等履修生	教育実習Ⅱ	4	○	選択	国内	－																		－														
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	介護等体験	1	○	選択・必修	国内	69			67	2																			○	○	○	○	○	○	○				
鹿屋体育大学	教育	体育学部	武道課程	介護等体験	1	○	選択・必修	国内	24			24																			○	○	○	○	○	○					
鹿屋体育大学	教育	体育学部	科目等履修生	介護等体験	1	○	選択	国内	1																		1	科目等履修生				○		○						
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	スポーツコーチ実習(1週−陸上競技)	1		選択・必修	国内	20			17	3																	○	○	○		○	○					
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	スポーツコーチ実習(1週−水泳)	1		選択・必修	国内	12			11	1																		○	○			○						
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	スポーツコーチ実習(1週−体操競技)	1		選択・必修	国内	1			1																						○							
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	スポーツコーチ実習(1週−バレーボール)	1		選択・必修	国内	5			4	1																			○	○									
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	スポーツコーチ実習(1週−バレーボール)	1		選択・必修	海外	1			1																						○							
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	スポーツコーチ実習(1週−バスケットボール)	1		選択・必修	国内	－			－																													
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	スポーツコーチ実習(1週−サッカー)	1		選択・必修	国内	14			12	2																					○	○							
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	スポーツコーチ実習(1週−テニス)	1		選択・必修	国内	15			4	11																				○	○	○	○	○					
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	スポーツコーチ実習(1週−テニス)	1		選択・必修	海外	2			2																							○							
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	スポーツコーチ実習(1週−海洋スポーツ)	1		選択・必修	国内	5			4	1																						○	○						
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	スポーツコーチ実習(1週−自転車競技)	1		選択・必修	国内	10			9	1																			○										
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	スポーツコーチ実習(2週−陸上競技)	2		選択・必修	国内	－			－																													
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	スポーツコーチ実習(2週−水泳)	2		選択・必修	国内	1			1																								○						
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	スポーツコーチ実習(2週−体操競技)	2		選択・必修	国内	2			2																								○						
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	スポーツコーチ実習(2週−バレーボール)	2		選択・必修	国内	－			－																													
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	スポーツコーチ実習(2週−バスケットボール)	2		選択・必修	国内	－			－																													
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	スポーツコーチ実習(2週−サッカー)	2		選択・必修	国内	－			－																													
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	スポーツコーチ実習(2週−テニス)	2		選択・必修	国内	－			－																													
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	スポーツコーチ実習(2週−海洋スポーツ)	2		選択・必修	国内	－			－																													
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	スポーツコーチ実習(2週−自転車競技)	2		選択・必修	国内	－			－																													
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	生涯スポーツ指導実習2週−コミュニティスポーツ	2		選択・必修	国内	10			10																								○	○						
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	生涯スポーツ指導実習2週−健康・体力	2		選択・必修	国内	14			13	1																			○	○			○						○	
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	生涯スポーツ指導実習2週−野外教育	2		選択・必修	国内	1			1																							○							
鹿屋体育大学	教育	体育学部	武道課程	武道指導実習(1週−柔道)	1		選択・必修	国内	11			11																							○				○	○		
鹿屋体育大学	教育	体育学部	武道課程	武道指導実習(1週−剣道)	1		選択・必修	国内	39			39																			○	○				○	○	○				
鹿屋体育大学	教育	体育学部	武道課程	武道指導実習(2週−柔道)	2		選択・必修	国内	－			－																													
鹿屋体育大学	教育	体育学部	武道課程	武道指導実習(2週−剣道)	2		選択・必修	国内	－			－																													
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	企業実習(1週)	1		選択・必修	国内	2			2																							○	○						
鹿屋体育大学	教育	体育学部	スポーツ総合課程	企業実習(2週)	2		選択・必修	国内	－			－																													
鹿屋体育大学				正課外				国内	4		1	2						1															○	○					○		
									403	－	1	237	149	－	－	－	－	2	3	－	－	－	－	－	－	－	1	10	－													

【調査票】

政府統計

統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護

インターンシップ実施状況②																		
M 実習期間	N 実習地域									O 海外インターンシップ		P 報酬		Q-1 在学中にインターンシップに参加した学生数（特定の資格取得に関係しないもの）	Q-2 うち大学（学部）	Q-3 うち単位認定あり	Q-4 うち大学院	Q-5 うち単位認定あり	R インターンシップ実施にあたり課題となっている事柄があれば記載をお願いします。
	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	不明	国名	その他の国名	有無	内訳						
3週間～1ヶ月未満		1	5	6	12	5	4	42				無		23	21	21	2	2	
2週間～3週間未満	1	1		2	4	2		10				無							
3週間～1ヶ月未満		1	3	3	4	2	1	12				無							
2週間～3週間未満		1				2		4				無							
3週間～1ヶ月未満					1			8				無							
2週間～3週間未満																			
1週間～2週間未満								69				無							
1週間～2週間未満								24				無							
1週間～2週間未満								1				無							
1週間～2週間未満								20				無							
1週間～2週間未満		1		1	2	2	1	5				無							
1週間～2週間未満								1				無							
1週間～2週間未満			3		1			1				無							
1週間～2週間未満										カナダ		無							
1週間～2週間未満																			
1週間～2週間未満			1	2	2	1		8				無							
1週間～2週間未満								15				無							
1週間～2週間未満										中国		無							
1週間～2週間未満						1		4				無							
1週間～2週間未満								10				無							
2週間～3週間未満																			
2週間～3週間未満								1				無							
2週間～3週間未満								2				無							
2週間～3週間未満																			
2週間～3週間未満																			
2週間～3週間未満																			
2週間～3週間未満																			
2週間～3週間未満																			
2週間～3週間未満																			
2週間～3週間未満			2		1	1		6				無							
2週間～3週間未満				1	2	2	1	8				無							
2週間～3週間未満								1				無							
1週間～2週間未満			1		1			9				無							
1週間～2週間未満								39				無							
2週間～3週間未満																			
2週間～3週間未満																			
1週間～2週間未満								2				無							
2週間～3週間未満																			
2週間～3週間未満			2					2				無							
	1	5	17	15	30	18	7	304	－										

授業科目へのアクティブ・ラーニング（AL）の導入率

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
アンケート回収率	8.3%	82.5%	100.0%	100.0%
Stage1（１点）以上の割合	100.0%	98.6%	100.0%	100.0%
ALの導入率	88.3%	81.3%	100.0%	100.0%

アクティブ・ラーニングの到達度評価シートver1.3

Stage1	Stage2	Stage3	Stage4
質問の投げかけ・受け付け・それに応じた説明をある程度は行っている。	質問の投げかけ・受け付けをし・それに応じた説明を十分に行っている。	グループで，課題を解決するための学習・調査・考察等を行ったり，事前に与えたテーマについて議論を行い，その成果物を作成させている。発表も行わせている。	課題を解かせて提出させ，その解説等を行っている。また，基本的事項の説明を行った上で，鍵となる概念について学生同士で教え合いを行わせたり，確認させたりしている。プレゼンテーションでは，その場で与えたテーマについてグループで議論させ，発表させている。

NIFS GALLERY 改装について

アクティブ・ラーニング等や学内における学生の主体的な学修・協働学習を支援する環境の整備として、NIFS GALLERY 改装を行いました。

利用時間　平日 9 時から 17 時の時間帯で、特定のイベント・行事、見学等がある時間を除き、予約なしで自由に利用できます。

利用に必要な装備品（ホワイトボード、マーカーペン、マグネットなどなど）がありましたら学術図書情報課図書サービス係（内線 4874）までご連絡ください。

なお、特定のイベントなどで一定時間、GALLERY 全体（または一部）を独占的に利用したい場合も、図書サービス係までご連絡ください。

○組み合わせ自由なテーブル（可動キャスター付き）

勾玉型テーブル　7台　円形テーブル　 1台

○キャスター付き椅子（座面の下に小物がおける収納付き） 32 脚

○ハイカウンターテーブル 6 席（電源コンセント付き）

○窓ブラインドをロールスクリーンへ変更。

図書館フリースペースの名称について

2019 年 4 月より、図書館 1 階（旧事務室（研究支援係・国際交流係））に、

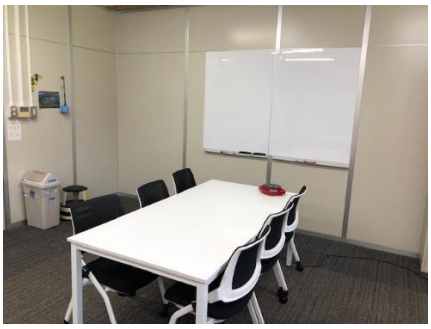
ゆっくり座って、動画チェック、電子ブック閲覧などできる 1 人掛けソファ

打ち合わせなどが可能なテーブル

ホワイトボードシード（貼り付けタイプ）

テレビ

などを設置して、自由に利用できるようにした。ラーニングコモンズの機能をもたせた空間としている。



利用時間は、図書館開館時間と同じく

平日　　９：００－２１：００

土曜　　９：００－１７：００

日曜　１３：００―１７：００

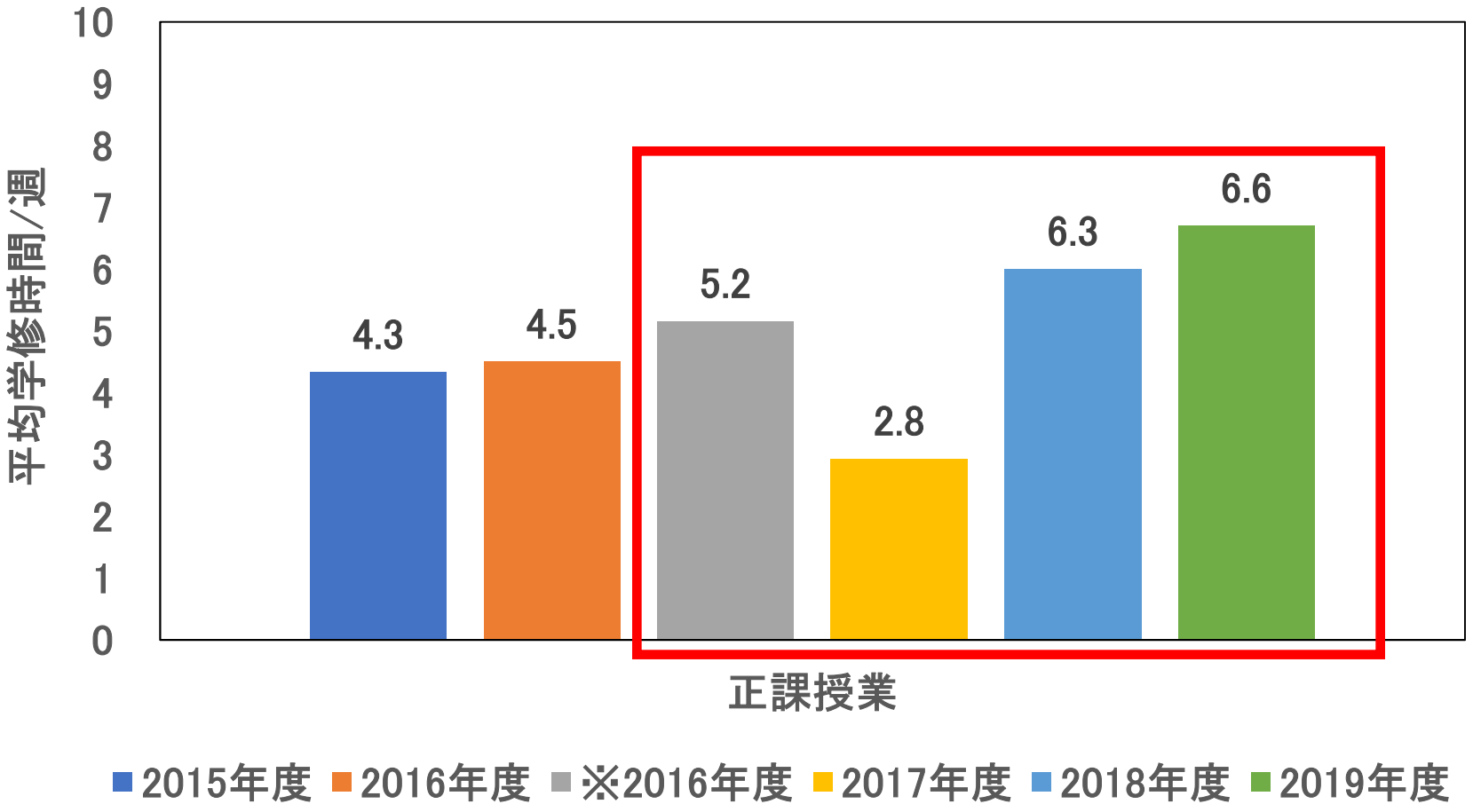
としている。

占有使用については、図書サービス係で予約を受け付け、その時間帯の利用は制限する予定である。

ついては、このフリースペースの名称を定めたい。

候補　「NIFS らこも」、「NIFS ラーコモ」

2019年度 授業外学習時間調査の結果(20200609集計)

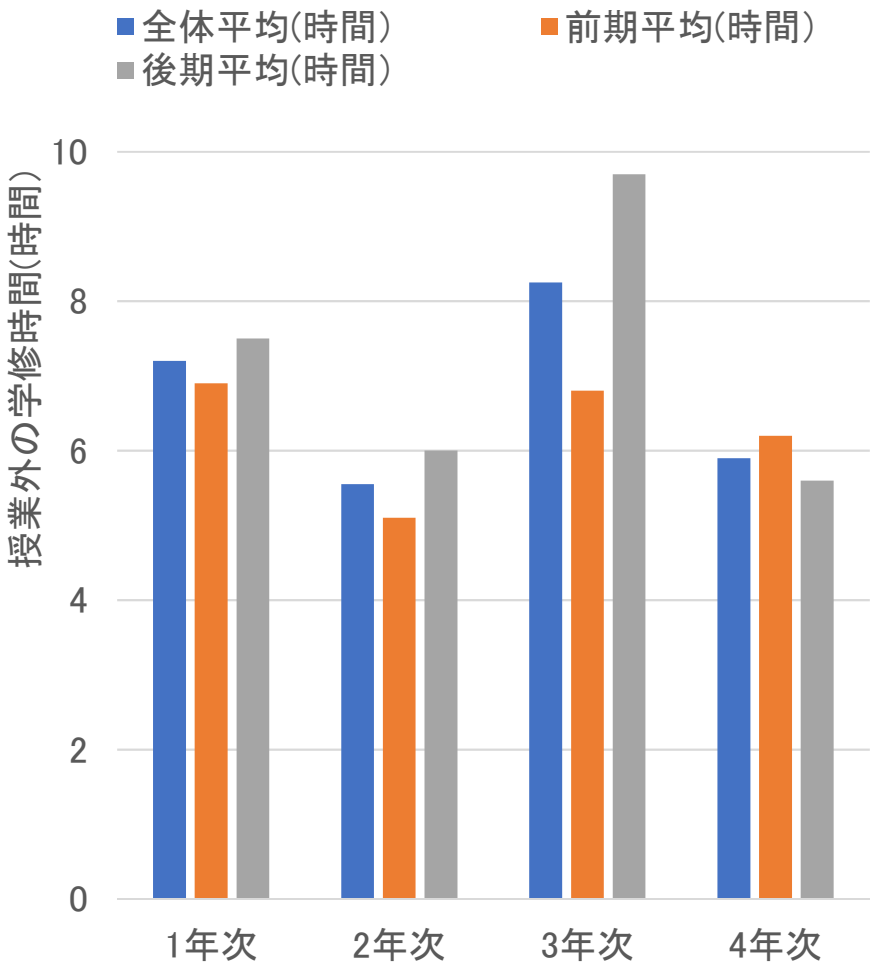


※計算の簡便化のため、各カテゴリの中間値の時間を用いている。
なお、前後が2倍ずつ増えているため、「30h以上」には「45時間」を用いている。

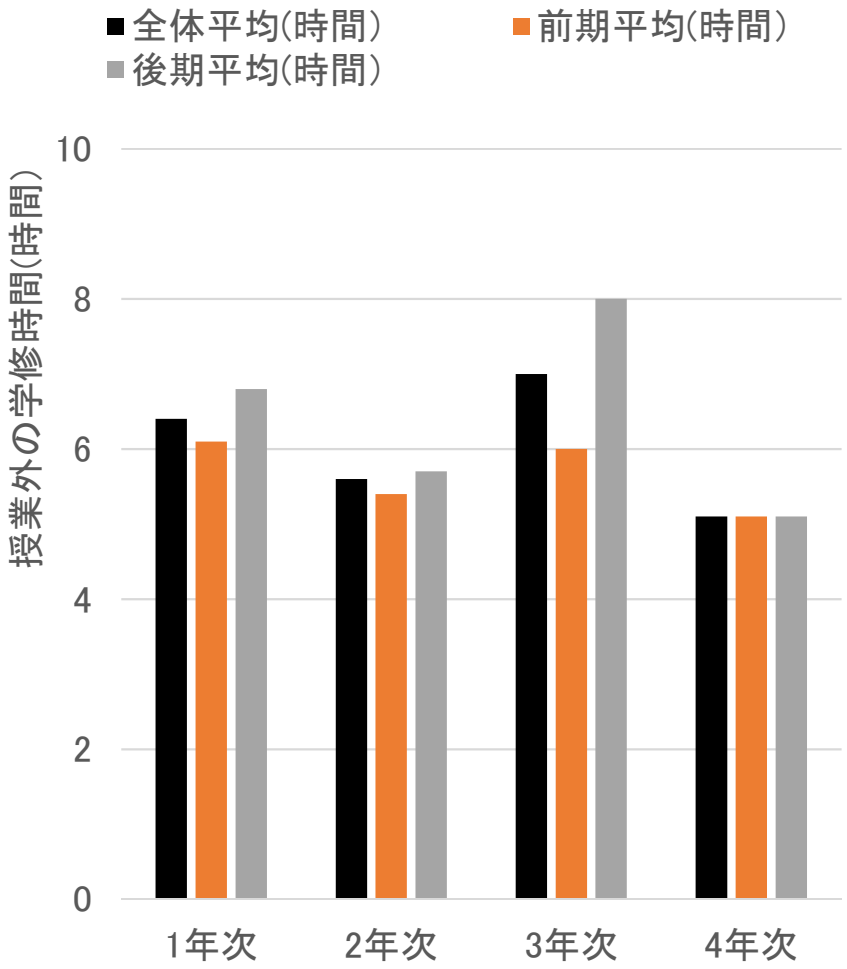
参考資料：国立教育政策研究所（http://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_digest_h29/gaiyou.pdf）

2019年度 授業外学習時間調査の結果(20200609集計)

2019年度

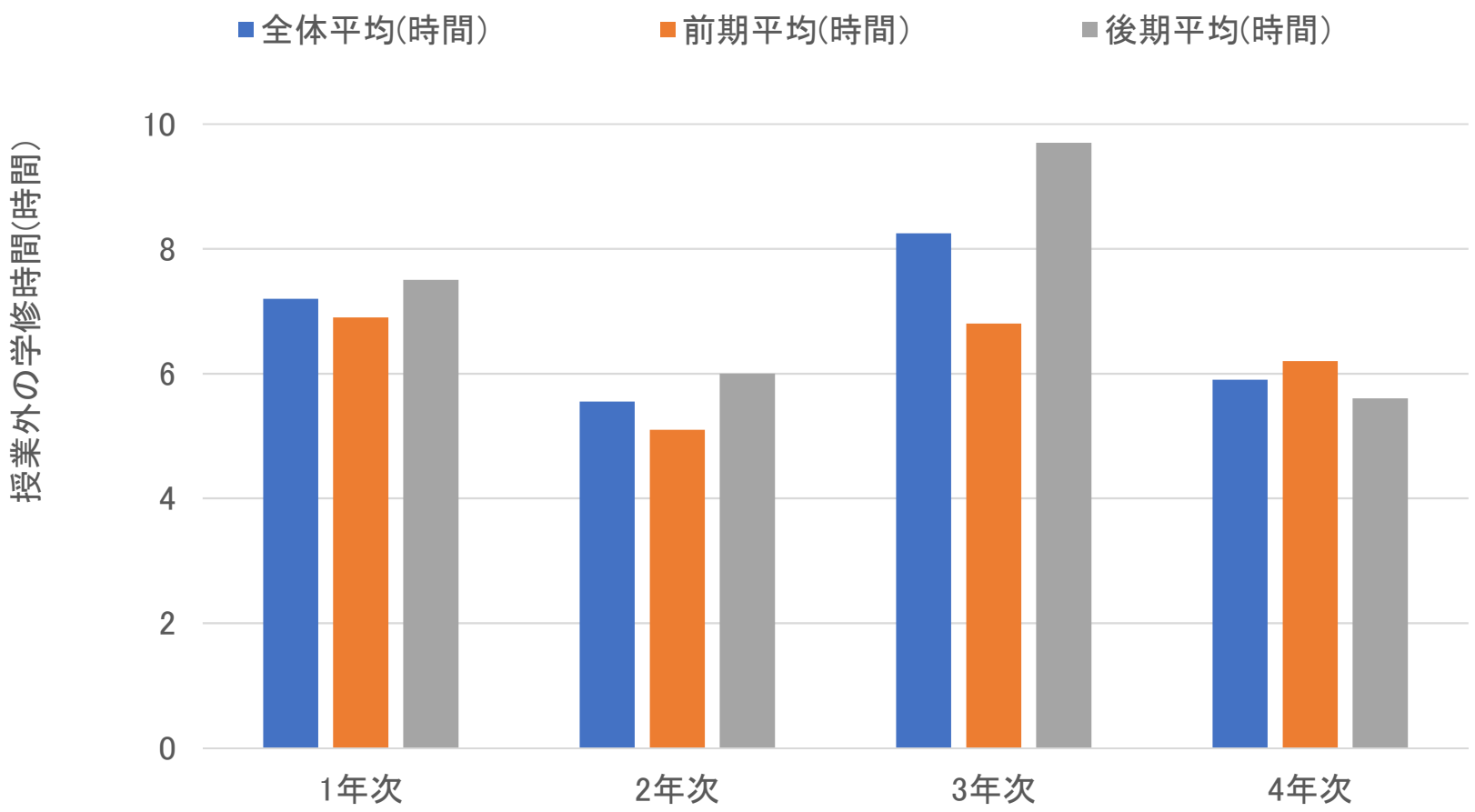


2018年度



2年生を除いた各学年で1時間ほどの学修時間が増加している

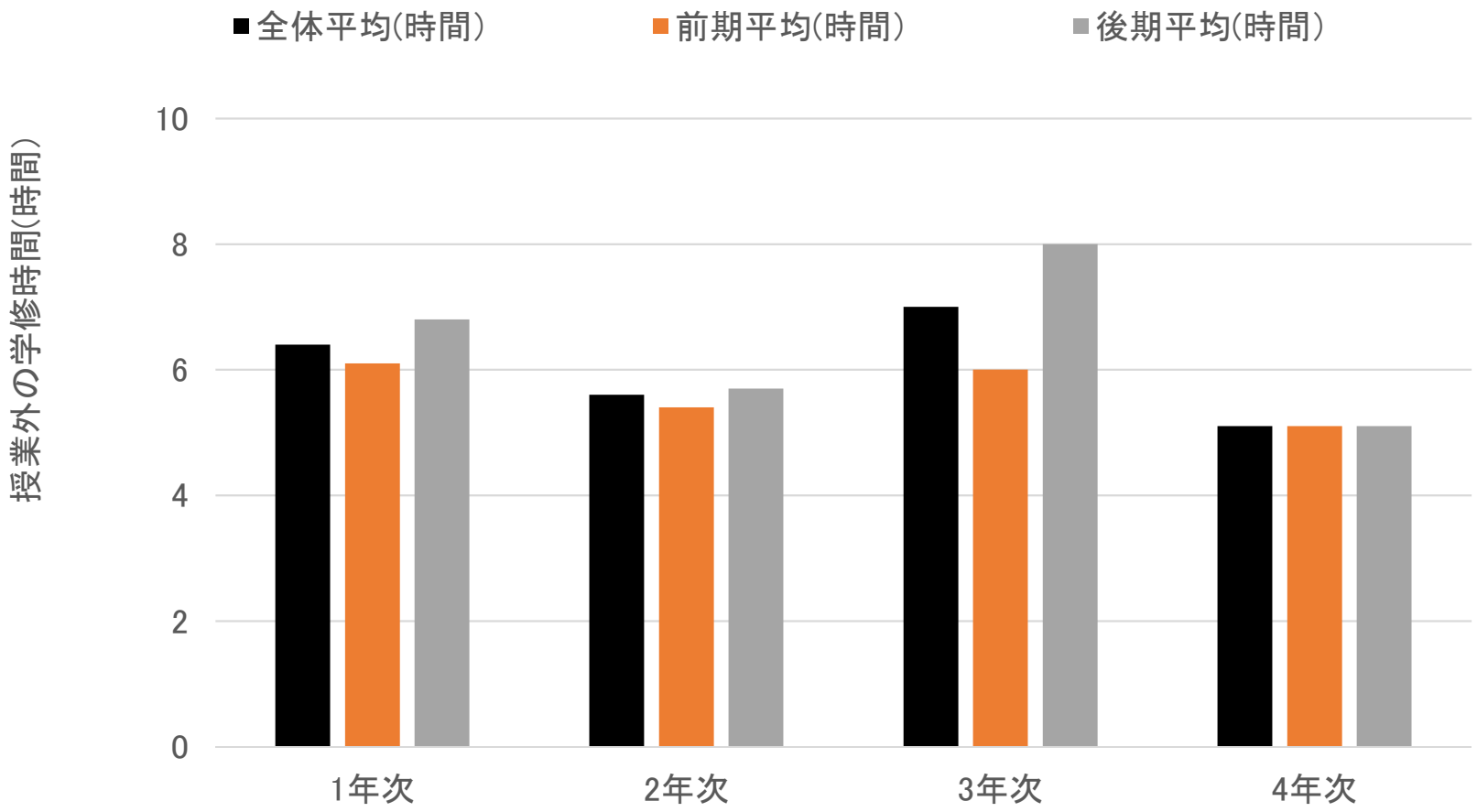
2019年度 授業外学習時間調査の結果(20200609集計)



※計算の簡便化のため、各カテゴリの中間値の時間を用いている。
なお、前後が2倍ずつ増えているため、「30h以上」には「45時間」を用いている。

参考資料:国立教育政策研究所(http://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_digest_h29/gaiyou.pdf)

2018年度 授業外学習時間調査の結果(201906集計)



※計算の簡便化のため、各カテゴリの中間値の時間を用いている。
なお、前後が2倍ずつ増えているため、「30h以上」には「45時間」を用いている。

参考資料:国立教育政策研究所(http://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_digest_h29/gaiyou.pdf)

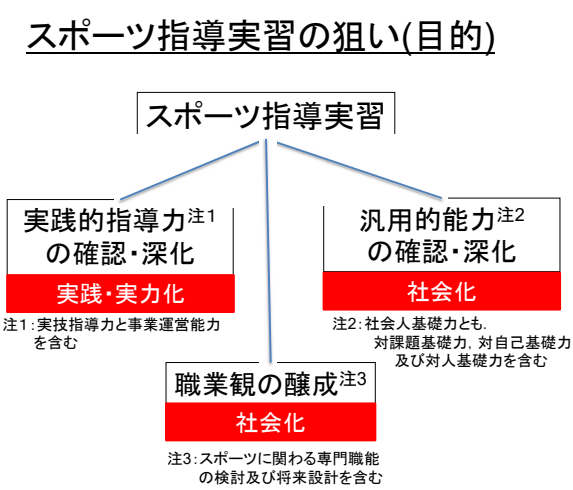
スポーツ指導実習の手引き

Ⅰ．実習の目的

■ スポーツ指導実習の目的と概要

下図は、本学における卒業認定・学位授与の方針（DP：ディプロマポリシー）で示された、卒業時に本学学生が身につけることを期待される能力と教育課程との関係を示したものです。その中で、３年次に履修する「スポーツ指導実習」は、学内で学んだ理論と実践をつなぐ重要な科目として位置づけられています。

本指導実習は、専門科目や専修科目等で身につけた学修を基礎に、学外者を対象とした指導現場における実地的・実践的な実習を通じて、体系的な実技指導力や事業運営力を深めることを狙いとして実施されるものです。また、スポーツリーダーとしての将来像と職業観・就業観を醸成できるような、専門のスポーツ教育及び就業教育における学びの有機的な統合の（職場体験的な）場となることも期待されています（右下図）。



実習のコースとしては、以下に示すように大きく３つあり、専攻(科目)系・専修科目と同一の実習を１科目、必ず選択・履修しなければなりません。そして、各コース内の種目や活動を一つ選択し、履修します。

課程	武道課程	スポーツ総合課程	
専修科目の系	武道系	ｱｽﾘｰﾄ・ｺｰﾁﾝｸﾞ系	生涯スポーツ系
実習のコース	武道指導実習	スポーツコーチ実習	生涯スポーツ指導実習
各系・コースにおける人材養成のねらい	武道における「こころ」と「わざ」を伝統的修練形式により学び，武道の実技指導を行うことができる人材を養成する	トップレベルの競技力の向上，ジュニア期からトップレベルまでのコーチングを行うことが出来る人材を養成する	健康づくりのコーディネイトやスポーツクラブ等の管理運営，プログラム開発を行うことができる人材を養成する
	柔道	陸上競技	コミュニティスポーツ
	剣道	水泳	健康・体力
		体操競技	野外教育
		バレーボール	
		バスケットボール	
		サッカー	
		テニス	
		海洋スポーツ	
		自転車競技	

なお、武道課程の学生は、以下に示す①武道指導実習を修得しなければなりません。ただし、③生涯スポーツ指導実習も選択・履修することが可能となっています。

①武道指導実習（１単位以上）［武道課程は必修です］

・武道における「こころ」と「わざ」を伝統的修練形式により学び、武道の実技指導を行うことができる人材の養成を目指す専攻系、武道系の仕上げとして、以下の武道種目に特化した施設で行う指導実習のことです。

・柔道、剣道より一つの活動を選択します。

②スポーツコーチ実習（１単位以上）［スポーツ総合課程のみが選択可能です］

・ トップレベルの競技力の向上、ジュニア期からトップレベルまでのコーチングを行うことが出来る人材の養成を目指す専攻系、アスリート・コーチング系の仕上げとして、以下のスポーツ種目に特化した施設で行う指導実習のことです。

・ 陸上競技、水泳、体操競技、バレーボール、バスケットボール、サッカー、テニス、海洋スポーツ、自転車競技より一つの活動を選択します。

③生涯スポーツ指導実習（２単位）［武道及びスポーツ総合課程で選択が可能です］

・健康づくりのコーディネイトや、スポーツクラブ等の管理運営、プログラム開発を行うことができる人材の養成を目指す専攻系、生涯スポーツ系の仕上げとして、以下の活動に特化した施設で行う指導実習のことです。

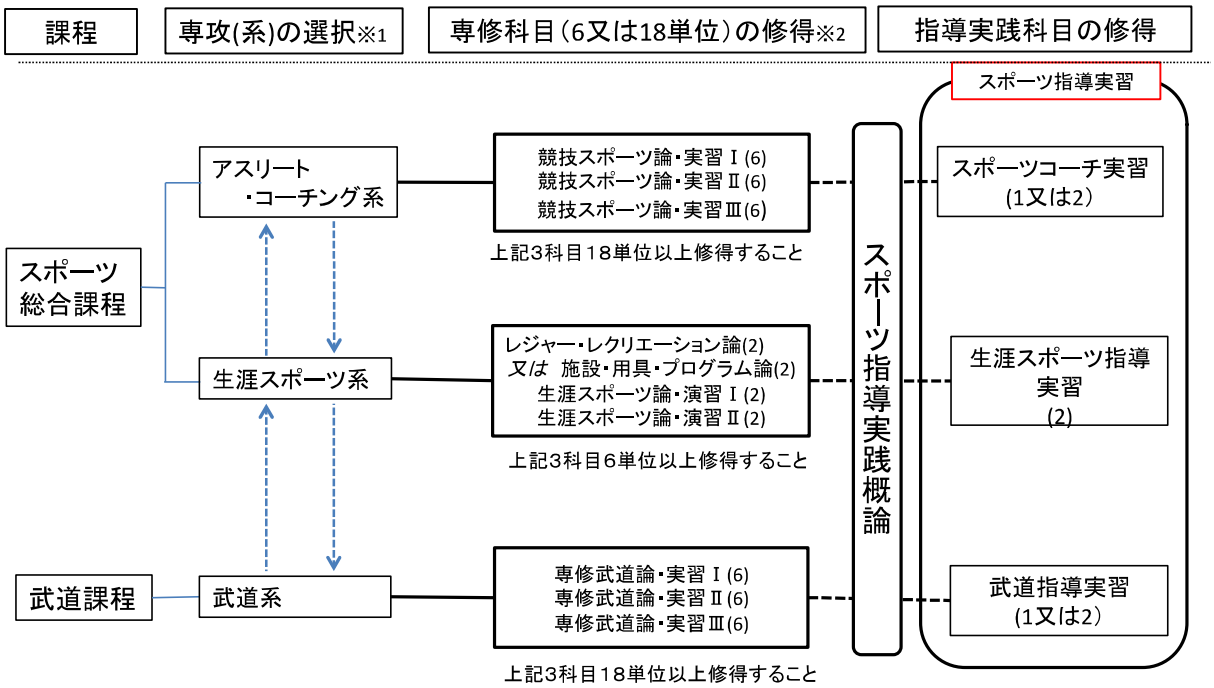
・コミュニティスポーツ、健康・体力、野外教育より一つの活動を選択します。

１） コミュニティスポーツ：地域住民を対象としたスポーツ実践全般

２） 健康・体力：健康づくりや体力づくりに特化したスポーツ実践

３） 野外教育：野外教育施設でのプログラムの企画運営、野外教育活動の実践

以下の図は、専攻（科目）における系の選択、専修科目での求められる修得科目、スポーツ指導実習等との関係を示したものです。履修すべき科目等を確認して下さい。



※1）決められた条件の中で、１つの系以上を選択できるものとする。スポーツ総合課程では２つの系より選択できます。

※ 2）各系の必修科目を示しています。

※ 3）選択した系以外の履修可能な他系を- - -►で示す。

Ⅱ．実習のタイプと実習先

■実習のタイプ（※）

- 本実習の履修は原則として 3 年次ですが、実習先の実質的な選考・認定等の準備については 2 年次後期から行います。本実習に関する準備は、1年次後期のスポーツ指導実践概論から順次行います。なお、2年次の後期には、各コースでガイダンスを行います。
- 実習の履修タイプとして、以下の２つがあります。後述する実習場所と合わせると、右表のように４つ実習スタイルがあります.

なお、生涯スポーツ指導実習は短期集中履修タイプで、２単位となっています。

① 短期集中履修タイプ:

- １単位を修得する場合（１週間かつ３０時間以上の実習が必要）
- ２単位を修得する場合（２週間かつ６０時間以上の実習が必要）

② 長期分散履修タイプ

- １単位を修得する場合（積み重ねて３０時間以上の実習が必要）
- ２単位を修得する場合（積み重ねて６０時間以上の実習が必要）

※　3年次編入生は、4年次に本実習を履修することになります。詳細は、3年次編入生の取扱事項を参照して下さい。

■ 実習先

実習のタイプ		実習場所	
		学外での実習（インターンシップ型）	学内での実習（イントラシップ型）
履修期間	短期集中履修タイプ	短期/インターン型	短期/イントラ型
	長期分散履修タイプ	長期/インターン型	長期/イントラ型

- スポーツ指導実習では、学外者を対象とした指導現場における実地的・実践的な実習を通じて、体系的な実技指導力や事業運営力を深めることを狙いとして実施されるものです。
- 具体的には、本学教員が企画・運営している学内及び大学近郊で行われている公開講座、総合型地域スポーツクラブ等で、一定期間に渡り分散して（夕方等2時間の実質指導を１ヶ月間実施する等）、学外者を対象とした指導実習ができるようにした点です。これを従来の学外施設で、短期集中で履修する**「インターンシップ型実習」**と区別するために、本学では**「イントラシップ型実習」**と呼ぶことにします。

【インターンシップ型実習の実習先（施設）の例】

① 各地方公共団体、地方公社等が管理運営する総合体育館や競技場等の公共施設
② 地域住民もしくは勤労者等を対象としたスポーツ、フィットネスプログラムを有する民間施設
③ 事業所内に従業員の利用を対象とした体育・スポーツ施設を有し、かつ従業員のための各種フィットネスプログラムやレクリエーションプログラムを実施している企業
④ 企業フィットネスプログラムを有する民間施設
⑤ 企業フィットネスプログラムを有する厚生労働省の施設
⑥ 公共機関が設置する青少年野外教育施設
⑦ 民間団体が管理・運営する野外教育施設
⑧ 競技スポーツ・武道種目に特化した施設
⑨ 競技者サポートが可能な施設
⑩ 大学近郊の学校等におけるクラブ指導
⑪ その他体育・スポーツ活動、スポーツ科学、プロスポーツ団体、健康づくり、野外教育等に関わる施設で指定認定の基準を満たす施設

なお、これらの実習先（施設）は、実習生の受入れ体制が整っている以下の指定・認定基準を満たしていることが条件となります。さらに、効果的な実習を行うために、原則として 1 施設につき 1～2 名までとします。

＜指定・認定基準＞
- 実習担当指導スタッフの配置と指導体制が確立させている
- 継続的な実習プログラムの実施が可能である
- 実習に必要な体育・スポーツ・野外教育施設を有している
- 単位認定に必要な時間数の受け入れが可能である
  （履修要項 p.23、スポーツ指導実習の項参照）
- その他の条件が整っている

【イントラシップ型実習の実習先の例】

① 本学教員が企画・運営する公開講座
② 本学教員が企画・運営する総合型地域スポーツクラブ
③ 本学教員が企画・運営する大会・練習会
④ その他、スポーツ指導実習小委員会が認めるもの

なお、これらの実習先（施設）は、実習生の受入れ体制が整っている以下の指定・認定基準を満たしていることが条件となります。

＜指定・認定基準＞
- 実習担当指導スタッフの配置と指導体制が確立させている
- 継続的な実習プログラムの実施が可能である
- 実習に必要な体育・スポーツ・武道施設を有している
- 単位認定に必要な時間数の受け入れが可能である
  （履修要項 p.23、スポーツ指導実習の項参照）
- その他の条件が整っている

■ 実習先（施設）決定から実習実施のプロセス

スポーツ指導実習の実習先である施設や場所に関しては、原則的には学生の経済的負担面を考慮し、帰省先や現住所からの通勤が可能な地域ブロック内の場所を優先します。また、実習先は、実習担当教員との話し合いを経てから決定します。さらに、学生、実習担当教員並びに実習先の責任

者の三者が事前に綿密な連絡をとり、十分な実習体制を整えてから実習に臨みます。

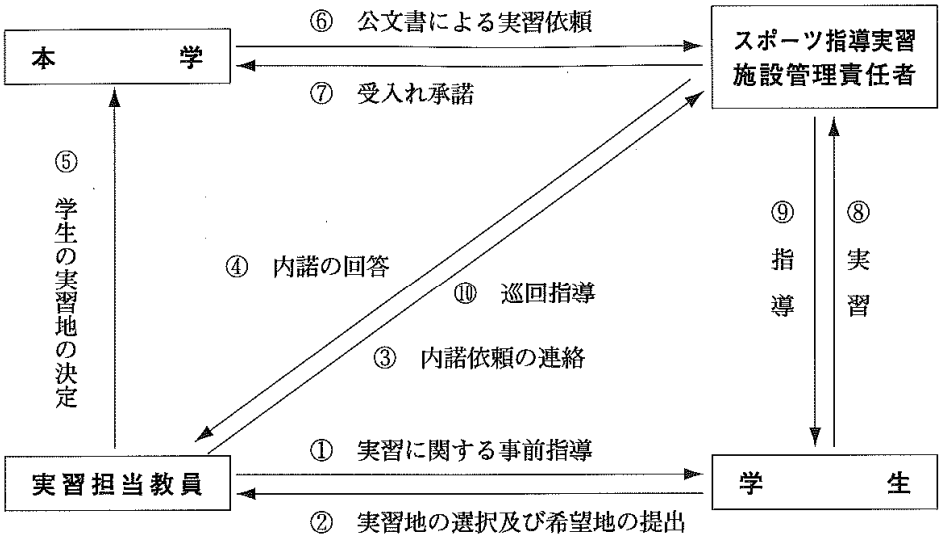


図. 実習施設決定から実習実施のプロセス

Ⅲ．実習の内容

本学のスポーツ指導実習は、スポーツ等の実技指導力や事業運営能力を深めることを狙いとして実施されます。右表は、各スポーツ指導実習で学修が期待される内容について、示したものです。

しかし、具体的に何を実習するかについては、各実習先での事情を考慮し、詳細は実習先の責任者の指示に従うものとします。

なお、この実習は本学の授業の一環として実施されるものです。実習先と学生間での雇用契約の締結および報酬等の接受については、一切認めていません。

【各実習で学修が期待される内容】

① 実習先の実態把握
② 実技指導もしくはその補助
③ 運営もしくはその補助
④ 支援（研究）もしくはその補助
⑤ プログラム作成もしくは補助
⑥ 施設，用具等の管理・運営
⑦ 理論的学習
⑧ その他

【各スポーツ指導実習における実習内容や特徴】

①武道指導実習（１単位以上）

武道課程の学生で武道種目（柔道・剣道）に特化した内容での実習です。その内容は、地域の道場やスポーツ少年団における指導（補助）、中学校などにおける部活動の指導補助、武道種目に特化した団体等（警察や実業団のチーム等）における講座・研修会等における指導（補助）、その他に柔道や剣道の大会の運営（審判含む）に関与した活動を一定期間おこない、単位を認定するものです。「専修武道論・実習」で身につけた体系的な実技指導力を実地的に活用できるのが特徴です。

②スポーツコーチ実習（１単位以上）

スポーツ総合課程の学生でスポーツ種目に特化した内容での実習です。その内容は、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団における指導（補助）、中学校などにおける部活動の指導補助、スポーツ種目に特化した団体等（プロチームや実業団のチーム等）における講座・研修会等における指導（補助）、その他にスポーツの大会の運営（審判含む）に関与した活動を一定期間おこない、単位を認定するものです。「競技スポーツ論・実習」で身につけた体系的な実技指導力を実地的に活用できるのが特徴です。

③生涯スポーツ指導実習（２単位以上）

コミュニティスポーツ、健康・体力，野外教育の内容に合致した学外の施設において、背景、理論と実態の把握，体験，実技指導（指導補助を含む），プログラム作成（アシスタントを含む），施設の管理・運営等に従事した活動を一定期間おこない、単位を認定するものです。「生涯スポーツ論・実習」で身につけた体系的な実技指導力を実地的に活用できるのが特徴です。

＜参考＞「SCO-OP 実習」

SCO-OP 実習とは、スポーツ専門職での CO-OP 実習で、高度な専門家を養成するための産学連携で行う実習のことです。本プログラムは、3 年以上の学生（大学院生を含む）を対象とし、夏期または春期休業中に 4 週間(20 日勤務・160 時間)で 4 単位の実習を行います。実習先での雇用形態を問わず、有給でも構いません。

このプログラムに参加するためには、原則として、「スポーツ指導実習」の単位を修得した者で、かつＧＰＡスコアが上位の者で、授業担当教員が認めたものとします。

そこでの実習の主な内容は、①理論的学習と実態把握、②実務経験によるスキルアップ、③実技指導もしくはアシスタント、④施設の管理・運営、⑤ジョブハンティングに必要なノウハウの習得、⑥その他、があります。

Ⅳ. 指導体制と学修課題

【指導体制】

本実習の目的を遂行するための指導体制は、以下のとおりです。

①実習担当教員による事前準備教育

実習担当教員が学内での関連教育科目による理論的教育と、実習に関する各種実技指導を中心とする事前準備に関する教育を実施します。

②実習先での指導担当者による実習指導

実習先の指導担当者（イントラシップ型では実習担当教員となる場合もある）が、実習先での実際面での指導を行います。いずれの分野とも将来の専門家となるための指導の知識、技術面及び指導態度等に関する実習中の実践的な教育を実施します。

③実習担当教員による事後教育

実習担当教員は、学生の実習での体験の振り返りやレポート作成を支援します。その後、各施設での実習内容についての報告会を実施し、他の施設の現状を認識させ、最終レポートを作成する等の事後教育を実施します。

【学修課題】

スポーツ指導実習では、事前、事後の学習を含むと同時に、それぞれの学修課題を以下のように設定しています。

・事前学習：問題・課題発見，仮説の構築をする（概ね３年次専修科目）
・本実習：問題・課題探求，仮説の検証する（概ね３年次夏期休業中）
・事後学習：問題・課題解決，仮説の再構築（3 年次専修科目）

①事前学習

・スポーツ指導実習の意義・目的・内容の確認及びグループディスカッション
・実習先の選択及び施設等研究（実習先等研究レポートの作成）
・事前準備(履歴書の作成、挨拶状の作成、実習計画の作成:課題設定等)
・実習前のスポーツ指導力及び汎用的能力の事前評価（自己・実習担当教員）を行う
・事前準備の資料等作成や特別講義　など

②実習活動

・ 毎回の指導計画と指導内容・振り返りの記録を行う
・ 毎回の指導で、受入先からの評価等を受け取り、その後の指導についての改善点を示す
・ 実習中でのスポーツ指導力及び汎用的能力の評価（自己・実習担当者）を行う

③事後学習

・ 実習日誌の整理・分析
・ 礼状作成・発送
・スポーツ指導体験の分析・評価及び今後の展望
・スポーツ指導力及び汎用的能力の事後評価（自己・実習担当教員）を行う
・ 所感文の作成
・ 最終レポート
・ 発表資料の作成　など

Ⅴ．評価

本実習の評価は、以下の三つの評価事項から総合評価します。
評価事項の配点は、実習で若干異なりますので、シラバスや事前指導等で確認して下さい。

① 事前準備・学習に対する実習担当教員による評価

学内での事前の教育科目を通した実習担当教員による事前教育の評価、特に、実習生本人の実習目標と課題、さらには、そのための具体的な事前研修計画に関したレポートとその実施状況の評価

② 実習中の実習指導担当者による評価

スポーツ指導実習成績報告書における実習中の総合評価（別紙参照）

③ 実習日誌と最終レポートの内容に関する実習担当教員による評価

実習日誌と最終レポートの内容に関する評価

【可視化される評価項目】

・ 「実践的指導力」:「実技指導力」「事業運営力」（「科学的支援力」）「安全管理力」「研修・研究力」から構成されるものとする。当面は、「学生スポーツボランティア（以後、学生 SV）の実践的指導力」の評価項目及びシート等を手がかりに、各実習で適宜準備する（別紙１）。

・ 「社会人基礎力」: 学士及び社会人として求められ、評価される「汎用的能力」のこと。ＰＲＯＧテスト等でも用いられている評価項目を参考に作成された、簡易型の評価シートが用いられる(別紙２)。

		武道課程	スポーツ総合課程	
専修/実習ｺｰｽ / 養成する能力		武道系	ｱｽﾘｰﾄ･ｺｰﾁﾝｸﾞ系	生涯スポーツ系
		武道指導実習	スポーツコーチ実習	生涯スポーツ指導実習
		武道における「こころ」と「わざ」を伝統的修練形式により学び，武道の実技指導を行うことができる人材を養成する	トップレベルの競技力の向上，ジュニア期からトップレベルまでのコーチングを行うことが出来る人材を養成する	健康づくりのコーディネイトやスポーツクラブ等の管理運営，プログラム開発を行うことができる人材を養成する
アスリート力／武道者力		●	●	△
実技指導力	示範力	●	●	△
	評価力	●	●	△
	処方力	●	●	△
	コーチング力	●	●	●
事業運営力	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ等開発力	●	●	●
	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ等運営力	●	●	●
	事業ｺｰﾃﾞｨﾈｲﾄ力	○	○	●
	組織・施設ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ力	○	○	●
共通	安全管理力	●	●	●
	研修・研究力	●	●	●

スポーツ指導実習の履修登録者数と単位取得者数

2019/3/31現在　（単位：人）

実習関連授業科目		人数別	H28年度（2016年度）	H29年度（2017年度）	H30年度（2018年度）	R1年度（2019年度）
スポーツ指導実習	スポーツコーチ実習	履修登録者	96	118	115	116
		単位取得者	94	118	113	114
	生涯スポーツ指導実習	履修登録者	25	25	31	36
		単位取得者	24	25	30	35
		ｺﾐｭﾆﾃｨｽﾎﾟｰﾂ	6	10	12	28
		健康・体力	16	14	16	7
		野外教育	2	1	2	0
	武道指導実習	履修登録者	52	53	50	55
		単位取得者	52	51	50	54
単位取得者合計			170	194	193	203

※）平成28年度からスポーツ指導実習の必修化を開始。
なお、スポーツ指導実習は３年次必修だが、３年次編入生のみ４年次必修のため、
必修化初年度である平成28年度のみ、3年次編入生20名を除く約170名が履修対象者となる。

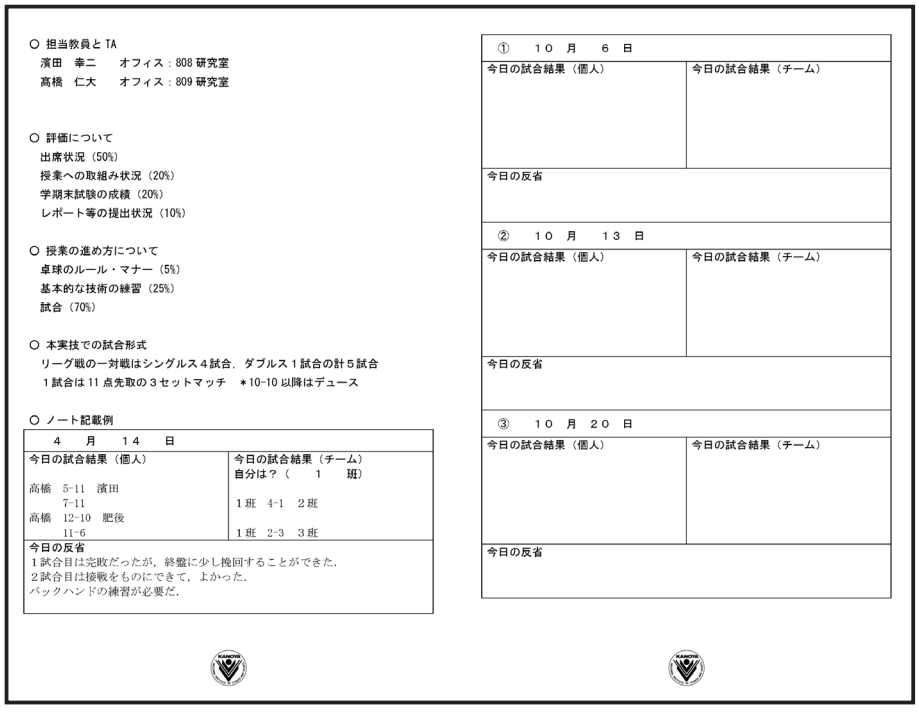
教育：8101-i4-11
教育に関する現況調査表（体育学部）

鹿屋体育大学 スポーツ情報センター広報
第7号（2017年3月発行）掲載

02 学習カルテを利用した実技映像データ収集の試行

鹿屋体育大学 スポーツ情報センター / スポーツ・武道実践科学系
髙橋　仁大

これまで筆者が担当してきた実技授業においては，「実技ノート」といった形式で，受講者の技術習得の過程や上達過程をテキストとして記録してきました（図 1）．この形式では，自身の感覚である主観的な記録は残るものの，映像や画像などの客観的な記録を残すことはできないため，受講者自身の過程を振り返るという意味では不完全といえました．



○ 担当教員と TA
濱田　幸二　　オフィス：808 研究室
髙橋　仁大　　オフィス：809 研究室

○ 評価について
出席状況（50%）
授業への取組み状況（20%）
学期末試験の成績（20%）
レポート等の提出状況（10%）

○ 授業の進め方について
卓球のルール・マナー（5%）
基本的な技術の練習（25%）
試合（70%）

○ 本実技での試合形式
リーグ戦の一対戦はシングルス４試合，ダブルス１試合の計５試合
１試合は 11 点先取の３セットマッチ　＊10-10 以降はデュース

○ ノート記載例

４　月　１４　日	
今日の試合結果（個人） 高橋　5-11　濱田 　　7-11 高橋　12-10　肥後 　　11-6	今日の試合結果（チーム） 自分は？（　１　班） １班　4-1　２班 １班　2-3　３班
今日の反省 １試合目は完敗だったが，終盤に少し挽回することができた． ２試合目は接戦をものにできて，よかった． バックハンドの練習が必要だ．	

①　１０　月　６　日	
今日の試合結果（個人）	今日の試合結果（チーム）
今日の反省	

②　１０　月　１３　日	
今日の試合結果（個人）	今日の試合結果（チーム）
今日の反省	

③　１０　月　２０　日	
今日の試合結果（個人）	今日の試合結果（チーム）
今日の反省	

図 1　卓球ノートのフォーマット

また，WebClass やダートフィッシュ TV を利用して，受講者の実技を実施してきた様子を記録していたこともありました（図 2）．このときは，映像や画像の客観的記録は残りましたが，それらの映像に付随した形で受講者の主観的情報を残さなかったことから，こちらも振り返る意味では不十分といえました．加えて，ビデオカメラによる撮影を実施していたことから，映像を記録するために専門の人員を配置し，さらに受講者ごとにライブラリ化するためには，膨大な時間をかけて映像を編集する作業が必要でした．

図3　撮影の様子

図4　撮影に用いたカメラ

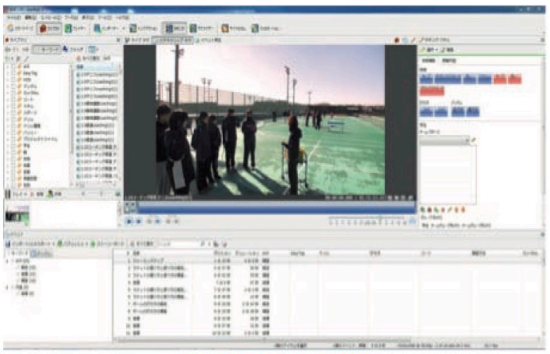


図5　ダートフィッシュでのタグ付け

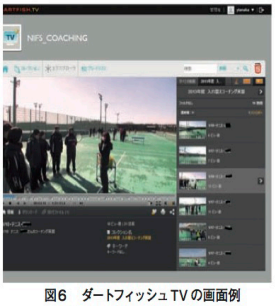


図6　ダートフィッシュ TV の画面例

図２　ダートフィッシュ TV の利用

（スポーツ情報センター広報第５号 http://itec.nifs-k.ac.jp/bulletin/2014.pdf,p31）

タブレットを用いてこれらの課題を解決できないかということで，WebClass の学習カルテの機能を用いて，映像データの収集とそのときの主観的情報を加えた，実技科目で活用可能な方法を試行しました．

対象とした科目は「競技スポーツ論・実習（テニス）」です．WebClass の学習カルテには，授業に対するコメントを記入する欄と，映像データを提出する欄を設けます（図 3）．実際の授業では，課題とする実技を行う際に，タブレットを用いて映像を撮影することを受講者に指示します．

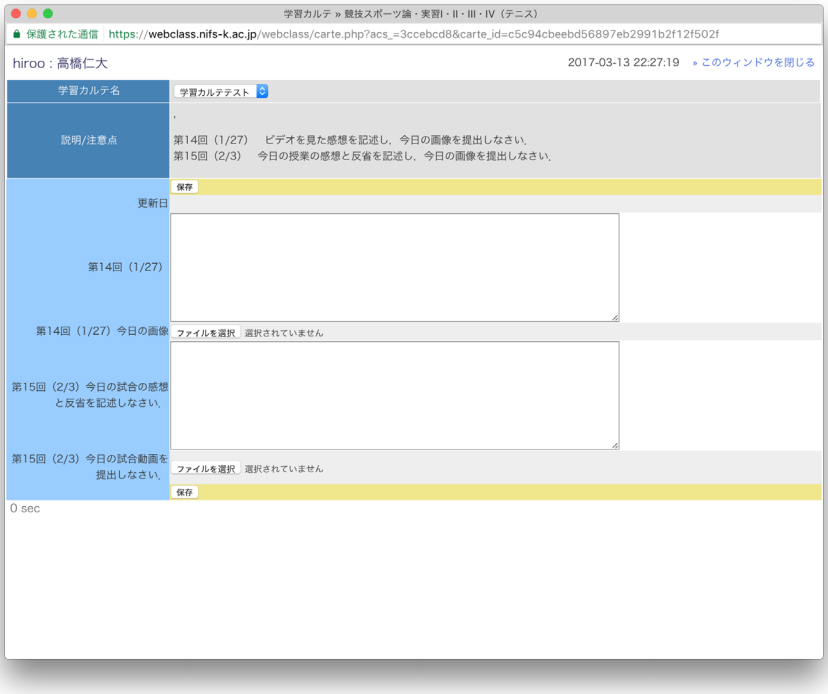


図 3　学習カルテ入力画面例

授業終了後は，タブレットを用いて実技に対するコメントを学習カルテに書き込みます．また，課題とする実技の映像を受講者自身で 1 つ選び，学習カルテに保存します．

学習カルテでは，受講者ごとに記録が残っていくことから，受講者自身による振り返りが可能です．学習カルテによる振り返りには，主観的情報と客観的情報が合わせてあることから，自身の技術習得の過程をより明確に振り返ることができるようになります（図 4）．

図４　入力後の学習カルテ例

教員からは，受講者のコメントを csv ファイルで取得できます（図 5）．映像データについては，授業回ごとに受講者ごとのデータをダウンロードしなければならず，その点の使い勝手には改善の余地があるようです．

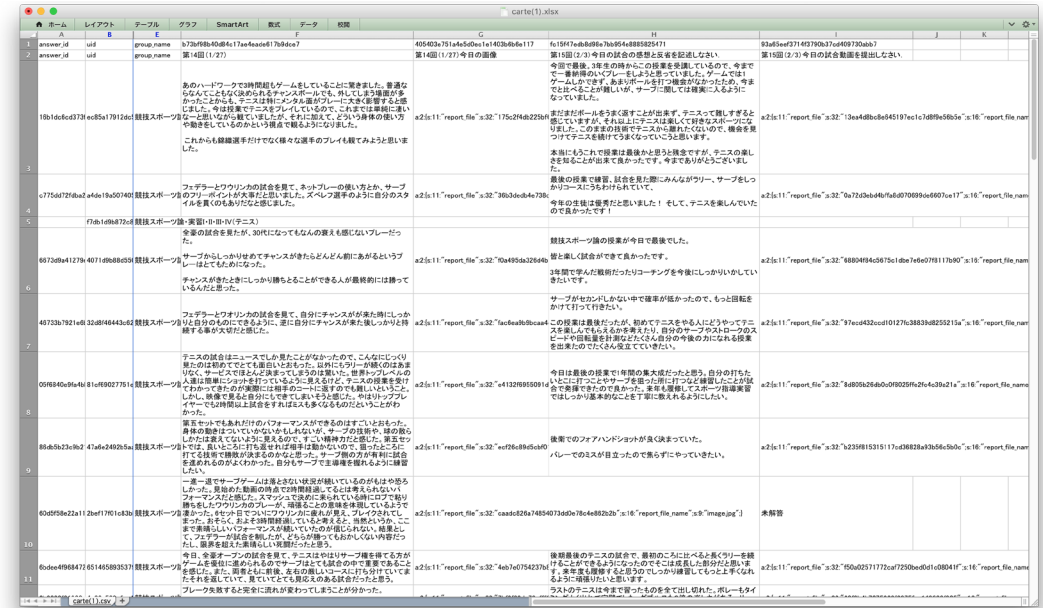


図５　学習カルテ記録例

今回は 2 回の授業で実施しました．受講者が入力している様子を観察していましたが，操作に手間取る様子はありませんでした．1-2 名の入力記録が残っていないことがありましたが，継続していけばそういったエラーも減っていくものと感じました．

教員からは，その日の授業で行ったことを振り返る時間を設けることができ，実技授業において身につけるべき知識を確認するためには，有意義な時間になったと感じられました．またこれまで人員を配置し，膨大な時間を費やしてきた映像の編集作業についても，受講者に委ねることで自身が実技を実施している様子を確認でき，これも有意義な復習になっていると考えられます．こういった映像を収集する際に重要なことは，「目的としている映像を記録できているか」ということです．実際に撮影をしていると「今の撮っておけば良かった」と感じる場面がしばしばあります．すべてのシーンを記録すればそういったことは無くなりますが，今度は前述のように映像の編集作業が必要になります．今回の授業ではその日のテーマを定め，授業内で各自の映像を撮る時間を設定しました．この方法についても，今後授業を進めていく中で，改善していけるものと思います．

体育大学で実施する実技授業の学習目標には，その実技が「できること」に加えて，「知っていること」や「指導できること」なども含まれています．今回の学習カルテを用いた実技授業での映像活用は，これらの学びを手助けする，有意義な方法であると思われます．次年度の授業ではこの方法を実際に運用する予定です．その実際については，改めて報告できればと思います．

・　履修指導の実施状況が確認できる資料

取組	実施組織	実施状況
ガイダンス	体育学部	全学年に対し４月に実施した。
小クラス・ゼミ懇談会	体育学部	各学期初め（前期、後期）の２回実施した。
小クラス・ゼミ担任制	体育学部	学部１、２年次は、小クラス担任制。 学部３、４年次は、専門別のゼミ担任制。
英語能力別クラス分け	体育学部	英語プレイスメントテスト結果により、基礎、初級、中級の３段階のクラス分けを実施した。
学修ポートフォリオ	体育学部	可視化された GPA 結果、PROG テスト結果、SCCOT テスト結果の学修の振り返りを GPA 結果については各学期（前期、後期）の２回、PROG 及び SCCOT テスト結果については年１回実施した。
履修相談日の設定	体育学部	履修相談日（前期：4 月、後期：10 月）を設け、履修相談に対応した。
履修相談窓口	体育学部	教務課に履修相談窓口を設け、履修相談に随時対応した。
GPA 評価の低い学生への履修指導	体育学部	GPA 評価が 1.5 未満の学生に対して、担当教員より履修指導（年１回）を実施した。

・　学習相談の実施状況が確認できる資料

取組	実施組織	実施状況
オフィスアワー	体育学部	各教員がオフィスアワーを設定し、シラバスに明記するとともに授業で周知し、学生の質問や相談に対応した。
学習相談	体育学部	教務課に学習相談窓口を常設し、学生の学習相談に対応した。

・　社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料

取組	実施組織	実施状況
キャリア関連科目の開設	体育学部	キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、キャリアセミナー、キャリアコミュニケーション、キャリア対策セミナー（教員、一般企業、公務員）を開講した。
インターンシップ	体育学部	スポーツ指導実習（スポーツコーチ実習、生涯スポーツ指導実習、武道指導実習）を必修科目として開講したほか、企業実習を選択科目として開講した。
スポーツボランティア活動支援	体育学部	学生が地域の学校やスポーツ団体等におけるスポーツ指導（指導補助）を行うスポーツボランティアの活動支援として、事前研修、賠償保険の加入手続、派遣先のマッチング等を実施した。
学内ワークスタディ	体育学部	学生がキャリア支援や生活支援に関する業務に従事する学内ワークスタディを実施した。

・　履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料

対象	実施組織	実施状況
障がいのある学生	障がい学生支援室	障がいのある学生の在籍はないが、障がい学生支援室を中心とした支援体制の下、「障がい学生支援に関する勉強会」の開催、他機関主催の研修等への参加を行い、障がい学生支援に対する理解を深めた。
留学生	国際交流センター 学術図書情報課	留学生に対して、チューターを雇用し、学習支援を実施した。また、留学生の日本語学習を支援するため、週４コマの日本語補講を開講した。
その他履修上特別な支援を要する学生	学生相談支援室 教務委員会	国際競技大会等に出場するため、長期間授業に出席できない学生に対しては、チューターによる学習支援等を行った。さらに、オリンピック及び世界選手権大会等の国際大会における日本代表選手となった学生に対しては、卒業所要単位数に係る一部の卒業要件を緩和する特例措置を実施した。

GPA通知書

学生番号		所属	学部　体育学部	入学年月日：
氏名		入学年度		卒業
		指導教員		

累計GPA	累計修得単位数	累計履修登録単位数

※左記単位数は、点数により評価されない科目（合否科目、認定科目）は含まれない。

履修年度	修得単位数	履修登録単位数	年度GPA	順位		備考
				学年別	課程別	
平成28年度	47	47	3.32	175人中 12位	125人中 11位	
平成29年度	46	46	3.41	173人中 10位	123人中 9位	
平成30年度	34	34	3.59	194人中 19位	144人中 17位	
平成31年度	12	12	3.58	197人中 62位	143人中 50位	

●ＧＰＡ評価とは

１）　評価方法

授業科目ごとの成績評価(点数評価)に対し、次のようなグレードポイントを付与し、この単位当たりの平均(ＧＰＡ：グレード・ポイント・アベレージ) を出す。

９０点以上は	４．０ポイント
８０点以上９０点未満は	３．０ポイント
７０点以上８０点未満は	２．０ポイント
６０点以上７０点未満は	１．０ポイント
６０点未満(履修放棄を含む)は	０ポイント

２）　計算方法

$$ＧＰＡ＝\frac{(授業科目Ａのﾎﾟｲﾝﾄ×単位数)＋(授業科目Ｂのﾎﾟｲﾝﾄ×単位数)＋・・・・}{履修登録した総単位数}$$

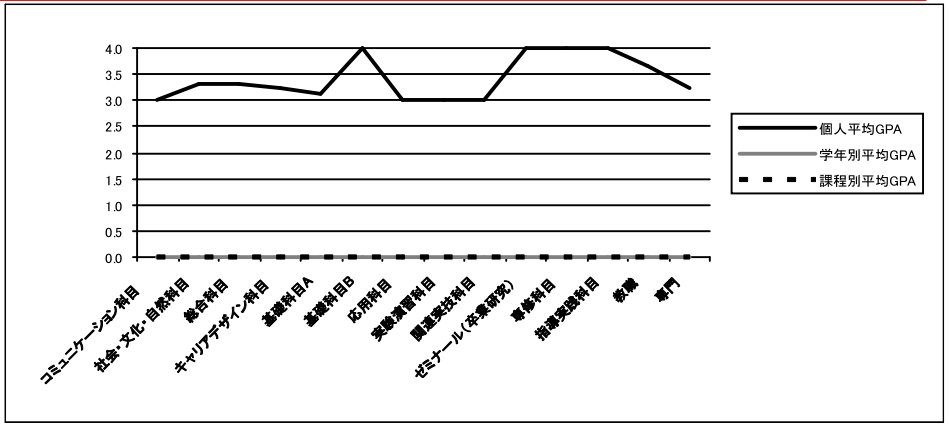
※ＧＰＡ評価には、点数により評価されない科目(合否科目、認定科目)は含まれない。

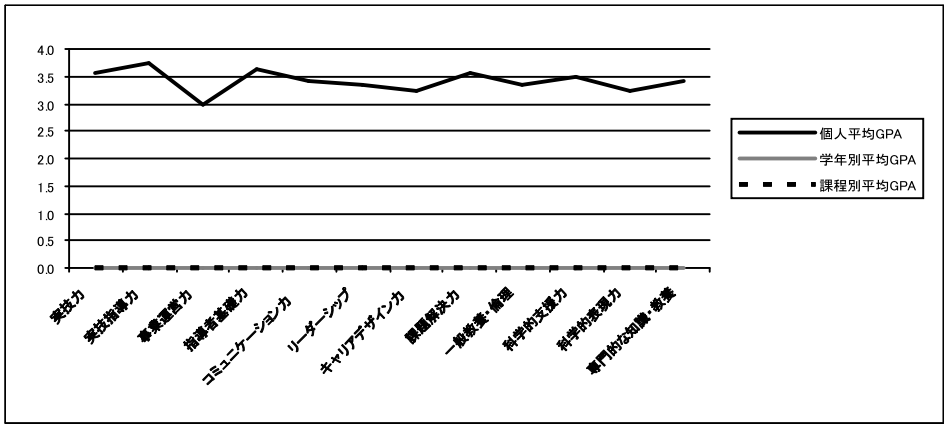
科目群ごと・DPで目指す学修成果ごとのGPA

学生番号		所属	学部　体育学部	入学年月日：
氏名		入学年度		卒業
		指導教員		

区　分		累積GPA		
		個人平均	学年別平均	課程別平均
一般科目	コミュニケーション科目	3.00	0.00	0.00
	社会・文化・自然科目	3.30	0.00	0.00
	総合科目	3.33	0.00	0.00
キャリア形成科目	キャリアデザイン科目	3.25	0.00	0.00
専門科目	基礎科目A	3.13	0.00	0.00
	基礎科目B	4.00	0.00	0.00
	応用科目	3.00	0.00	0.00
	実験演習科目	3.00	0.00	0.00
	関連実技科目	3.00	0.00	0.00
	ゼミナール（卒業研究）	4.00	0.00	0.00
専攻科目	専修科目	4.00	0.00	0.00
	指導実践科目	4.00	0.00	0.00
教職科目	教職	3.67	0.00	0.00
	専門	3.23	0.00	0.00
全　体		3.44		

DPで目指す資質・能力	累積GPA		
	個人平均	学年別平均	課程別平均
実技力	3.57	0.00	0.00
実技指導力	3.73	0.00	0.00
事業運営力	3.00	0.00	0.00
指導者基礎力	3.62	0.00	0.00
コミュニケーション力	3.43	0.00	0.00
リーダーシップ	3.33	0.00	0.00
キャリアデザイン力	3.25	0.00	0.00
課題解決力	3.57	0.00	0.00
一般教養・倫理	3.33	0.00	0.00
科学的支援力	3.50	0.00	0.00
科学的表現力	3.23	0.00	0.00
専門的な知識・教養	3.41	0.00	0.00

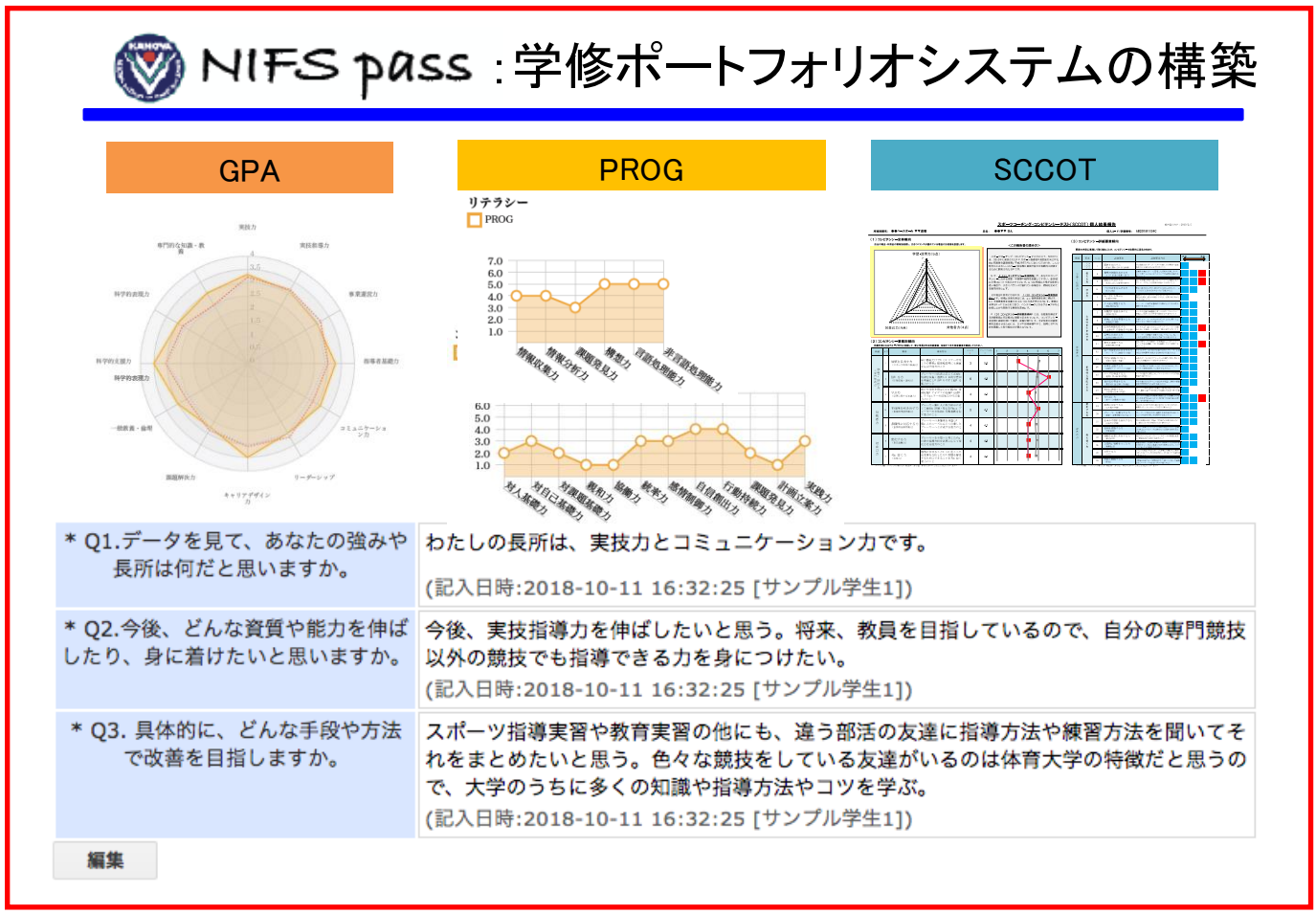




(3) 平成 30 年度の取組内容・成果

①DP で目指す 12 の資質・能力と授業科目との関連性の強化と学修支援及び教育改善

授業科目区分毎及び DP で目指す 12 の資質・能力毎の GPA を可視化したことで、学生は授業科目と学修成果との関係を意識することができるようになった。さらに、構築した Web 学修ポートフォリオ NIFSpass を活用して、自己の学修の振り返りや改善を学期毎に継続して実施するようにした（下図参照）。



さらに、授業科目毎に実施される「授業振り返りアンケート」から、学生自身が履修した授業科目から DP で目指す 12 の資質・能力の「何を修得したのか」も振り返るようにし、関係性の意識づけを強化した（p23 参照）。

一方で、授業担当者に対して学生が感じている DP で目指す 12 の資質・能力の修得度をフィードバックし、授業改善の一助とした（下図は、科目区分の修得度感の平均値を示している。赤丸は各授業科目区分で主に身につけることが期待されている資質・能力を示している。）。

キャリア形成科目の開講状況

			2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 R元
1年次科目	キャリアデザインⅠ	受講者数	177	185	180	181
	キャリアデザインⅡ（H26～）	受講者数	175	180	180	183

			2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 R元
2年次科目	キャリアデザインⅢ	受講者数	147	119	164	169

			2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 R元
3年次科目	キャリアセミナー	受講者数	72	92	77	66
	キャリアコミュニケーション	受講者数	118	131	124	142
	企業実習	受講者数	5	2	3	2
	キャリア対策セミナー〔教員〕	受講者数	50	34	26	41
	キャリア対策セミナー〔一般企業〕	受講者数	36	47	44	46
	キャリア対策セミナー〔公務員〕	受講者数	35	33	24	26

平成３１年度鹿屋体育大学学内ワークスタディに係る取扱いについて

平成 31 年 4 月 25 日
学生委員会決定
キャリア形成支援室決定

第１　目的及び名称

この取扱いは、鹿屋体育大学（以下「本学」という。）の学部学生及び大学院生に教育的配慮の下に学内の業務に従事させ、学生の職業観、勤労観を涵養するとともに、学生に対し一層の経済的支援を行うことを目的とする。

２　前項に定める事業の名称を学内ワークスタディ（以下「学内 WS」という。）とする。

第２　対象者

学内 WS の対象者は、次の各号のいずれにも該当する者とする。

(1)　学部生又は大学院生（外国人留学生、非正規生を除く。）

(2)　「鹿屋体育大学授業料等の免除及び徴収猶予取扱規則」により授業料免除（全額免除又は半額免除）の対象となる者のうち、授業料免除の申請をした者（申請予定を含む。）

(3)　学内 WS の目的を理解し、適切に業務を遂行できる者

第３　身分

学内 WS に採用する者（以下「学生スタッフ」という。）の身分は、「国立大学法人鹿屋体育大学非常勤職員就業規則（平成 16 年 4 月 1 日規則第 34 号）」別表第 1 に掲げる「アルバイター」とする。

第４　事業内容

学内 WS の事業内容は、次の各号に掲げるところによる。

(1)　キャリア支援係に関する事業

①　就職活動全般に関する相談・助言
　　従事期間　平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月
　　対象人数　4 名程度

②　就職支援行事（イベント）の企画・実施等補助
　　従事期間　平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月
　　対象人数　5 名程度

③　キャリア教育・支援に関するデータ整理等
　　従事期間　平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月
　　対象人数　5 名程度

④　その他キャリア形成支援室長が必要と認めた業務

(2)　生活支援係に関する事業

①　学生宿舎管理業務の補助

従事期間　平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月

対象人数　4 名程度

第５　勤務時間

学生スタッフの勤務時間は、当該学生スタッフが履修する授業及び研究指導等に支障が生じないよう配慮するものとする。

第６　報酬及び経費

学生スタッフに対する報酬は、「国立大学法人鹿屋体育大学非常勤職員就業規則（平成 16 年 4 月 1 日規則第 34 号)」別表第 1 に掲げるところにより、学内ワークスタディ実施経費から支出する。

第７　募集及び選考

学生スタッフの募集及び選考は、次の各号に掲げるところにより行う。

(1)　募集は、第 4 の各号に掲げる事業毎に行う。

(2)　当該業務への従事を希望する者は、別紙様式 1 による申請書を別途指定する募集期間内に提出するものとする。

(3)　キャリア形成支援室長又は学生委員会委員長は、それぞれの第 4 の各号に掲げる事業の申請について、前号の申請書による書類審査を行い、学生スタッフの選考を行う。

第８　業務指導

キャリア形成支援室長又は学生委員会委員長は、学内 WS の業務を遂行するにあたり、学生スタッフに対して業務指導を行うものとする。

第９　事務処理

学内 WS に関する事務は、第 4(1)については教務課キャリア支援係において、第 4(2)については学生課生活支援係において行う。

第１０　その他

この取扱いに定めるもののほか、学内 WS の実施に関し必要な事項は別に定める。

附　則

この取扱いは、平成 31 年 4 月 26 日から施行する。

別紙様式１

キャリア形成支援室長　様
学生委員会委員長　　様

学内ワークスタディ申請書

	提出日	年　　月　　日
希望する係	□ キャリア支援係 □ 生活支援係	

ふりがな 氏名	学籍番号	学年	課程
		年	課程

携帯電話番号	小クラス担当教員／ゼミ担当教員

ＰＣメールアドレス　※必ず連絡が取れるもの

住所
〒

本年度の授業料免除申請
□ 申請した　　□ 申請していない
※ 授業料免除の申請状況については、本学学生課に確認させていただきます。

事務処理欄

受理日	.　　.	受理者	
授業料免除の確認	□ 申請あり	□ 申請なし	□ 申請中

学内ワークスタディ実施状況

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	計
キャリア支援に関する業務	17 名 (327 時間)	19 名 (1,254 時間)	20 名 (1,051 時間)	18 名 (579 時間)	74 名 (3,211 時間)
生活支援に関する業務		2 名 (106 時間)	2 名 (85 時間)	1 名 (2 時間)	5 名 (193 時間)
計	17 名 (327 時間)	21 名 (1,360 時間)	22 名 (1,136 時間)	19 名 (581 時間)	79 名 (3,404 時間)

※人数は、実人数

鹿屋体育大学学生スポーツボランティア支援事業実施要項

平成２０年　１０月　１７日
学生ｽﾎﾟｰﾂﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ支援室決定

（目的）
第１条　鹿屋体育大学学生スポーツボランティア支援事業（以下「本事業」という。）は、鹿屋体育大学の学生（大学院生を含む。以下「学生」という。）が、地域におけるスポーツや健康づくりの活性化を支援し、併せて、学生の実践的指導力の向上を目指すことを目的とする。

（支援対象）
第２条　本事業の支援対象は、以下のとおりとする。
(1) 地域の小・中・高等学校の体育授業等における児童・生徒への技術指導支援
(2) 地域のスポーツ少年団等における団員への技術指導支援
(3) 地域のスポーツ振興事業等における技術指導支援
(4) その他、技術指導支援を行うことが適当であると学長が認めた事業への支援

（研修及び登録）
第３条　本事業による派遣を希望する学生は、学生スポーツボランティア支援室（以下「支援室」という。）の実施する各種研修等を受け、学生スポーツボランティアとして、大学の公認を受けなければならない。

（派遣先）
第４条　本事業による学生スポーツボランティアの派遣を希望する団体は、派遣事業及び依頼事項の内容について、支援室による承認を受けなければならない。

（認証）
第５条　本事業による派遣を希望する学生のうち、学生スポーツ・健康指導力を有する者については、学生スポーツ・健康指導力認証規程に基づきその指導力を評価し、指導レベル毎に認証することができる。

（その他）
第６条　この要項に定めるもののほか、学生スポーツボランティアの研修、登録、活動方法、評価及び認証並びに派遣先団体の選定等に関する必要な事項は、支援室が別に定める。

附　則
この要項は、平成 20 年 10 月 17 日から施行し、平成 20 年 6 月 17 日から適用する。

スポーツボランティア実施状況（学部）

年度	区分	在籍学生数(A) (5月1日時点)	登録者数(B)	登録率 (B/A)	活動者数(C)	派遣先数	派遣回数	派遣者数 (D)	登録学生１人当たりの派遣回数 (D/B)	参加者数
2016	学部	773	82 (25)	10.6%	77 (23)	29	376	643	7.8	5,941
2017	学部	769	64 (20)	8.3%	57 (19)	24	297	548	8.6	6,333
2018	学部	768	61 (31)	7.9%	56 (26)	28	322	631	10.3	5,574
2019	学部	767	55 (20)	7.2%	54 (20)	25	255	623	11.3	5,385
合計	学部	3077	262 (96)	-	244 (88)	-	1250	2445	-	23,233
平均	学部		66	9%	61				9	

( ) は女子で内数

鹿屋体育大学体育学部の教育課程及び履修方法等に関する規程

［平成２６年３月２０日
規　　程　　第　２　号］
改正　平成２７年３月　６　日
規　　程　　第　２　号
平成２７年７月１０日
規　　程　　第１４号
平成２８年３月１８日
規　　程　　第　１　号
平成２８年１０月２６日
規　　程　　第２５号
平成３１年３月４日
規　程　第　３　号
平成３１年４月１９日
規　程　第　１　２　号

鹿屋体育大学体育学部の教育課程及び履修方法等に関する規程（平成１５年４月３０日規程第１２号）の全部を改正する。

（趣旨）
第１条　この規程は、鹿屋体育大学学則（以下「学則」という。）に定めるもののほか、本学体育学部の教育課程及び履修方法等の円滑な実施のために必要な事項を定めることを目的とする。

（授業科目の区分等）
第２条　授業科目の区分は、次のとおりとする。

授業科目の区分		摘　　要
一般科目	コミュニケーション科目	国内はもとより国際社会で活躍できる語学力とコミュニケーション能力を涵養する科目
	社会・文化・自然科目	社会の一員として、人間、社会、文化、自然及び環境に関する教養や態度を涵養する科目
	総合科目	社会の一員として、基礎的な情報リテラシー、表現的能力や討論力を身につける科目
キャリア形成科目	キャリアデザイン科目	スポーツリーダーとしての将来像と勤労観・職業観を醸成する科目
専門科目	基礎科目Ａ（人文･社会･自然系）	体育学の基礎となる人文・社会及び自然系の分野の内容を理解する科目
	基礎科目Ｂ（指導･普及系）	スポーツ・武道及び体育・健康づくりについての指導や普及の基礎的な内容を理解する科目
	応用科目	国民各層のスポーツ・武道及び体育・健康づくりを指導し、普及させるための専門的、応用的な内容を身につける科目
	実験演習科目	スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する基礎的な科学的支援力や表現的能力を身につける科目
	関連実技科目	スポーツ･武道及び体育･健康づくりに関する基礎的な実技力を身につける科目
	ゼミナール(卒業研究)	スポーツ･武道及び体育･健康づくりにおける関心あるテーマについて、体育学の知識を総合的に活用し、課題設定、解決、説明す

るため、少人数で担当教員の指導を受ける授業形態とする。
２　ゼミナールⅡ（３年次開講）は、２年以上在学し、６０単位以上を修得していない学生は、受講することができない。
３　ゼミナールⅢ（４年次開講）は、ゼミナールⅡを修得していない学生は、受講することができない。
４　ゼミナールⅡを修得した学生は、原則として、ゼミナールⅢにおいても同一の教員の指導を受けるものとする。
５　前４項に定めるもののほか、ゼミナールに関し必要な事項は、「体育学部履修要項」に示す。

（卒業研究）
第１８条　卒業研究を行おうとする学生は、前条第４項の教員に対して、卒業研究に関するプロポーザルを提出し、その指導を受けなければならない。
２　３年以上在学し（学則第３４条に規定する早期卒業を除く。）、９０単位（ゼミナールⅡの４単位を含む。）以上修得していない学生は卒業研究を受講することができない。
３　卒業研究に係る報告書は、「体育学部履修要項」で定める日までに事務局教務課へ提出しなければならない。
４　前３項に定めるもののほか、卒業研究に関して必要な事項は、「体育学部履修要項」に示す。

（履修を中断した通年科目の継続履修）
第１８条の２　学則第５５条第１項に規定する休学の許可を受けた学生又は学則第５９条第１項に規定する留学の許可を受けた学生は、本学における履修を中断した授業科目（通年で履修する授業科目に限る。ただし、「介護等体験」を除く。以下「通年科目」という。）について、休学又は留学期間の終了後に継続しての履修（以下「継続履修」という。）を行うことができる。
２　前項の規定により継続履修できる通年科目は、休学又は留学を開始した年度に履修を中断したものに限る。
３　継続履修できる通年科目の中断期間は、原則として１年以内とする。ただし、履修の中断期間が学期（前期又は後期）ごとであるものについては、これに該当しない。
４　継続履修を希望する学生は、休学又は留学期間終了後の２週間以内に、履修を中断した通年科目のうち継続履修を希望する科目について、あらかじめ授業担当教員及び指導教員の許可を得た上で、継続履修申請書（別紙様式１）を教務委員会委員長に提出しなければならない。
５　教務委員会は、前項の継続履修申請書について審査し、継続履修の適否を判断する。
６　教務委員会は、継続履修の適否の結果を当該学生、授業担当教員及び指導教員に通知する。

（試験）
第１９条　試験は、定期試験及び追試験により行う。
２　試験は、担当教員が、筆記又は口述による試験、実技試験及びレポートの提出等の方法により行う。
３　定期試験は、学期末に期日を定めて行う。
４　追試験は、疾病及び公式試合出場等特別な理由により定期試験を受けることができなかった者に対して行うことができる。
５　定期試験及び追試験の成績評価が「Ｄ」と報告された者に対する再試験は行わない。
６　担当教員は、原則として成績の評価をそれぞれの試験終了後１週間以内に学長に報告しなければならない。
７　科目の設定単位の都合上、前期、後期の両学期にわたって授業を行う科目については、原則として各学期ごとに試験を行い、その結果を評価し、合格点の場合はその学期の単位を仮認定し各学期の仮認定単位が設定単位に達した時点で授業科目を修得したこととする。
８　前７項に定めるもののほか、試験に関し必要な事項は「体育学部履修要項」に示す。

（成績の評価）
第２０条　学則第３２条に規定する授業科目の成績の評価は、次のとおりとする。

評語	評　点	評　価　基　準	摘　　要
S	９０点～１００点	到達目標を達成し、特に優秀な成績を修めている。	合格とし、単位を認定する。
A	８０点～８９点	到達目標を達成し、優秀な成績を修めている。	
B	７０点～　７９点	到達目標を達成している。	
C	６０点～　６９点	到達目標を最低限達成している。	
D	５９点以下	到達目標を達成していない。	不合格とし、単位を認定しない。
K	履修放棄		履修登録がなかったものとして取扱うが、年間に履修登録した単位数には含める。

２　前項のほか、卒業研究及び介護等体験は「合格」又は「不合格」、ボランティア活動は「合格」、大学以外の教育施設等における学修の単位認定科目については「認定」の評語をもって評価する。

（成績の通知）

第２１条　授業科目に係る成績の通知は、当該学期の終了後に行う。

２　前項の通知は、学長（その事務処理は事務局教務課が行う。）が、学生個々人にあてて行う。

（成績の異議申立て）

第２１条の２　学生は、公開された成績の評価に疑義があると思われた場合、当該科目の授業担当教員に確認の後、異議を申し立てることができる。

２　前項に定めるもののほか、成績の異議申立てに関することは、別に定める。

（不正行為）

第２２条　試験に関し不正行為を行った学生に対しては、当該受験科目を無効とし、学則第６３条に定める懲戒処分（退学、停学又は訓告）を行う。

（教員免許状の取得）

第２３条　教育職員免許法（昭和24年法律第147号）に定める教育職員の免許状を得ようとする学生は、教科及び教科の指導法に関する科目（別表第6）、教育の基礎的理解に関する科目等（別表第7）及び大学が独自に設定する科目（別表第8）並びに教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）（以下、「教免法施行規則」という。）第６６条の６の規定に基づき本学が開講する「日本国憲法」、「体育・スポーツ哲学と倫理」、「英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ及び上級英語コミュニケーションから１科目」及び「情報処理Ａ、Ｂ、Ｃから１科目」を修得するものとする。

（「体育学部履修要項」）

第２４条　本学体育学部の教育課程及び履修方法等について、学則及びこの規程の円滑な実施を図るため、「体育学部履修要項」を定めるものとする。

２　「体育学部履修要項」においては、この規程に定められていない細目的事項を定めるとともに、教育課程及び履修方法等について学生の理解を助けるための解説を行うものとする。

３　「体育学部履修要項」は、教務委員会の責任において編集、発行及び配付を行うものとする。

附　則

１　この規程は、平成２６年４月１日から施行する。

２　この規程の施行日に在学する者で、既に改正前の規程に基づく教育課程の授業科目を修

学生の成績等への異議申立てに関する申合せ

（平成２７年３月１９日
教育研究評議会決定
改正　平成２８年６月２３日）

(趣旨)

第１　この申合せは、鹿屋体育大学体育学部の教育課程及び履修方法等に関する規程第２１条の２、平成２５年度以前の入学生の鹿屋体育大学体育学部教育課程及び履修方法等に関する規程第２１条の２及び鹿屋体育大学大学院体育学研究科履修規程第１０条の２及び第２１条の２に基づき、鹿屋体育大学（以下「本学」という。）における学生の成績等への異議申立てに関し、必要な事項を定める。

(定義)

第２　この申合せにおいて「学生」とは、本学に在学している学部学生及び大学院学生（科目等履修生、特別聴講学生その他本学において授業科目を履修し、成績評価を受ける者を含む。）をいう。

(対応組織)

第３　学生の異議申立てに対応する組織は、学部学生にあっては教務委員会、大学院学生にあっては研究科教務委員会とする。

２　当該委員会の委員が当事者である場合は、その委員が所属する系から、問題解決の間、代理委員を立てる。

(異議申立て)

第４　異議申立てを行う学生は、成績公開後、直近の学期開始日（４月１日又は１０月１日）から７日以内（前期末又は学年末に卒業あるいは修了する場合にあっては成績公開日から７日以内）（以下「異議申立て期限日」という。）に、異議申立書・再異議申立書（別記様式第１号）を、教務課を経由して教務委員会委員長又は研究科教務委員会委員長（以下「委員長」という。）へ提出しなければならない。

２　委員長は、前項の異議申立て受け付け後、原則として異議申立て期限日から１０日以内（以下「回答期限日」という。）に教務委員会又は研究科教務委員会（以下「教務委員会等」という。）の議を経て、異議申立て・再異議申立てに対する回答書（別記様式第２号）により回答を行うものとする。ただし、回答期限日までに回答できない場合は、委員長は、回答できない理由等を、異議申立てを行った学生に回答期限日前に説明するものとする。

３　異議申立ての回答に不服のある学生は、異議申立ての回答を受け取った日から原則として７日以内（以下「再異議申立て期限日」という。）に、異議申立書・再異議申立書（別記様式第１号）により、再異議申立てを行うことができる。

４　委員長は、前項の再異議申立て受け付け後、原則として再異議申立て期限日から１４日以内（以下「再異議申立て回答期限日」という。）に教務委員会等の議を経て、異議申立て・再異議申立てに対する回答書（別記様式第２号）により回答を行うものとする。

ただし、再異議申立て回答期限日までに回答できない場合は、委員長は、回答できない理由等を、再異議申立てを行った学生に再異議申立て回答期限日前に説明するものとする。

（調査委員会）

第５　委員長は、第４第２項の異議申立て及び同第４項の再異議申立てを受け付けた場合、調査委員会を設置することができる。

２　前項の調査委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1) 教務委員会等副委員長

(2) 当該年度の教務委員会等委員３名（各系から１名）

３　調査委員会は異議申立て及び再異議申立てに関し、調査を行いその結果を速やかに委員長に報告するものとする。

４　委員長は、異議申立て及び再異議申立てを行った学生に対しては、適宜、途中経過を説明するとともに、調査等終了後、速やかに、その結果を説明するものとする。

（日数の計算）

第６　第４における日数の計算については、日曜日、 土曜日及び国民の祝日に関する法律（昭和２３年法律第１７８号）に定める休日を含むものとする。

附　則

この申合せは、平成２７年４月１日から施行し、平成２７年度に実施された授業の成績から適用する。

附　則（平２８．６．２３）

この申合せは、平成２８年６月２３日から施行し、平成２８年度に実施された授業の成績から適用する。

別記様式第１号（第４第１項、第４第３項関係）

年　　月　　日

異議申立書・再異議申立書

教 務 委 員 会 委 員 長
殿

研究科教務委員会委員長

ｽﾎﾟｰﾂ総合　／　武　　道
修　士　／　博士後期　課程

学籍番号

氏　　名　　㊞

連 絡 先　　―　　―

１　成績評価についての異議申立て

開　講　期：　前・後　　期

科　目　名：

担当教員名：

２　申立ての内容　（できるだけ詳しく記入すること）

別記様式第２号（第４第２項、第４第４項関係）

年　　月　　日

異議申立て・再異議申立てに対する回答書

（学生氏名）　　様

教務委員会委員長 ／
研究科教務委員会委員長

平成　　年　　月　　日付けで異議申立て／再異議申立てのありました＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿について以下のように回答します。

【回答内容】

当該科目担当教員氏名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

評語	評　点	グレードポイント	評　価　基　準	摘　要
S	90 点～ 100 点	4．0ポイント	到達目標を達成し、特に優秀な成績を修めている。	合格とし、単位を認定する。
A	80 点～ 89 点	3．0ポイント	到達目標を達成し、優秀な成績を修めている。	
B	70 点～ 79 点	2．0ポイント	到達目標を達成している。	
C	60 点～ 69 点	1．0ポイント	到達目標を最低限達成している。	
D	59 点以下	0ポイント	到達目標を達成していない。	不合格とし、単位を認定しない。
K	履修放棄	0ポイント		履修登録がなかったものとして取扱うが、年間に履修登録した単位数には含める。

注）GPA ＝【（授業科目①のポイント×単位数）＋（授業科目②のポイント×単位数）＋……】
÷　履修登録した総単位数（履修放棄の「K」は含み、合格及び認定単位は除く）

⑷　成績の通知

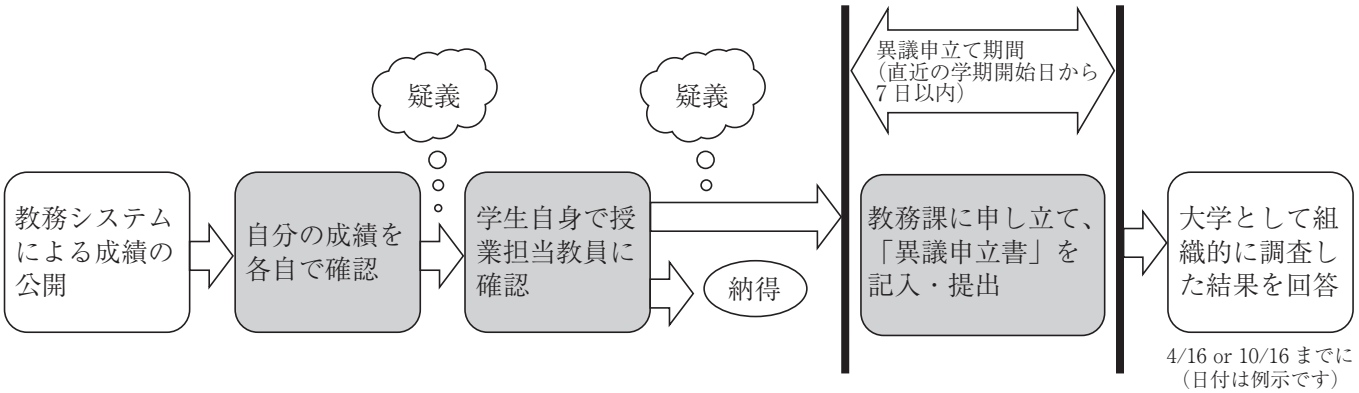
成績の通知は、前期分は 10 月に、後期分は 4 月にクラス担当教員又はゼミナール指導教員が、学生個々に行います。ただし、卒業する学生については、卒業式当日に通知します。

6．成績評価について疑義があった場合の異議申立てについて

厳格な定期試験等の成績評価を担保するため、平成２７年度から実施された試験の成績から、その評価に疑義があった場合、P171 に示すとおり、成績等への異議申立てに関する申合せを制定しました。申合せの概要については、以下のとおりです。

① 公開された成績を確認し、疑問がある場合、まずは、授業担当教員に直接確認を行ってください。（非常勤講師が担当する科目の場合は、教務課へ申し出てください。）
② 上記①の結果、得られた回答に疑義が残る場合は、教務課に申し出て、「異議申立書」を提出することができます。（※①の確認を行わないと「異議申立書」の提出はできません。）
③ ②の異議申立書の提出は、直近の学期開始日から 7 日以内となっています。
④ 提出された「異議申立書」については、組織的に内容を調査し、異議申立て期限日から 10 日以内に本人あてに回答します。なお、１０日以内に回答できない場合は、回答できない理由をお知らせします。
⑤ 異議申立てに対する回答内容について、さらに疑義がある場合は、再異議申立てができます。再異議申立てに関する詳細は P171 を参照してください。

手続きのイメージ（例）



（注１）　成績の公開日については、別途周知します。
（注２）　異議申立書は休・祝日には提出できません。

鹿屋体育大学体育学部の教育課程及び履修方法等に関する規程

［平成２６年３月２０日
規　　程　　第　２　号］
改正　平成２７年３月　６　日
規　　程　　第　２　号
平成２７年７月１０日
規　　程　　第１４号
平成２８年３月１８日
規　　程　　第　１　号
平成２８年１０月２６日
規　　程　　第２５号
平成３１年３月４日
規　程　第　３　号
平成３１年４月１９日
規　程　第　１　２　号

鹿屋体育大学体育学部の教育課程及び履修方法等に関する規程（平成１５年４月３０日規程第１２号）の全部を改正する。

（趣旨）
第１条　この規程は、鹿屋体育大学学則（以下「学則」という。）に定めるもののほか、本学体育学部の教育課程及び履修方法等の円滑な実施のために必要な事項を定めることを目的とする。

（授業科目の区分等）
第２条　授業科目の区分は、次のとおりとする。

授業科目の区分		摘　　要
一般科目	コミュニケーション科目	国内はもとより国際社会で活躍できる語学力とコミュニケーション能力を涵養する科目
	社会・文化・自然科目	社会の一員として、人間、社会、文化、自然及び環境に関する教養や態度を涵養する科目
	総合科目	社会の一員として、基礎的な情報リテラシー、表現的能力や討論力を身につける科目
キャリア形成科目	キャリアデザイン科目	スポーツリーダーとしての将来像と勤労観・職業観を醸成する科目
専門科目	基礎科目Ａ（人文･社会･自然系）	体育学の基礎となる人文・社会及び自然系の分野の内容を理解する科目
	基礎科目Ｂ（指導･普及系）	スポーツ・武道及び体育・健康づくりについての指導や普及の基礎的な内容を理解する科目
	応用科目	国民各層のスポーツ・武道及び体育・健康づくりを指導し、普及させるための専門的、応用的な内容を身につける科目
	実験演習科目	スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する基礎的な科学的支援力や表現的能力を身につける科目
	関連実技科目	スポーツ･武道及び体育･健康づくりに関する基礎的な実技力を身につける科目
	ゼミナール(卒業研究)	スポーツ･武道及び体育･健康づくりにおける関心あるテーマについて、体育学の知識を総合的に活用し、課題設定、解決、説明す

			る能力を身につける科目
専攻科目	専修科目	アスリート・コーチング系 生涯スポーツ系 武道系	スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関して、年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や事業運営力を身につける科目
	指導実践科目	アスリート・コーチング系 生涯スポーツ系 武道系	専修科目等で身につけた体系的な実技指導力や事業運営力を実地的・実践的に活用し、深める科目
教職科目	教職		中学校や高等学校の教員としての免許を取得するための教職に関する科目
	専門		中学校や高等学校の保健体育の教員としての免許を取得するための専門（教科）に関する科目

2　必修科目、選択科目及び自由科目の区分は、次のとおりとする。

区　　分	摘　　要
必修科目	単一の授業科目で、その修得が義務づけられている科目
選択科目	数個の授業科目群のうちから指定する数の授業科目（単位数）の修得が義務づけられている科目
自由科目	必修科目及び選択科目を除き、その修得を卒業認定の要件とされている科目

3　授業科目及び単位数等は、別表第１、別表第２、別表第３、別表第４及び別表第５のとおりとする。

（卒業所要単位数）

第３条　卒業所要単位数及び履修要件等は、次のとおりとする。

授業科目の区分			区分ごとの最低修得単位数		左記以外に修得しなければならない単位数	卒業所要単位数
			スポーツ総合課程	武道課程		
一般科目	コミュニケーション科目		１０		１２	３８
	社会・文化・自然科目		８			
	総合科目		４			
キャリア形成科目	キャリアデザイン科目		４			
専門科目	基礎科目Ａ		１４		アスリート・コーチング系 武道系 ７又は８ 生涯スポーツ系 １９	８６
	基礎科目Ｂ		１０			
	応用科目		１０			
	実験演習科目		２			
	関連実技科目		８			
	ゼミナール(卒業研究)		１４			
専攻科目	専修科目	アスリート・コーチング系	１８			
		生涯スポーツ系	６			
		武道系		１８		
	指導実践科目	アスリート・コーチング系	２又は３			

		生涯スポーツ系	3			
		武道系		２又は３		
教職科目	教職		「教職」科目で修得した単位は、一般科目及びキャリア形成科目の卒業所要単位として６単位まで、「専門」科目の一部の科目で修得した単位は、専門科目及び専攻科目の卒業所要単位として４単位まで認めることができます。			
	専門					

（履修年次）
第４条　第２条第３項に定める授業科目に履修年次を設定し、配置する。
２　配置された授業科目は、履修年次に履修することを原則とし、上級年次の授業科目の履修はできないものとする。

（授業時間及び授業時間割）
第５条　授業時間及び授業科目並びに教室等の割振り（以下「授業時間割」という。）は、年度又は学期ごとに、別に定める。
２　前項に定めるもののほか、集中講義及び学外における授業時間並びに授業時間割は、別に定めることができる。

（担当教員）
第６条　授業科目の担当教員は、毎年度の始めに発表する。
２　担当教員の交代があった場合は、その都度発表する。

（学生の学習計画の樹立）
第７条　学生は、第２条第３項の規定による別表第１から別表第５並びに第３条の規定による卒業に必要な履修要件及び最低修得単位数並びに自己の適性、興味、進路、希望する卒業研究の要件等を考慮して、自分自身の年次別学習計画を樹立しなければならない。
２　前項の学習計画の樹立に当っては、教員が行うカリキュラム・ガイダンスに留意することを要する。

（履修登録）
第８条　学生は、自己の学習計画に基づき、当該年度に履修を希望するすべての授業科目について、あらかじめ当該授業科目の履修登録をしなければならない。
２　当該年度に履修科目として登録することができる単位数は、５０単位までとする（集中講義の履修登録単位数は含まない。）。ただし、当該年度に４１単位以上を修得し、その９０％以上が「Ｓ」または「Ａ」の評語であった者については、次年度の履修登録単位数に上限を設けないものとする。
３　前項の規定にかかわらず、在学期間が４年を超えた学生については、履修登録単位数に上限を設けないことができる。
４　履修登録の方法は、別に定める。

（受講人員の制限等）
第９条　特定の授業科目について必要があるときは、担当教員は、受講生を限定し、又は受講人員を制限することができる。

（専攻科目）
第１０条　専攻科目の専修科目は、アスリート・コーチング系及び武道系は「論・実習Ⅰ～Ⅲ」を同一種目で修得し、生涯スポーツ系は別に定める科目及び「論・演習Ⅰ、Ⅱ」を同一コースで修得しなければならない。
２　専修科目等で積み上げた学習を基礎に、指導現場における実地的・実践的な実習を通じて体系的な指導力や事業的運営力、職業観・就業観及び基礎的・汎用的能力の涵養等のキャリア形成を促進することを目的とした別表第４に掲げる指導実践科目をスポーツ指導実習として位置

鹿屋体育大学教授会規則

［平成１６年 ４ 月 １ 日 規　　則　第 ８ 号］
改正　平成１８年 ５ 月１１日 規　　則　第１４号
平成１９年 ３ 月２２日 規　　則　第 ６ 号
平成２３年１２月 １ 日 規　　則　第２５号
平成２４年 ９ 月２７日 規　　則　第２３号
平成２７年 ３ 月２７日 規　　則　第１７号
平成３０年 ３ 月２９日 規　　則　第１７号

鹿屋体育大学教授会規則（昭和60年７月３日規則第11号）の全部を改正する。

（趣旨）
第１条　この規則は、国立大学法人鹿屋体育大学通則（以下「通則」という。）第４４条第２項の規定に基づき、鹿屋体育大学教授会（以下「教授会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

（組織）
第２条　教授会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。
(1) 学長
(2) 副学長
(3) 学長補佐
(4) 教授、准教授、講師及び助教

（審議事項）
第３条　教授会は、学部に関する次の各号に掲げる事項を審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
(1) 学生の入学及び卒業に関する事項
(2) 学位の授与に関する事項
(3) 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
２　教授会は、前項に規定するもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる。
３　第１項第３号の学長が定めるものは、教授会の意見を聴いて学長が定める。

（会議の招集及び議長）
第４条　教授会に議長を置き、学長をもって充てる。
２　議長は、教授会を主宰する。

第１０８回 鹿屋体育大学教授会議事要旨

日　　時　　令和２年３月５日（木）１５時３０分～１６時４５分

場　　所　　大学院棟３階大講義室

出 席 者：松下、森(司)、石田、濱田(初)、金高、濱田(幸)、前阪、髙橋、木葉、萬久、中村(夏)、松村、三浦、塩川、榮樂、坂中、小森、黒川、青木、下川、村上、永原、添嶋、赤嶺、山本、安田、前田(明)、荻田、田巻、中垣内、イスラム、吉田、藤田、沼尾、高井、與谷、長島、村田(宗)、竹下、前田(博)、吉重、山田、森(克)、国重、北村、エルメス、和田、浜田、中本、中村(勇)、坂口、隅野、栂、栗山、日下の各委員

欠 席 者：北川、瓜田、竹中、村田(憲)、藤井、萩原、幾留の各委員

議　　事　　１．議事要旨確認

（１）第１０７回議事要旨案確認

資料１の議事要旨案について、原案どおり確定した。

２．審議事項

（１）令和２年度一般入試における合否判定について

森入試委員会委員長から資料２-１から２-５について説明があり、審議の結果、原案どおりスポーツ総合課程７２名、武道課程３３名の計１０５名を合格者とすることが了承された。

なお、合格発表は３月６日(金)午前１０時より、合格者受験番号の掲示及びホームページ掲載により行うため、それまで合否結果について口外しないよう要請があった。

（２）令和２年度体育学部卒業判定について

森教務委員会委員長から資料３－１から３－４について説明があり、審議の結果、原案どおりスポーツ総合課程１３６名、武道課程４９名について卒業が了承された。

なお、上記１８５名のうち、授業料未納者６名については条件付きとなることが確認された。

（３）令和２年度４月学事日程について

有馬次長兼教務課長から資料４について説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

（４）令和元年度学生表彰の選考について

有馬次長兼教務課長及び宮園学生課長から資料５－１から５－３について説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

（５）学生の除籍について

有馬次長兼教務課長から資料６-１及び６－２について説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

３．報告事項

（１）学生の異動について

有馬次長兼教務課長から、資料７に基づき報告があった。

（２）令和元年度学位記授与式及び令和２年度入学式における総代等について

有馬次長兼教務課長から、資料８に基づき報告があった。

４．その他

（1）新型コロナウイルスに関する対応について

松下学長から本学の新型コロナウイルス対策について説明があり、必要な対応について種々意見交換を行った。

（2）テレビ会議システムの利用について

和田スポーツ情報センター長から、本学教職員が利用可能なテレビ会議システムについて紹介があった。

以上

鹿屋体育大学体育学部アドミッションポリシー

鹿屋体育大学の使命・教育理念

1981 年に開学した国立大学唯一の体育系単科大学である鹿屋体育大学は、スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野において実践的かつ創造的で市民性、国際性を備えたリーダー・指導者を養成することを使命とし、本学の教育課程を核に、社会人としての豊かな教養の涵養や将来を展望し、勤労観・職業観を醸成しつつも、体育学に関してあらゆる専門性の深化と充実を目指します。

求める学生像

① 体育学を学ぶための基礎的な力を身に付けている学生（知識・技能）
文系・理系に偏ることのない基礎学力とともに、自分の得意分野の実技能力をも身に付けている学生

② 自己表現ができる学生（思考力・判断力・表現力）
自分が身に付けた学力や実技で得た経験値を総合的に活用・応用し、スポーツ・武道および体育・健康づくりに関する新たな課題やその解決策を考察し、他者に伝えることができる学生

③ 新たな課題に挑む意欲のある学生（主体性・多様性・協働性）
礼節とスポーツマンシップを身に付けた、新たな課題に進んで挑戦しようとする、感性豊かで協調性のある学生

入学試験の基本方針

本学のアドミッション・ポリシーに基づき、以下の入試区分において入学試験の基本方針を示します。

AO（SS）入試

- スポーツ・武道の分野で極めて優れた競技能力を有し、近い将来国際大会等で活躍しうる資質について競技実績により判断します。（知識・技能）
- 本学への明確な志望動機や入学後の競技や学生生活に関するビジョンのほか、リーダーシップやマナー、コミュニケーション能力などについて自己推薦文や面接により判断します。（思考力・判断力・表現力）（主体性・多様性・協働性）

推薦入試

- スポーツ・武道の分野で高い競技能力を有し、将来トップレベルの競技者になりうる資質について、課程別に指定した実技検査により判断します。（知識・技能）
- スポーツ・武道及び体育・健康づくりを指導・普及させるための基礎的な知識、また指導・普

及における課題に対する思考・判断・表現力について小論文により判断します。（知識・技能）（思考力・判断力・表現力）

- スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおけるリーダーシップやマナー、コミュニケーション能力などについて面接により判断します。（思考力・判断力・表現力）（主体性・多様性・協働性）

一般入試

- 入学後の教育に十分に対応し自らの趣向性にあうように、文系・理系に特に偏ることなく、さらにこれからのグローバル化した社会に対応するために外国語の基礎学力を備えているかを判断するために、大学入試センター試験において本学が指定する教科・科目の成績により判断します。（知識・技能）
- スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおけるリーダーシップやマナー、コミュニケーション能力、および知識や経験に基づく思考・判断・表現力などについて面接により判断します。（思考力・判断力・表現力）（主体性・多様性・協働性）
- スポーツ・武道に関する基礎的な実技力またはあらゆるスポーツに関する基礎的な身体資質の特性を課程別に指定した実技検査により判断します。（知識・技能）

第 3 年次編入学入試

- スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野に関心を持ち、それらを指導し、普及させるための基礎的な知識について小論文により判断します。（知識・技能）（思考力・判断力・表現力）
- スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおけるリーダーシップやマナー、コミュニケーション能力、および知識や経験に基づく思考・判断・表現力などについて面接により判断します。（思考力・判断力・表現力）（主体性・多様性・協働性）
- スポーツ・武道に関する基礎的な身体資質の特性を運動能力検査により判断します。（知識・技能）

認証評価共通基礎データ様式【大学用】様式2（2019年5月1日現在）

学部名	学科名	項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	入学定員に対する平均比率	備　考
体育学部	スポーツ総合課程	志願者数	345	389	347	316		
		合格者数	132	133	132	132		
		入学者数	126	132	129	129	1.08	
		入学定員	120	120	120	120		
		入学定員充足率	105%	110%	108%	108%		
		在籍学生数	511	509	516	516		
		収容定員	480	480	480	480		
		収容定員充足率	106%	106%	108%	108%		
	武道課程	志願者数	66	83	66	84		
		合格者数	54	54	54	54		
		入学者数	52	53	51	52	1.04	
		入学定員	50	50	50	50		
		入学定員充足率	104%	106%	102%	104%		
		在籍学生数	219	214	211	211		
		収容定員	200	200	200	200		
		収容定員充足率	110%	107%	106%	106%		
	—（3年次編入）	志願者数	–	–	–	–		
		合格者数	–	–	–	–		
		入学者数	–	–	–	–		
		入学定員	–	–	–	–		
		入学定員充足率						
		在籍学生数	43	46	41	40		
		収容定員	40	40	40	40		
		収容定員充足率	108%	115%	103%	100%		
学部合計		志願者数	411	472	413	400		
		合格者数	186	187	186	186		
		入学者数	178	185	180	181	1.06	
		入学定員	170	170	170	170		
		入学定員充足率	105%	109%	106%	106%		
		在籍学生数	773	769	768	767		
		収容定員	720	720	720	720		
		収容定員充足率	107%	107%	107%	107%		

＜編入学＞

学部名	学科名	項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	備　考
体育学部	—	入学者数（2年次）					
		入学定員（2年次）					
		入学者数（3年次）	20	20	19	18	
		入学定員（3年次）	20	20	20	20	
		入学者数（4年次）					
		入学定員（4年次）					

［注］
1　学生を募集している学部・学科（課程）、研究科・専攻、専攻科・別科等ごとに行を追加して作成してください。
　ただし、学科等を追加する場合は、直下に追加しないと集計値がずれてしまうので、注意して下さい。
2　昼夜開講制をとっている学部については、昼間主コースと夜間主コースにそれぞれ分けて記入してください。
3　学部、学科の改組等により、新旧の学部、学科が併存している場合には、新旧両方を併記し、「備考」に記載してください。
4　学部・学科、研究科・専攻等が完成年度に達していない場合、その旨を備考に記載してください。
5　募集定員が若干名の場合は、「0」と記載し、入学者数については実入学者数を記載してください。
6　入学定員充足率は、入学定員に対する入学者の割合、収容定員充足率は、収容定員に対する在籍学生数の割合としてください。
7　入学定員に対する平均比率は、過去４年分の入学定員に対する入学者の比率を平均したものが自動計算されます。
8　最新年度の秋入学については別途確認します。

令和元年 12 月 26 日

高大接続入試改革に伴う本学の 2021 年度入試（2020 年度実施）について

【一般入試】

1. 選抜の名称：一般選抜

2. 入試方法

以下の通り、2021 年度入試(2020 年度実施)より、本学一般選抜を行います。

	課程(選抜区分)	
入試方法	スポーツ総合課程	武道課程
大学入学共通テスト	3教科3科目 (200点×3科目=600点満点)	3教科3科目 (200点×3科目=600点満点)
実技検査	300点	300点*
プレゼンテーション＋口頭試問	100点**	100点**
合計	1,000点	1,000点

* 3-3(1)参照　　**3-4(5)参照

3. 主な変更点

3-1. 合格者の決定方法

(1)上記 3 種類の入試方法得点の合計得点で合否を決定します。

3-2. 大学入学共通テスト

本学が課す2021年度(令和3年度)大学入学共通テストの教科・科目

(1)2020年度(令和2年度)以前の大学入試センター試験成績の利用は行いません。

(2)国語又は数学から１教科・１科目（200点)、地理歴史若しくは公民又は理科から１教科・１科目（200点)、外国語から１科目（200点）の合計３教科・３科目（600点満点）を受験していることが条件です。

なお、本学が指定する教科・科目数を超えて受験した場合は、高得点となる３教科・３科目を合否判定に用います。ただし、地理歴史及び公民並びに理科の試験時間において２科目を受験する場合には、第１解答科目の得点を用います。

<table>
<tr><th>教　科</th><th>グループ</th><th>科　　目</th><th>教科科目の選択の方法</th></tr>
<tr><td>国　　語</td><td></td><td>『国語』</td><td rowspan="3">左記の２教科・７科目のうちから１教科・１科目を受験していること。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">数　　学</td><td>①</td><td>「数学Ⅰ」
『数学Ⅰ・数学A』</td></tr>
<tr><td>②</td><td>「数学Ⅱ」
『数学Ⅱ・数学B』
『簿記・会計』
『情報関係基礎』</td></tr>
<tr><td>地理歴史</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」
「現代社会」「倫理」「政治・経済」
『倫理，政治・経済』</td><td rowspan="3">左記の３教科・18科目のうちから１教科・１科目を受験していること。
ただし、「基礎を付した科目」については、２科目を受験していること。</td></tr>
<tr><td>公　　民</td></tr>
<tr><td rowspan="2">理　　科</td><td>①</td><td>「物理基礎」
「化学基礎」
「生物基礎」
「地学基礎」</td></tr>
<tr><td>②</td><td>「物理」「化学」
「生物」「地学」</td><td></td></tr>
<tr><td>外 国 語</td><td></td><td>『英語』『ドイツ語』『フランス語』
『中国語』『韓国語』</td><td>左記の１教科・５科目のうちから１教科・１科目を受験していること。
なお、『英語』を選択する者は、リーディングとリスニングの双方を受験すること。</td></tr>
</table>

3-3. 実技検査

(1)武道課程の実技検査配点を現行の 100 点から 300 点に変更します。

（武道課程受験者の実技検査評価が 90 点未満となった場合には不合格とします）

(2)実技検査における競技種目については変更はありません。

3-4. 「プレゼンテーション＋口頭試問」

(1)「プレゼンテーション＋口頭試問」の試験時間は、「プレゼンテーション」：3 分、「口頭

試問」：7 分の合計 10 分とします。

(2)「プレゼンテーション」のテーマは、スポーツ総合課程・武道課程共通とし、出題は本学のアドミッションポリシーに即して、高等学校保健体育の学習成果を応用したものを一題出題します。なお、このテーマは、大学入学共通テスト後に、本学ホームページ及び受験者心得で事前に告知します。

(3)「口頭試問」は、主として「プレゼンテーション」の内容について質問します。

(4)「口頭試問」の際に、調査書を参考資料として使用します。

(5)「プレゼンテーション＋口頭試問」(試験時)において、態度が著しく悪く本学の教育を受けるのにふさわしくないと認められた場合は不合格とします。

4. 募集定員

スポーツ総合課程：60 人

武道課程　　：25 人

※本学の一般選抜における募集定員は、現行の一般入試から変更はありません。

体育学部入学者選抜に係る追跡調査結果について

アドミッションセンター

目　次

１．志願者に関するデータ（１～５）

〇一般入試の志願倍率の推移
〇３年次編入学試験の志願倍率の推移
〇一般入試地区別志願者数推移
〇一般入試実技競技種目における志願者の割合の推移（スポーツ総合課程）
〇一般入試実技競技種目における志願者の割合の推移（武道課程）

２．入学者に関するデータ（６～10）

〇入学者の高校評定平均値の推移
〇一般入試合格者のセンター試験平均点推移
〇大学入試センター試験点数分布状況（スポーツ総合課程入学者）
〇大学入試センター試験点数分布状況（武道課程入学者）
〇一般入試入学者（スポーツ総合課程）の実技検査種目別所属体育系課外活動団体

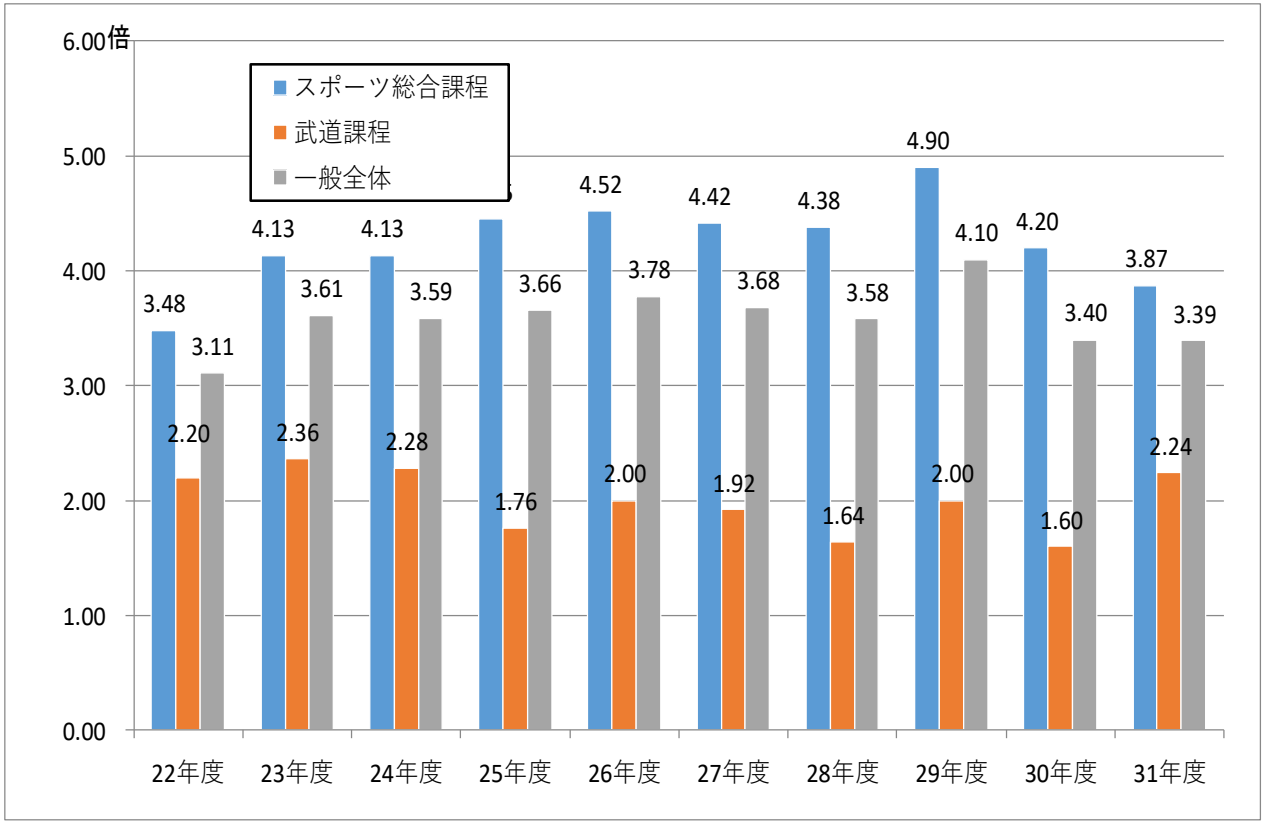
３．入学後の競技成績に関するデータ（11～12）

〇AO・推薦入試による入学者の学長表彰受賞者数
〇学長表彰受賞者の入学者に対する割合（AO入試、推薦入試）

４．入学後の学業成績に関するデータ（13～15）

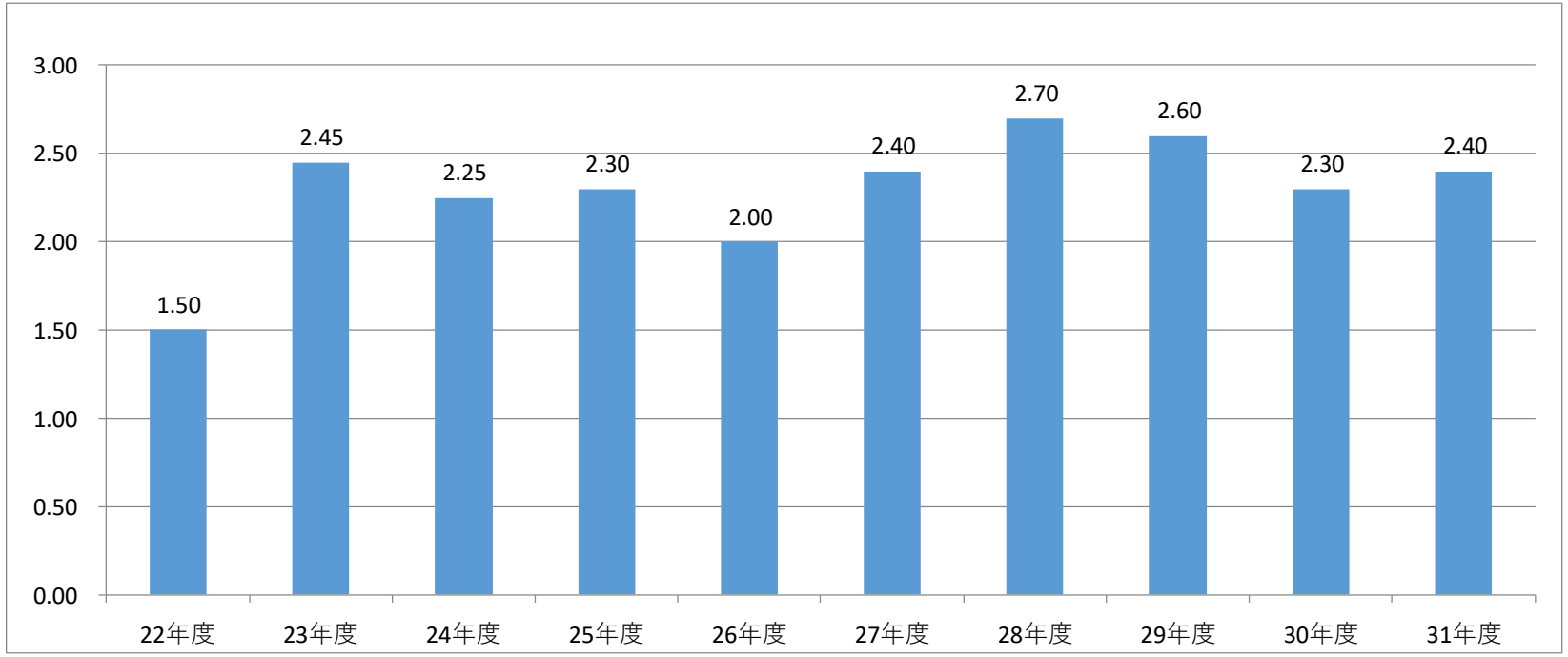
〇学業成績（修得済科目数に対するＡ評価の割合）の比較
〇入試区分別退学率（平成20年度以降）
〇4年次における卒業不可率（平成19年度以降入学者）

一般入試の志願倍率の推移



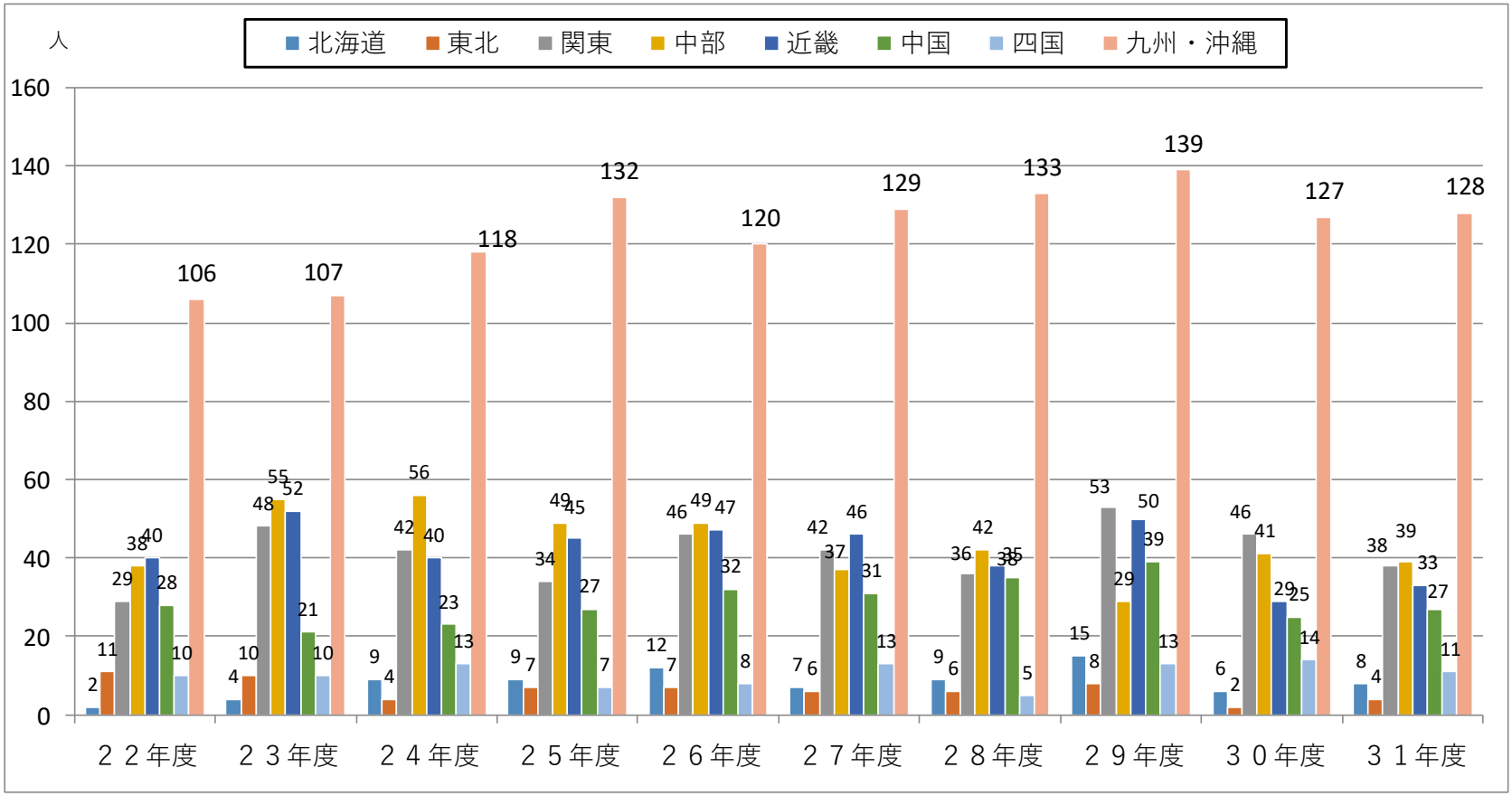
○平成31年度入試の志願倍率は、前年度と比較して、スポーツ総合課程は低下、武道課程は上昇した。

３年次編入学試験の志願倍率の推移



〇3年次編入学試験の平成31年度入試の志願倍率は、前年度からやや上昇した。

一般入試地区別志願数推移



〇例年、九州・沖縄地区の志願者が130名前後の高い数値で推移している。

一般入試実技競技種目における志願者の割合の推移
（スポーツ総合課程）

競技種目	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
陸上競技	17.70%	12.90%	7.70%	11.20%	9.60%	12.10%	11.80%	18.00%	16.80%	18.10%
器械運動	0.50%	0.80%	1.60%	1.50%	1.10%	0.80%	2.30%	1.40%	1.20%	0.00%
水泳（競泳）	4.30%	4.00%	6.50%	4.90%	6.60%	5.30%	2.30%	6.10%	7.60%	5.17%
バスケットボール	13.40%	12.50%	10.10%	9.40%	7.70%	11.70%	9.10%	8.10%	8.80%	7.33%
サッカー	15.30%	14.20%	17.70%	19.50%	24.00%	18.00%	22.00%	18.00%	18.00%	14.66%
テニス	3.80%	4.00%	4.80%	3.70%	1.80%	4.20%	5.70%	3.40%	2.80%	2.59%
バレーボール	4.30%	3.60%	4.40%	3.70%	4.10%	2.30%	3.80%	2.70%	3.60%	3.88%
ヨット	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.40%	0.43%
ボードセーリング	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
ボート	1.00%	0.00%	1.20%	1.90%	0.40%	0.40%	0.80%	0.30%	0.00%	0.86%
カヌー	0.50%	0.00%	1.20%	0.40%	0.40%	1.10%	0.00%	0.70%	1.60%	0.00%
運動能力検査	39.20%	48.00%	44.80%	43.80%	44.30%	44.10%	42.20%	41.30%	39.20%	46.98%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

〇運動能力検査を選択する志願者が前年度より増加し、約半数となっている。

一般入試実技競技種目における志願者の割合の推移
（武道課程）

競技種目	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
柔道	27.30%	30.50%	35.10%	18.20%	28.00%	25.00%	31.70%	33.30%	25.00%	25.00%
剣道	72.70%	69.50%	64.90%	81.80%	72.00%	75.00%	68.30%	66.70%	75.00%	75.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

〇平成31年度は、昨年度同様、柔道25%、剣道75%であった。

入学者の高校評定平均値の推移

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
AO入試	3.8	3.9	3.8	4.1	4.2	4.0	3.7	3.8	4.0	4.4
推薦入試	4.1	4.0	4.0	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1
一般入試	3.7	3.8	3.7	3.8	3.7	3.8	3.9	3.9	4.0	3.9

〇AO入試の評定平均値が例年より高かった。推薦入試、一般入試は例年並みの数値であった。

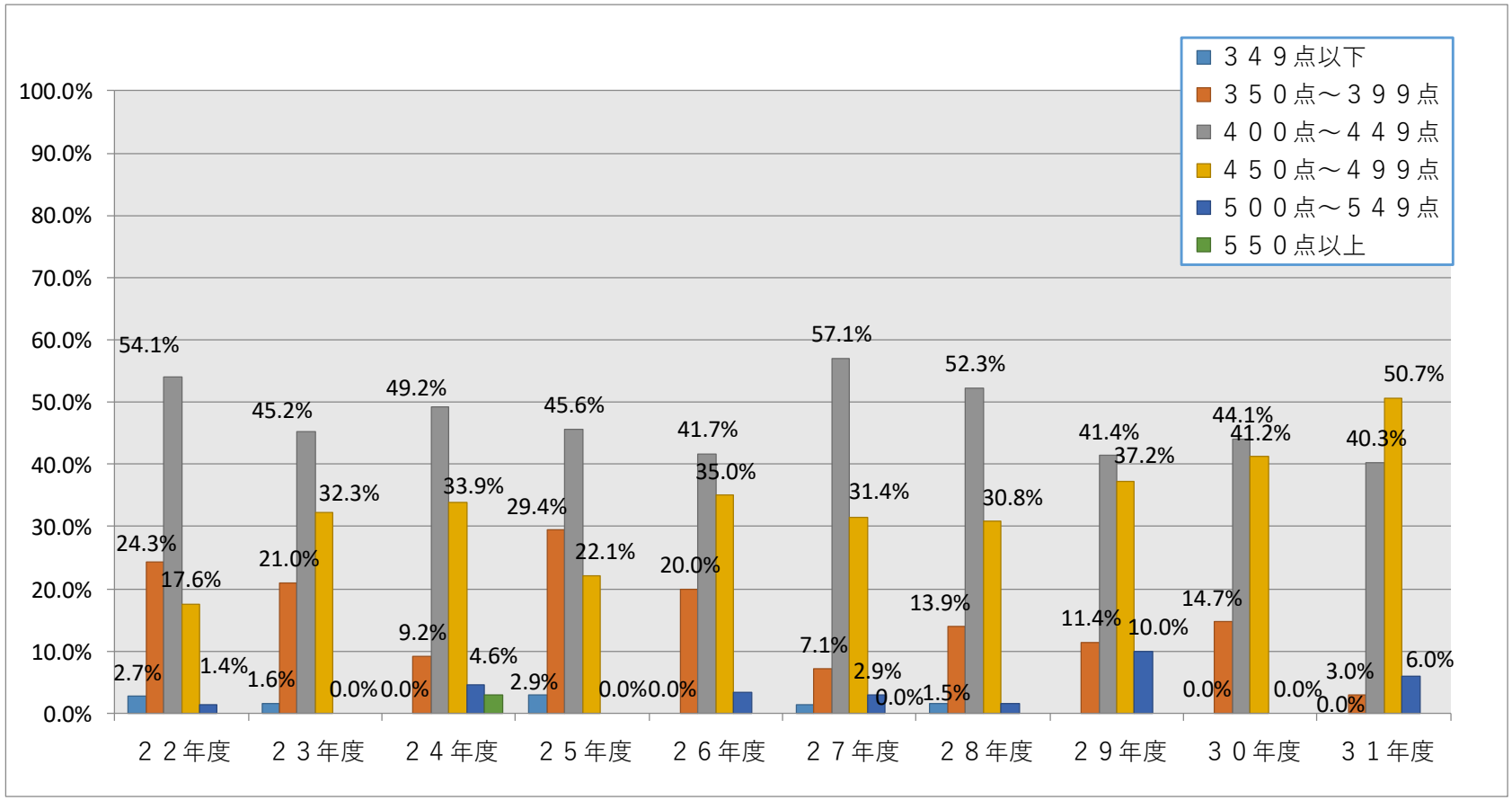
一般入試合格者のセンター試験平均点推移

満点：600点

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
スポーツ総合	420.0	430.6	452.0	418.9	437.1	435.9	433.6	448.6	437.1	451.9
武道	373.3	389.4	405.0	369.0	383.2	378.9	379.9	385.7	358.1	388.0
全体	407.3	418.5	431.9	406.1	421.2	419.2	418.1	430.2	413.5	433.2

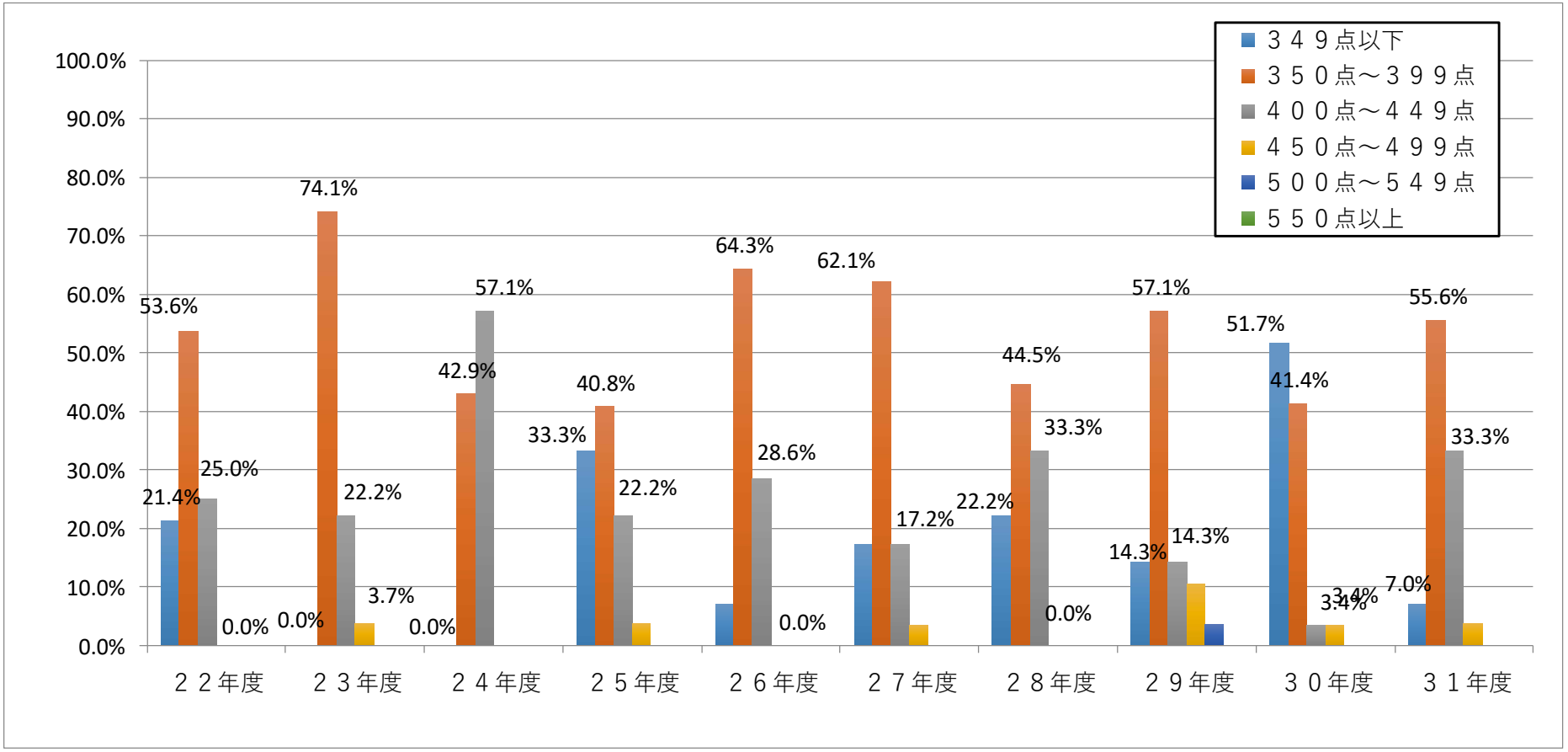
○平成31年度は、スポーツ総合課程、武道課程とも前年度から上昇した。

大学入試センター試験点数分布状況（スポーツ総合課程入学者）



○31年度は450～499点の層が増加し、全体の半分近くとなっている。

大学入試センター試験点数分布状況（武道課程入学者）

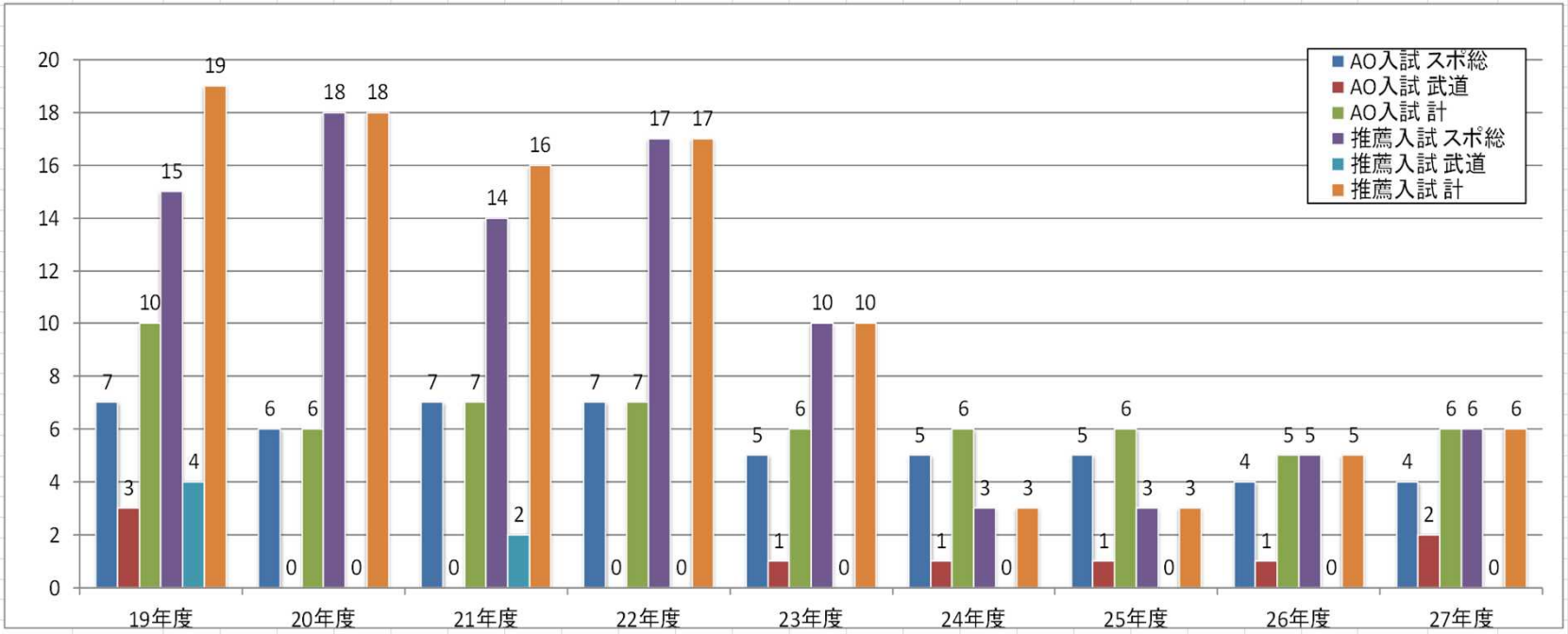


○31年度は前年度と比較して、400～449点の層が大幅に増加した。

AO・推薦入試合格者の入学後の学長表彰受賞者数

※複数回受賞者も1名として計上

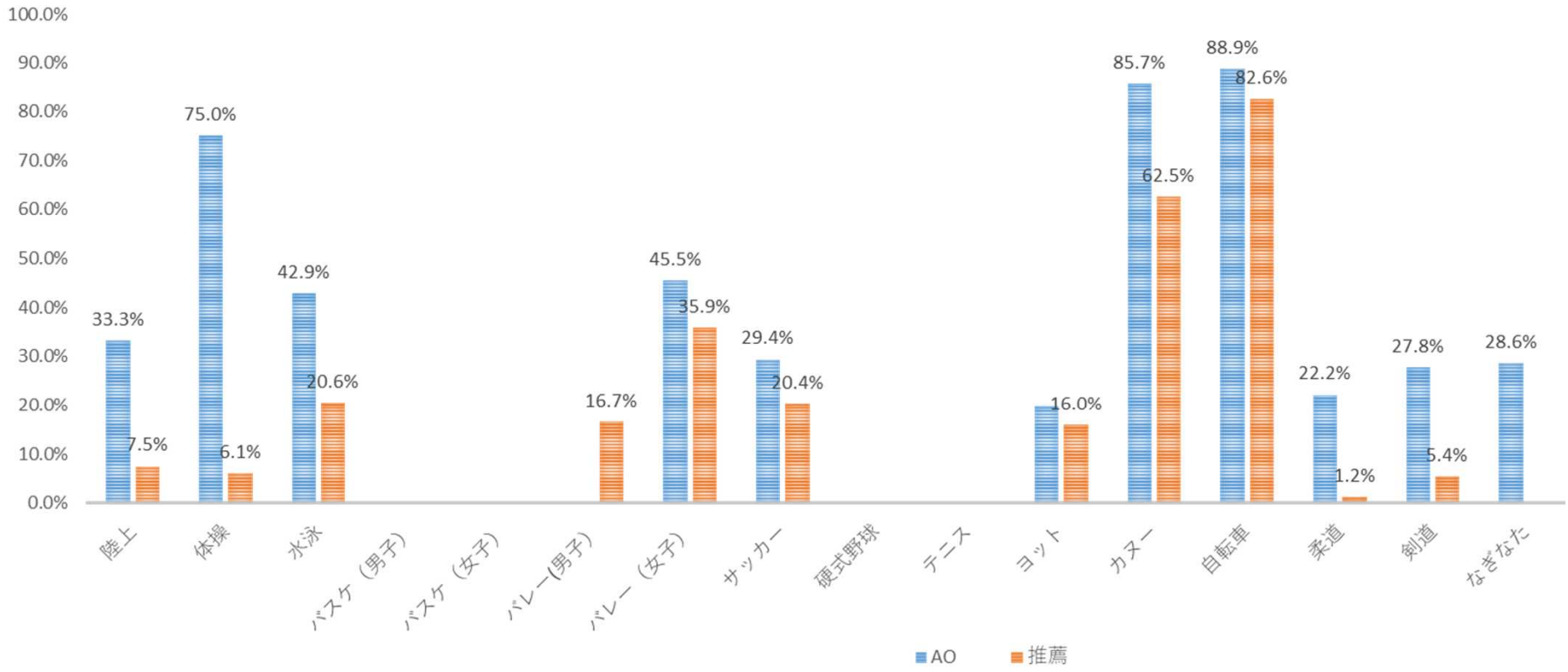
区分		入学年度								
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
AO入試	スポ総	7	6	7	7	5	5	5	4	4
	武道	3	0	0	0	1	1	1	1	2
	計	10	6	7	7	6	6	6	5	6
推薦入試	スポ総	15	18	14	17	10	3	3	5	6
	武道	4	0	2	0	0	0	0	0	0
	計	19	18	16	17	10	3	3	5	6



〇AO入試、推薦入試合格者の入学後の学長表彰受賞者数は、昨年度よりやや増加した。

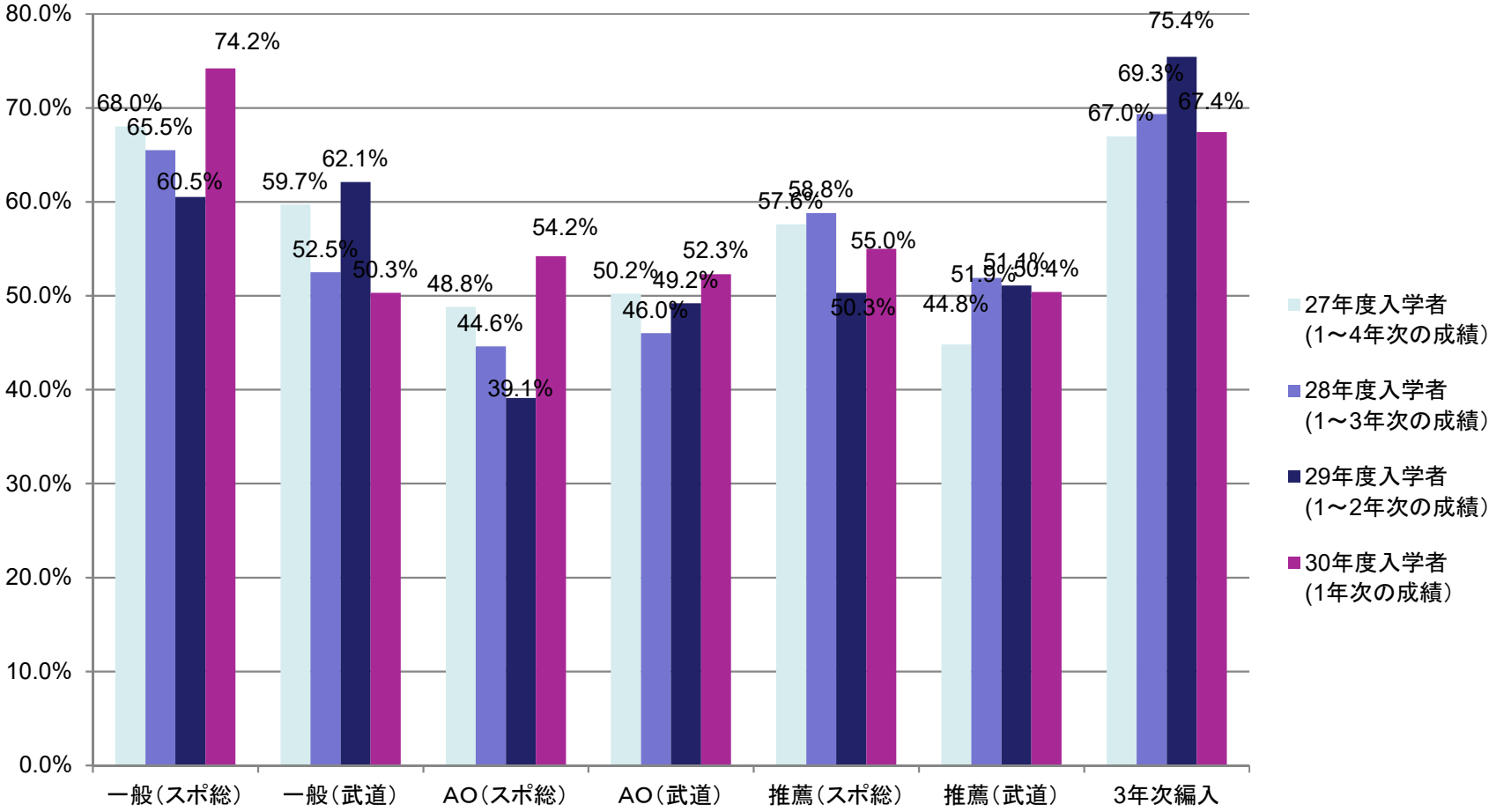
学長表彰受賞者の入学者に対する割合

（AO入試、推薦入試）※平成19～27年度入学者累計



学業成績（修得科目数に対するA評価の割合）の比較

平成30年度末時点



入試区分別退学率（平成20年度以降）

区　分	入学者数		退学者	退学率
AO入試	20年度	13		0.00%
	21年度	10		0.00%
	22年度	13	1	7.69%
	23年度	15	1	6.67%
	24年度	13		0.00%
	25年度	14		0.00%
	26年度	12	1	8.33%
	27年度	15		0.00%
	28年度	14	1	7.14%
	29年度	15		0.00%
	30年度	15		0.00%
	小　計	149	4	2.68%
推薦入試	20年度	70	4	5.71%
	21年度	74	9	12.16%
	22年度	71	3	4.23%
	23年度	71	2	2.82%
	24年度	72	2	2.78%
	25年度	72	1	1.39%
	26年度	73	2	2.74%
	27年度	70	2	2.86%
	28年度	71	1	1.41%
	29年度	70		0.00%
	30年度	70		0.00%
	小　計	784	26	3.32%

※除籍者は除く

区　分	入学者数		退学者	退学率
一般入試	20年度	96	4	4.17%
	21年度	94	5	5.32%
	22年度	102	6	5.88%
	23年度	90	5	5.56%
	24年度	93	2	2.15%
	25年度	95	2	2.11%
	26年度	88		0.00%
	27年度	94	4	4.26%
	28年度	92	2	2.17%
	29年度	91	2	2.20%
	30年度	91		0.00%
	小　計	1026	32	3.12%
編入学	20年度	21		0.00%
	21年度	22		0.00%
	22年度	20		0.00%
	23年度	20	2	10.00%
	24年度	20		0.00%
	25年度	20		0.00%
	26年度	19		0.00%
	27年度	20	2	10.00%
	28年度	20		0.00%
	29年度	19		0.00%
	30年度	19		0.00%
	小　計	220	4	1.82%
合　計		2,179	66	3.03%

〇ここ数年においては、AO、推薦入学者は退学が少ない状況である。

4年次における卒業不可率（平成19年度以降入学者）

入学年度		１９年度				２０年度				２１年度				２２年度				２３年度			
選抜区分	課程	入学者数	中途退学者等	卒業不可者	卒業不可率	入学者数	中途退学者等	卒業不可者	卒業不可率	入学者数	中途退学者等	卒業不可者	卒業不可率	入学者数	中途退学者等	卒業不可者	卒業不可率	入学者数	中途退学者等	卒業不可者	卒業不可率
AO	スポーツ総合	10	0	0	0.0%	8	0	0	0.0%	7	0	0	0.0%	10	1	0	7.7%	10	0	2	14.3%
	武道	6	0	0		5	0	0		3	0	0		3	0	0		4	0	0	
推薦	スポーツ総合	49	0	8	11.6%	50	2	3	10.0%	52	2	5	12.2%	50	1	0	7.0%	50	2	0	5.6%
	武道	20	0	0		20	0	2		22	2	0		21	1	3		21	0	2	
一般	スポーツ総合	65	3	7	14.0%	66	3	3	9.4%	66	2	4	9.6%	74	3	3	8.8%	62	3	2	9.0%
	武道	28	1	2		30	1	2		28	2	1		28	1	2		27	0	3	
計	スポーツ総合	124	3	15	11.8%	124	5	6	8.9%	125	4	9	10.1%	134	5	3	8.1%	122	5	4	8.0%
	武道	54	1	2		55	1	4		53	4	1		52	2	5		52	0	5	

入学年度		２４年度				２５年度				２６年度				２７年度				計			
選抜区分	課程	入学者数	中途退学者等	卒業不可者	卒業不可率	入学者数	中途退学者等	卒業不可者	卒業不可率	入学者数	中途退学者等	卒業不可者	卒業不可率	入学者数	中途退学者等	卒業不可者	卒業不可率	入学者数	中途退学者等	卒業不可者	卒業不可率
AO	スポーツ総合	10	0	0	0.0%	11	0	0	0.0%	9	1	0	8.3%	11	0	0	0.0%	86	2	2	3.3%
	武道	3	0	0		3	0	0		3	0	0		4	0	0		34	0	0	
推薦	スポーツ総合	51	1	2	5.6%	50	1	0	4.2%	51	2	3	8.2%	50	2	1	5.7%	453	13	19	7.2%
	武道	21	1	0		22	0	2		22	0	1		20	1	0		189	5	9	
一般	スポーツ総合	65	2	2	6.5%	70	2	3	6.1%	60	0	2	4.5%	66	3	3	7.4%	594	21	27	7.9%
	武道	28	0	2		28	0	1		28	0	2		28	0	1		253	5	14	
計	スポーツ総合	126	5	4	6.7%	126	3	4	5.6%	131	3	3	4.9%	120	3	5	6.4%	1132	36	53	7.8%
	武道	52	1	2		52	1	2		53	0	3		53	0	3		476	10	27	

入学年度		２１年度				２２年度				２３年度				２４年度				２５年度			
選抜区分	課程	入学者数	中途退学者等	卒業不可者	卒業不可率	入学者数	中途退学者等	卒業不可者	卒業不可率	入学者数	中途退学者等	卒業不可者	卒業不可率	入学者数	中途退学者等	卒業不可者	卒業不可率	入学者数	中途退学者等	卒業不可者	卒業不可率
編入	スポーツ総合	21	0	2	9.1%	19	0	0	0.0%	20	1	1	10.0%	20	0	1	5.0%	19	0	0	0.0%
	武道	1	0	0		1	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0	

入学年度		２６年度				２７年度				２８年度				２９年度				計			
選抜区分	課程	入学者数	中途退学者等	卒業不可者	卒業不可率	入学者数	中途退学者等	卒業不可者	卒業不可率	入学者数	中途退学者等	卒業不可者	卒業不可率	入学者数	中途退学者等	卒業不可者	卒業不可率	入学者数	中途退学者等	卒業不可者	卒業不可率
編入	スポーツ総合	20	0	3	15.0%	20	0	4	20.0%	20	0	1	5.0%	20	0	4	20.0%	179	1	16	9.4%
	武道	0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0		2	0	0	

アカデミー形成支援事業本学学生の参加状況について

開催回数	セミナー名	学部生参加者	大学院生参加者
第1回 2015年３月	国際オリンピックマネジメントセミナー	0	3
第1回 2015年３月	国際スポーツアカデミーシンポジウム	7	5
第2回 2015年８～９月	国際オリンピックマネジメントセミナー 最先端スポーツパフォーマンスセミナー	0	3
第3回 2016年２～３月	国際オリンピックマネジメントセミナー	0	3
第2回 2016年３月	国際スポーツアカデミーシンポジウム	3	3
第4回 2016年９月	国際オリンピックマネジメントセミナー 最先端スポーツパフォーマンスセミナー	0	15
第5回 2017年３月	国際オリンピックマネジメントセミナー	0	0
第3回 2017年３月	国際スポーツアカデミーシンポジウム	1	2
第6回 2017年９月	国際オリンピックマネジメントセミナー	0	15
第1回 2017年９月	国際スポーツアカデミーカンファレンス	2	6
第7回 2018年３月	最先端スポーツパフォーマンスセミナー	0	1
第8回 2018年８～９月	国際オリンピックマネジメントセミナー	0	8
第9回 2019年２～３月	最先端スポーツパフォーマンスセミナー	0	1
第10回 2019年８月	最先端スポーツパフォーマンスセミナー	0	10

トビタテ！留学JAPAN、国際交流協定校への学生留学、海外の大学への短期研修プログラムの取り組み状況（2016～2019年度）

１．国際交流協定校への交換留学

年度	派遣先	学年（派遣当初）	期間	備考
H28（2016）	韓国体育大学校	学部１年	H29.3～H30.2	
H29（2017）	上海体育学院	学部１年	H30.2～H31.1	
H30（2018）	国立体育大学	学部４年	H31.2～R2.1	

※R2.3～R3.2に韓国体育大学校へ2名を派遣予定であったが、新型コロナウイルスの影響で派遣を延期

２．トビタテ！留学JAPAN

年度	留学国	学年（派遣当初）	期間	コース
H29（2017）	ポルトガル	学部３年	H29.9.11～H30.8.4	多様性人材コース

３．短期研修（国際交流協定校）

年度	研修先	期間	参加者数	参加者数内訳
H29（2017）	上海体育学院	H29.9.23～H29.9.27	10	学部生１０名
H30（2018）	国立体育大学	H30.9.23～H30.9.27	4	学部生４名
R1（2019）				

※R1は本学で協定校（台湾）の研修受け入れ

４．短期研修（国際交流協定校以外）

年度	研修先	期間	参加者数	参加者数内訳
H29（2017）	アメリカ・オレゴン州	H29.8.26～H29.9.10	1	学部生１名
H29（2017）	アメリカ・ハワイ州	H30.3.1～H30.3.11	2	学部生２名
H30（2018）	オーストラリア・シドニー	H30.11.27～H30.12.3	3	学部生２名、 特別聴講学生１名
H30（2018）	アメリカ・ハワイ州	H31.3.7～H31.3.18	3	学部生３名
R1（2019）	アメリカ・ハワイ州	R1.9.15～R1.9.27	3	学部生３名
R1（2019）	オーストラリア・シドニー	R2.3.7～R2.3.23	0※	

※学部生4名を派遣予定であったが、新型コロナウイルスの影響で中止

２０１９年度「鹿屋体育大学学生挑戦プロジェクト」実施要項

１．目的・概要

本事業は、学生の叶えたいプロジェクト、実現したい企画を募集し、その実現を支援することにより、学生の自主性、企画力、創造性を養うとともに、キャンパスライフの充実・活性化を図ることを目的とする。

２．採択件数

３件程度

３．援助内容

企画に必要な経費として、１件につき、15 万円（海外での挑戦は 30 万円）を限度額として支援することでプロジェクトの実現を図る。ただし、審査結果や採択件数により、プロジェクトの実現が可能な範囲で配分額を調整する場合がある。

(1) 必要物品の提供については、現物支給で行う。大学を経由せずに購入した物品の代金は、支給しない。
(2) 備品については、プロジェクト終了時に返却する。
(3) 物品によっては、支給できないもの（飲食物など）があるので、応募者は予め確認すること。

4．募集内容

学生が主体的に企画・提案するプロジェクトで、下記の３点いずれかの内容を含むもの。また、学生が主体であれば、教職員と連携することも可能とする。

① 個人では実現が困難な大きな夢が盛り込まれた企画
② キャンパスライフを充実・活性化させる企画
③ 地域とのつながりが深まる企画

また、複数年で企画されたプロジェクトの申請も可能とする。ただし、毎年審査を行う。

５．応募条件

本学の学部学生、大学院生又はそのグループで、「４．募集内容」にそった企画・プロジェクトで、２０２０年２月までに企画を実施し、その成果を報告できること

6．応募締切日

２０１９年5月２７日（月）

7．応募方法

所定の応募用紙に必要事項を記入の上、学生課に提出する。
また、プロジェクトに関する参考資料（ポンチ絵など）がある場合には、応募用紙に添付する。

8．審査基準

応募された企画・提案の審査基準は次のとおり。

(1) プロジェクトとして、「4．募集内容」にそった企画であるか。

(2) プロジェクトの実現のため、学生による主体的な取組が具体的に表現されているか。

(3) 実現のための予算が適正で明確に示されているか。

9．審査要領

応募された企画・提案の審査要領は次のとおり。

1次審査：審査員による書類審査

応募締め切り後、各審査員に資料を配付し、6月初旬を目途に審査の上、確定する。

2次審査：発表会を6月中旬頃に実施し、審査を行う。

発表は、1件20分程度（発表15分、質疑5分）とする。

10. 審査員

次の者をもって充てる。

学長補佐（学生支援担当）、学生委員会委員　若干名、学生課長、体育会副会長

11. 審査結果の発表

審査結果は、2次審査終了後のおおよそ1週間後に代表者あてに知らせる。

12. 成果報告会

成果報告会（2020年2月中旬から3月初旬を予定）で発表し、活動内容・成果等を報告する。

また、所定の成果報告書を作成する。

※採択されたプロジェクトの進行状況等については、学生課に定期的に報告する。

13. 参考（過去3年間の採択プロジェクト）

年度	プロジェクト名
平成28年度	実技指導の総合力向上プロジェクトーースポーツ・インテグリティを求めてー
	屋外トレ場をもっと良い環境にしよう！
	世界の棒高跳事情を体験するとともに、トビタテJAPANへの足がかりをつける ～オークランド工科大学への訪問～
平成29年度	保健体育授業実践の総合力向上プロジェクト～専門家としての教師をめざして～
	教員になるための勉強会～集団討論、小論文の試験対策を通して～
	平成２８年度台風１６号による大隅湖被害の復旧と流木の再利用化
平成30年度	日本体操界トップチームの練習を体感する
	フランス知的障がい柔道の実態調査

学生挑戦プロジェクト取り組み状況（2016～2019年度）

年度	学部				大学院				計			
	申請		採択		申請		採択		申請		採択	
	国内	海外	国内	海外	国内	海外	国内	海外	国内	海外	国内	海外
平成28年度（2016年度）	1	**0**	1 辞退	**0**	1	**1**	1	**1**	2	**1**	2 ※1件辞退	**1**
平成29年度（2017年度）	4	**1**	3	**0**	1	**0**	0	**0**	5	**1**	3	**0**
平成30年度（2018年度）	1	**1**	1	**1**	0	**0**	0	**0**	1	**1**	1	**1**
令和元年度（2019年度）	1	**6**	0	**3**	0	**1**	0	**0**	1	**7**	0	**3**

※2019年度から、海外挑戦枠（支援上限額30万円）を新設

機能強化経費による海外の大学等での調査研究の支援状況

海外の大学・研究機関で調査研究等を行う本学の学生に対して、国内旅費、渡航費、滞在費等必要経費の一部を支援し、学生の海外での教育研究活動を活性化し、グローバルに活躍できる人材養成の推進を図る。

年度	支援人数			支援金額合計
	学部	修士課程	博士後期課程	
H30（2018）	―	―	―	申請なし
R1（2019）	1	―	―	129,000

※平成30（2018）年度から実施

企業実習の実施状況（2016～2019年度）

2016年度

授業科目名	NO	学年	実習先		
			実習希望先	実習期間	実習受入部署
企業実習（実習1週）	1	4	三洋ハウス（株）	9/16（金）～9/20（火）	総務部 企画管理課
	2	4	鹿屋市	8/15（月）～8/19（金）	市民 スポーツ課
	3	4	鹿屋市	8/8（月）～8/12（金）	市民 スポーツ課
	4	3	Ciel Bleu 鹿屋	9/20（火）～9/24（土）	ゼネラルマネージャー 兼監督付

2017年度

授業科目名	NO	学年	実習先		
			実習希望先	実習期間	実習受入部署
企業実習（実習1週）	1	3	鹿屋市役所 市民生活部市民スポーツ課	8/4～8/10 （※8/5.6休）	市民生活部 市民スポーツ課
	2	3	鹿児島県・アジア太平洋 農村研修センター	9/28～10/3 （※10/2が休館日の予定の為、10/3に実習を実施予定）	研修課

2018年度

授業科目名	NO	学年	実習先		
			実習希望先	実習期間	実習受入部署
企業実習（実習1週）	1	3	株式会社ワイシーグループ	9/5（水）～ 9/10(月) （※9/9休）	鹿児島支社
	2	3	株式会社パルコーポレーション	9/13（木） ～ 9/18（火） （※9/14休）	ブライダル サービス課
	3	3	シエルブルー株式会社	9/5（水）～ 9/9（日）	ゼネラル マネージャー付

2019年度

授業科目名	NO	学年	実習先		
			実習希望先	実習期間	実習受入部署
企業実習（実習1週）	1	3	鹿屋市役所 （ふるさとPR課、市民スポーツ課）	8/5～8/9	ふるさとPR課 市民スポーツ課

令和元年度第２０回教務委員会（書面会議）議事要旨

１．日　時　　令和２年１月１６日（月）～令和２年１月２３日（木）

２．場　所　　書面会議

３．議　題

審議事項

１．令和２年度年度当初の学生指導関係行事日程表及び各種オリエンテーション等の担当について（資料１）

標記のことについて、原案のとおり了承された。

２．令和２年度年度計画及び実行計画について（資料２）

標記のことについて、原案のとおり了承された。

３．卒業研究題目の本学ホームページにおける公表について（資料３）

標記のことについて、原案のとおり了承された。

４．令和２年度非常勤講師の任用計画について（資料４）

標記のことについて、原案のとおり了承された。

報告事項

１．令和元年度後期補講日程について（資料５）

標記のことについて、資料のとおり報告があった。

卒業研究に関する申合せ

（平成１０年３月５日
教務委員会決定）
改正　平成１５年２月６日
平成２５年２月２８日
平成３１年４月１９日
令和２年１月２３日

1　卒業研究を提出できる者は、４年次までに９０単位（ゼミナールⅡ４単位を含む）を修得した上で、別に定める期限までに概要（プロポーザル）（別紙様式１）を提出し、かつ、大学が行う卒業研究中間発表会において発表を行なったものとする。

2　卒業研究を提出しようとする者は、指導教員の了承を経て、次の各号に掲げるものを別に定める提出期限内に教務課に提出するものとする。

(1) 卒業研究報告要旨　３部　（正本１部、副本２部）（別紙様式２）

(2) 卒業研究　１編（別紙様式３）

(3) 卒業研究題目公表に係る確認書　１編（別紙様式４）

3　卒業研究の単位は、卒業研究の成果を評価して認定するものとする。

4　卒業研究は、主査１名と副査１名の２名によって評価するものとする。

5　指導教員は主査を担当し、副査は当該卒業研究の内容に関連する本学の教授、准教授又は講師とする。

6　主査は、評価の結果を当該学期の成績提出期限内に教務課に提出するものとする。

7　卒業研究を不合格又は未提出のため卒業できなかった者は、次年度の前期以降に評価を受けられるものとし、合格した場合には当該学期末に卒業するものとする。

8　各学期の評価及び卒業の時期は、次のとおりとする。

後期の評価は１月から２月に行い、卒業は３月末とし、前期の評価は７月に行い、卒業は９月末とする。

9　鹿屋体育大学学則第３４条に規定する卒業（早期卒業）に関しては、別に定める。

別紙様式１

卒業研究の概要（プロポーザル）

学籍番号・氏名　　㊞

Ⅰ．研究題目

Ⅱ．研究の動機

Ⅲ．目的

Ⅳ．方法

指導教員　　㊞

別紙様式２

卒業研究報告要旨

研究題目

〔記入例：1000 字程度でパソコン等で印刷（A4 版ヨコ 40 字)〕したものを提出する。

○○
○○

○○

鹿屋体育大学体育学部　　課程
学籍番号
氏　　名

指導教員　　　　　　　　　　　　　㊞

別紙様式３

令和　　年度　卒　業　研　究

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○(卒業研究題目)

指導教員　○　○　○　○

学籍番号　○○○○○○

氏　　名　○　○　○　○

別紙様式４

卒業研究題目公表に係る確認書

令和　　年　　月　　日

鹿屋体育大学長　様

課　　程
（フリガナ）
氏　　名　　（署名）
学籍番号

私が提出した卒業研究について、鹿屋体育大学ウェブサイトにて「氏名」を公表することについて、

□　承諾します。

□　承諾しません。

※　本学では、卒業研究の「卒業研究題目」及び「ゼミナール指導教員名」を公表します。

※　令和　　年　　月　　日（　）までに必ず提出してください。

平成28年度FD事業への教員の参画状況

るFD事業	①	①	①	①	①	①	①	②	②	③	④						④	⑤	
FD事業	授業参観（参観者）	FD研修会	FD研修会	FD講演会・研修会	外部研修	新任教員研修会	TA研修会	授業アンケート	授業改善報告書	アクティブ・ラーニングに係るアンケート	ミニマム・エッセンシャル作成	合計（回数）自主参加のもののみ	合計（回数）授業評価アンケートを含む	合計（回数）ALアンケートを含む	合計（回数）ミニマム・エッセンシャルを含む	備考	TA報告書	授業記録の確認	
担当		和田	金高	金高		川西・金久・金瀬	金高・三浦										藤田・三浦		
期間	任意	12/8、12/12	3/22	12/26	10/7	4/1、9/1	4/7、4/28	前・後期	前・後期	未実施									
		WebClass講習会	ICT、AL、GPA	アクティブ・ラーニング								①	①＋②	①＋②＋③	①＋②＋③＋④				
スポーツ・武道実践科学系								○	○			0	2	2	2				2
			○									1	1	1	1				1
	○		○							○		2	2	3	3			○	4
										○		0	0	1	1			○	2
	○			○						○		2	2	3	3		○	○	5
			○	○	○	○	○	○	○	○		5	7	8	8				8
								○		○		0	1	2	2		○		3
		○	○	○						○		3	3	4	4				4
								○		○		0	1	2	2				2
								○		○		0	1	2	2				2
								○		○		0	1	2	2				2
										○		0	0	1	1				1
										○		0	0	1	1				1
	○		○				○	○	○	○		3	5	6	6		○	○	8
	○							○		○		1	2	3	3				3
								○		○		0	1	2	2		○		3
										○		0	0	1	1				1
	○					○				○		2	2	3	3				3
										○		0	0	1	1			○	2
										○		0	0	1	1				1
			○							○		1	1	2	2			○	3
										○		0	0	1	1				1
										○		0	0	1	1			○	2
	○											1	1	1	1				1
			○							○		1	1	2	2				2
スポーツ生命科学系										○	○	0	0	1	2			○	3
								○	○	○	○	0	2	3	4				4
	○							○	○	○	○	1	3	4	5			○	6
								○		○	○	0	1	2	3				3
										○		0	0	1	1				1
												0	0	0	0			○	1
												0	0	0	0			○	1
			○							○		1	1	2	2				2
	○		○	○				○	○	○	○	3	5	6	7		○	○	9
		○	○									2	2	2	2	H28.9.1採用			2
	○									○		1	1	2	2			○	3
								○	○			0	2	2	2				2
								○	○	○	○	0	2	3	4				4
			○	○						○		2	2	3	3				3
								○		○	○	0	1	2	3		○		4
				○								1	1	1	1				1
	○			○						○	○	2	2	3	4			○	5
スポーツ人文・応用社会科学系						○						1	1	1	1				1
										○		0	0	1	1				1
	○	○	○							○	○	3	3	4	5			○	6
	○							○		○	○	1	2	3	4				4
	○							○		○	○	1	2	3	4				4
		○						○		○		1	2	3	3				3
	○		○							○		2	2	3	3				3
			○							○		1	1	2	2				2
										○	○	0	0	1	2		○	○	4
		○								○		1	1	2	2				2
								○		○		0	1	2	2				2
	○	○	○	○						○		4	4	5	5			○	6
		○	○	○				○		○		3	4	5	5				5
								○	○			0	2	2	2	後期から長期研修			2
			○					○	○	○		1	3	4	4				4
		○								○		1	1	2	2				2
	○	○	○	○	○			○		○		5	6	7	7				7
			○							○		1	1	2	2				2
										○	○	0	0	1	2				2
						○				○	○	1	1	2	3				3
		○								○	○	1	1	2	3		○		4
合計	16	10	19	10	2	4	2	24	10	53	15	35	48	61	61		8	17	

63

参加率	96.8%
合計回数	165
平均回数	2.6

※ 「授業アンケート」のうち、□は担当授業が実施対象外の教員

※ 「FD講演会」は未実施

※ 「新任教員研修会」のうち、□は担当教員及び対象教員以外の教員

※ 「TA研修会」のうち、□は担当以外の教員

平成29年度FD事業への教員の参画状況

	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	②	②	③	④				
FD事業	授業参観（参観者）	授業参観（参観者）	授業参観（参観者）	授業参観（参観者）	授業参観（参観者）	新任教員研修会	FD講演会	FD講演会	FD研修会	TA研修会	学外研修	授業アンケート結果振り返り	授業アンケート結果振り返り	アクティブ・ラーニングに係るアンケート	ミニマム・エッセンシャル作成	合計（回数）自主参加のもののみ	合計（回数）授業振り返りアンケートを含む	合計（回数）アクティブ・ラーニングアンケートを含む	合計（回数）ミニマム・エッセンシャル作成を含む
担当	藤坂・金高	藤坂・金高	藤坂・金高	藤坂・金高	藤坂・金高	角川	中垣内・藤坂	藤坂・中垣内	藤坂	三浦	藤坂	金高	金高	金高	金高				
期間	10/16 10/30	11/13	11/24	10/19 10/26	任意	4/3	6/29	2/16	12/4	4/6 4/10		前期	後期						
	バレーボール（濱田（泰）先生）	教育方法・技術（中本先生）	教育相談・カウンセリング論（中本先生）	トレーニング科学概論（山本先生）			PROGテスト解説会	FD講演会	シラバスの書き方ワークショップ							①	①＋②	①＋②＋③	①＋②＋③＋④
スポーツ・武道実践科学系				○			○	○	○			○	○	○	○	4	6	7	8
				○								○		○		1	2	3	3
				○	○		○	○	○			○	○	○		5	7	8	8
						○	○		○	○		○	○	○	○	4	6	7	8
		○						○				○	○	○	○	2	4	5	6
					○			○	○			○	○	○	○	3	5	6	7
							○					○		○		1	2	3	3
		○					○					○	○	○		2	4	5	5
							○					○	○	○		1	3	4	4
							○	○				○	○	○	○	2	4	5	6
				○								○	○			1	3	3	3
		○					○	○				○	○			3	5	5	5
									○	○		○	○	○	○	2	4	5	6
		○										○			○	1	2	2	3
				○								○	○	○		1	3	4	4
	○	○		○	○							○	○			4	6	6	6
	○			○			○		○			○	○			4	6	6	6
				○									○	○		1	2	3	3
	○											○				1	2	2	2
							○	○				○	○			2	4	4	4
									○			○	○			1	3	3	3
												○				0	1	1	1
		○										○	○			1	3	3	3
スポーツ生命科学系							○					○	○	○		1	3	4	4
				○					○			○	○	○		2	4	5	5
		○												○		1	1	2	2
				○			○	○				○		○	○	3	4	5	6
					○		○	○	○					○		4	4	5	5
		○		○		○	○					○	○	○		4	6	7	7
						○	○		○						○	3	3	3	4
												○		○	○	0	1	2	3
															○	0	0	0	1
				○			○		○			○	○	○	○	3	5	6	7
				○			○		○			○		○	○	3	4	5	6
													○			0	1	1	1
													○	○	○	0	1	2	3
					○							○	○	○		1	3	4	4
			○	○	○	○	○									5	5	5	5
スポーツ人文・応用社会科学系															○	0	0	0	1
															○	0	0	0	1
				○			○					○		○		2	3	4	4
				○			○					○		○		2	3	4	4
		○					○					○	○	○		2	4	5	5
				○								○	○	○		1	3	4	4
												○	○	○	○	0	2	3	4
			○				○		○			○	○	○	○	3	4	5	6
								○	○			○	○	○		2	4	5	5
	○							○				○	○	○		2	4	5	5
								○				○		○		1	2	3	3
											○	○			○	1	2	3	4
	○			○			○	○	○							5	5	5	5
	○				○							○		○		2	3	4	4
									○				○	○		1	2	3	3
		○		○			○		○			○	○	○	○	2	4	5	6
			○						○		○	○	○	○	○	6	8	9	9
									○					○	○	2	2	3	4
								○				○	○	○		1	3	4	4
	○						○	○					○	○		3	4	5	5
		○			○		○		○		○	○		○		5	6	7	7
合計	7	11	3	19	8	4	27	16	20	2	3	44	36	42	21	51	56	56	59

59

参加率	100%
合計回数	263
平均回数	4.5

※　「新任教員研修会」のうち、□は担当教員及び対象教員以外の教員

※　「TA研修会」のうち、◪は担当以外の教員

平成30年度FD事業への教員の参画状況

FD事業	授業参観（参観者）	授業参観（参観授業担当者）	FD講演・研修会	FD研修会※	e-Learning研修会	e-Learning研修会	FD講演会	FD講演会	FD講演会	外部研修	新任教員研修会	TA研修会	授業振り返りアンケート結果講評		合計	備考
期間			9/21	3/1	11/27	2/27	2/15	3/1	3/12				前期	後期		
教員氏名																
スポーツ・武道実践科学系	○	○			○	○	○						○	○	7	
									○				○		2	
	○	○	○	○				○	○				○	○	8	
		○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	11	
	○			○				○					○	○	5	
	○	○	○	○		○	○	○	○				○	○	10	
				○			○	○					○	○	5	
	○				○								○	○	4	
			○												1	
		○			○	○							○	○	5	
	○			○				○	○					○	5	
	○	○		○			○	○						○	6	
	○	○	○	○		○	○	○	○			○	○	○	11	
	○	○											○	○	4	
													○	○	2	
	○													○	2	
	○		○	○	○	○	○	○	○					○	9	
	○				○		○				○			○	5	
					○				○					○	3	
	○													○	2	
	○		○	○				○	○					○	6	
	○	○			○									○	4	
	○	○	○	○		○		○		○	○				8	
															0	
スポーツ生命科学系									○					○	1	
			○	○			○	○	○				○	○	7	
	○			○		○		○					○	○	6	
									○					○	2	
					○										1	*学部授業無し
															0	*学部授業無し
		○							○				○		3	
					○		○		○					○	4	
	○				○								○	○	4	
		○	○		○		○		○						5	
	○	○							○				○		4	
									○					○	2	長期研修
						○	○		○		○				4	
						○			○					○	3	
		○	○		○				○					○	5	
	○				○		○							○	4	
スポーツ人文・応用社会科学系									○				○		2	
	○			○	○	○		○	○				○	○	8	
	○												○	○	3	
	○				○	○							○	○	5	
	○			○	○	○		○					○	○	7	
	○					○			○				○	○	5	
			○										○	○	3	
	○	○	○				○						○	○	6	
													○		1	
		○							○	○			○	○	5	
	○				○	○	○		○				○	○	7	
	○		○		○	○	○		○		○			○	8	
	○			○	○	○		○	○				○	○	8	
		○	○		○	○							○	○	6	
	○		○		○		○		○				○	○	7	
		○	○		○	○	○		○				○	○	8	
		○			○								○	○	4	
		○			○				○					○	4	
	○	○	○		○				○				○	○	7	
合計	31	21	18	16	26	19	18	16	31	2	5	1	34	46	57	

57

参加率	100%
合計回数	284
平均回数	5.0

（保健管理センターを除く）

※　☑は担当教員及び対象教員以外の教員

令和元年度FD事業への教員の参画状況

FD事業	授業参観（参観者）	授業参観（推奨授業担当者）	SD・FD研修会	FD講演会	外部研修	新任教員研修会	TA研修会	授業振り返りアンケート結果講評		合計	備考
期間			10/17	1/27				前期	後期		
教員氏名											
教員1	○		○	○	○				○	5	
教員2			○						○	2	
教員3	○		○	○					○	4	
教員4	○		○	○		○		○	○	6	
教員5	○		○					○	○	4	
教員6	○		○					○	○	4	
教員7	○							○	○	3	
教員8		○						○	○	3	
教員9	○		○					○	○	4	
教員10	○							○	○	3	
教員11	○		○					○	○	4	
教員12	○		○						○	3	
教員13		○	○				○	○	○	5	
教員14	○							○	○	3	
教員15	○		○	○				○	○	5	
教員16	○			○				○	○	4	
教員17	○		○	○					○	4	
教員18	○									1	
教員19	○							○	○	3	
教員20	○		○					○	○	4	
教員21	○							○	○	3	
教員22									○	1	
教員23	○		○	○		○		○	○	6	
教員24								○	○	2	
教員25	○		○					○	○	4	
教員26	○	○								2	
教員27										0	*学部授業無し
教員28										0	*学部授業無し
教員29	○		○					○		3	
教員30	○								○	2	
教員31	○		○			○			○	4	
教員32	○		○	○				○	○	5	
教員33								○	○	2	
教員34								○		1	
教員35	○		○					○	○	4	長期研修
教員36	○			○				○	○	4	
教員37		○						○		2	
教員38	○			○				○	○	4	
教員39								○	○	2	
教員40	○			○		○		○	○	5	
教員41								○	○	2	
教員42	○								○	2	
教員43				○				○	○	3	
教員44	○		○	○				○		4	
教員45	○	○	○					○		4	
教員46		○	○	○				○	○	5	
教員47				○				○	○	3	
教員48			○	○						2	
教員49	○							○	○	3	
教員50	○							○	○	3	
教員51				○				○	○	3	
教員52		○						○	○	3	
教員53				○	○			○	○	4	
教員54	○			○				○	○	4	
教員55				○				○	○	3	
教員56	○	○		○	○	○		○	○	7	
教員57	○	○	○	○	○	○		○	○	8	
教員58	○							○	○	3	
教員59	○			○	○	○		○	○	6	
合計	39	9	24	23	5	7	1	45	49	57	

59

参加率 100%（保健管理センターを除く）

合計回数 202

平均回数 3.5

※ ◪は担当教員及び対象教員以外の教員

鹿屋体育大学大学教育再生加速プログラムに係る
平成２８年度第１回外部評価委員会　議事次第

日　時　平成２９年２月２７日（月）　１４：３０～１６：００

場　所　筑波大学東京キャンパス文京校舎内３２０講義室
鹿屋体育大学演習室Ⅳ（大学院棟２階）
※２つの会場を遠隔講義システムで中継して実施

出席者　【外部評価委員】
＊岡　　達生（公益財団法人日本体育協会スポーツ指導者育成部部長）
＊久保田　潤（独立行政法人日本スポーツ振興センター
スポーツ開発事業推進部研究員）
＊伊藤　雅充（日本体育大学児童スポーツ教育学部准教授）
【鹿屋体育大学】
・金久　博昭（鹿屋体育大学理事・副学長）
＊金高　宏文（鹿屋体育大学教授　教育企画・評価室長）
・国重　　徹（鹿屋体育大学教授　教育企画・評価室副室長）
・前阪　茂樹（鹿屋体育大学教授　教育企画・評価室員）
・和田　智仁（鹿屋体育大学准教授　教育企画・評価室員）
・與谷　謙吾（鹿屋体育大学講師　教育企画・評価室員）
・有馬　正人（鹿屋体育大学教務課長　教育企画・評価室員）
・有馬　規雄（鹿屋体育大学経営戦略課副課長　教育企画・評価室員）
・吉原　大智（鹿屋体育大学学術図書情報課主任　教育企画・評価室員）
【スポーツ指導力評価テスト　委託業者】
＊松村　直樹（株式会社リアセック　代表取締役）
＊石川　純一（株式会社リアセック　キャリア総合研究所主任研究員）
【陪席】
＊渡部ジョー（公益財団法人日本体育協会職員）
＊野村　浩史（鹿屋体育大学教務課副課長）
＊近藤　亮介（鹿屋体育大学特任助教）
＊濱中　　良（鹿屋体育大学教務課特任専門員）
・岡田あゆみ（鹿屋体育大学教務課事務補佐員）
（注：＊は筑波大学東京キャンパス会場への出席者を示す）

次　第　14:30～14:35　金久理事　挨拶
14:35～14:40　採択された大学教育再生加速プログラムの概要説明
（金高教授）
14:40～15:05　スポーツ指導力評価テストの概要説明〔(株)リアセック〕
15:05～15:55　質疑応答・意見交換
16:00　閉会

鹿屋体育大学大学教育再生加速プログラムに係る
平成２９年度第１回外部評価委員会　議事次第

日　時　平成３０年３月１３日（火）　１３：００～１５：００

場　所　筑波大学東京キャンパス文京校舎内５７７講義室
鹿屋体育大学演習室Ⅳ（大学院棟２階）
※２つの会場を遠隔講義システムで中継して実施

出席者　【外部評価委員】
＊會田　　宏（筑波大学　体育系　教授）
＊渡部　　丞（公益財団法人日本体育協会スポーツ指導者育成部育成課）
＊久保田　潤（独立行政法人日本スポーツ振興センター
スポーツ開発事業推進部研究員）

列席者　【鹿屋体育大学　教育企画・評価室】
・金久　博昭（鹿屋体育大学理事・副学長）
＊金高　宏文（鹿屋体育大学教授　教育企画・評価室長）
・中垣内真樹（鹿屋体育大学教授　教育企画・評価室員）
・和田　智仁（鹿屋体育大学准教授　教育企画・評価室員）
・中本　浩揮（鹿屋体育大学准教授　教育企画・評価室員）
・與谷　謙吾（鹿屋体育大学講師　教育企画・評価室員）
・有馬　正人（鹿屋体育大学事務局次長兼教務課長　教育企画・評価室員）
・藤田　康朗（鹿屋体育大学経営戦略課副課長　教育企画・評価室員）
・吉原　大智（鹿屋体育大学学術図書情報課主任　教育企画・評価室員）
【スポーツ指導力評価テスト　委託業者】
＊松村　直樹（株式会社リアセック　代表取締役）
＊石川　純一（株式会社リアセック　キャリア総合研究所主任研究員）
【陪席】
・加治　裕文（鹿屋体育大学教務課副課長）
・元明　勇二（鹿屋体育大学教務課副課長）
・鈴木　拓朗（鹿屋体育大学教務課教育支援係長）
＊近藤　亮介（鹿屋体育大学特任助教）
・濱中　　良（鹿屋体育大学教務課特任専門員）
・岡田あゆみ（鹿屋体育大学教務課事務補佐員）
（注：＊は筑波大学東京キャンパス会場への出席者を示す）

次　第　13:00～13:05　金久理事　挨拶
13:05～13:25　平成 29 年度の大学教育再生加速プログラムの取組概要の説明等
13:25～13:55　質疑応答・意見交換
14:00～15:00　体育系大学における実践的指導力の可視化と教育改善
15:00　閉会

鹿屋体育大学大学教育再生加速プログラムに係る
平成３０年度第１回外部評価委員会（スポーツ指導実習関連）　議事次第

日　時　　平成３０年７月１０日（火）　１３：３０～１５：３０

場　所　　鹿屋体育大学演習室Ⅲ（大学院棟２階）

出席者　【外部評価委員】
川南　匡人（株式会社東大阪スタジアム）
永江　恒志（NPO 法人かのや健康・スポーツクラブ　事務局長）
内倉　康孝（鹿屋市役所ふるさと PR 課（田崎武道館指導者））
幸福　恵吾（特定非営利活動法人 DREAM ウェルネス　代表）

列席者　【鹿屋体育大学　教育企画・評価室】
森　　司朗（鹿屋体育大学理事・副学長）
金高　宏文（鹿屋体育大学教授　教育企画・評価室長
兼スポーツ指導実習小委員会副委員長）
中垣内真樹（鹿屋体育大学教授　教育企画・評価室副室長
兼スポーツ指導実習小委員会委員）
前阪　茂樹（鹿屋体育大学教授　教育企画・評価室員
兼スポーツ指導実習小委員会委員）
国重　　徹（鹿屋体育大学教授　教育企画・評価室員）
中本　浩揮（鹿屋体育大学准教授　教育企画・評価室員）
和田　智仁（鹿屋体育大学准教授　教育企画・評価室員）
萩原　悟一（鹿屋体育大学講師　教育企画・評価室員）
有馬　正人（鹿屋体育大学事務局次長兼教務課長　教育企画・評価室員）
吉原　大智（鹿屋体育大学経営戦略課企画評価係長　教育企画・評価室員）
【スポーツ指導実習小委員会】
前田　博子（鹿屋体育大学教授　スポーツ指導実習小委員会委員長）
濱田　幸二（鹿屋体育大学教授　スポーツ指導実習小委員会委員）
竹中健太郎（鹿屋体育大学准教授　スポーツ指導実習小委員会委員）
北村　尚浩（鹿屋体育大学准教授　スポーツ指導実習小委員会委員）
塩川　勝行（鹿屋体育大学講師　スポーツ指導実習小委員会委員）
坂口　俊哉（鹿屋体育大学講師　スポーツ指導実習小委員会委員）
【陪席】
加治　裕文（鹿屋体育大学教務課副課長）
元明　勇二（鹿屋体育大学教務課副課長）
鈴木　拓朗（鹿屋体育大学教務課教育支援係長）
近藤　亮介（鹿屋体育大学特任助教）
濱中　　良（鹿屋体育大学教務課特任研究員）
岡田あゆみ（鹿屋体育大学教務課事務補佐員）

次　第　　13:30～13:35　森理事　挨拶
13:35～13:50　採択された大学教育再生加速プログラムの概要説明（金高室長）
13:50～14:25　本学におけるスポーツ指導実習の取組状況の説明
（各実習担当者（3～5 分間ずつ計 7 カ所分））
14:30～15:25　質疑応答及び意見交換
・求められる資質及び能力
・学内教育に期待すること　等
15:30　閉会

鹿屋体育大学大学教育再生加速プログラムに係る
平成３０年度第２回外部評価委員会議事次第

日　時　　平成３１年３月５日（火）　９：３０～１２：００
場　所　　鹿屋体育大学　大会議室（東京サテライト等とのTV会議も担保する）
目　的　「鹿屋体育大学における学修成果の可視化と卒業時における質保証の取組の強化」
　　の取り組みの評価

出席者　【外部評価委員】
●スポーツ指導実習関連
川南　匡人（株式会社東大阪スタジアム）
永江　恒志（NPO法人かのや健康・スポーツクラブ　事務局長）
内倉　康孝（鹿屋市役所ふるさとPR課（田崎武道館指導者））
幸福　恵吾（特定非営利活動法人DREAMウェルネス　代表）
●大学関連
會田 宏（筑波大学　体育系　教授）
伊藤　雅充（日本体育大学　体育学部　教授）
土屋　裕睦（大阪体育大学　体育学部　教授）
渡部 丞（公益財団法人日本体育協会スポーツ指導者育成部部長）
久保田 潤（独立行政法人日本スポーツ振興センター
スポーツ開発事業推進部研究員）

列席者　【鹿屋体育大学　教育企画・評価室】
【スポーツ指導実習小委員会】
【陪席】教育企画・評価室スタッフ

次　第　9:30～9:35　森理事　挨拶
9:35～9:40　外部評価の進め方
9:40～10:30　外部評価委員から質疑
10:30～11:30　各委員からの評価(5分×9人)
11:30～12:00　質疑応答及び意見交換
12:00　閉会

（評価の事項）
・事前に評価すべき事項に関する資料を約１ヶ月前に送付し、評価及びコメントを頂く
・卒業時の質保証に向けた取組(学修成果の可視化等)についての評価について
・教育改善に向けた取り組みについて

鹿屋体育大学大学教育再生加速プログラムに係る
令和元年度第１回外部評価委員会議事次第

日　時　　令和２年２月 18 日（火）　15:30～17:30
場　所　　東京サテライト及び鹿屋体育大学　大会議室（東京サテライト等との TV 会議）
目　的　「鹿屋体育大学における学修成果の可視化と卒業時における質保証の取組の強化」
　　の４年間の取り組みの総合評価と今後の課題

出席者　【外部評価委員】大学関連のみ
　會田 宏（筑波大学　体育系　教授）
　土屋　裕睦（大阪体育大学　体育学部　学長補佐　教授）
　久保田 潤（独立行政法人日本スポーツ振興センター
　　スポーツ開発事業推進部研究員）

列席者　【鹿屋体育大学　教育企画・評価室】
　【陪席】教育企画・評価室スタッフ

次　第　　15:30～15:35　　森理事　挨拶
　　15:35～15:40　　外部評価の進め方
　　15:40～16:10　　外部評価委員から質疑
　　16:20～16:50　　各委員からの評価(5 分×5 人)
　　16:50～17:30　　質疑応答及び意見交換
　　17:30　　閉会

（評価の事項）
・事前に評価すべき事項に関する資料を送付し、評価及びコメントを頂く
・卒業時の質保証に向けた取組(学修成果の可視化等)についての評価について
・教育改善に向けた取り組みについて
・今後の課題について

2019年度AP事業（大学教育再生加速プログラム；卒業時における質保証の取り組みの強化）
外部評価委員による評価結果の概要

※ 該当する評価観点に〇を付けて下さい
※ 点検項目の空欄は、任意に適宜観点を設定頂いて評価して下さい。
※ 赤字は、各項目群の総合評価をお願い致します。

【学修成果等の可視化について】

点検項目	高いレベルで達成されている	適切に達成されている	達成されている	達成されていない	備考・状況
Q：科目成績（GPA）の可視化の達成性	〇				
Q：汎用的能力（PROG）の可視化の達成性	〇				
Q：スポーツ指導者基礎力（SCCOT）の可視化の達成性	〇				
Q：スポーツ実技力の可視化の達成性			〇		
Q：スポーツ実技指導力の可視化の達成性			〇		
Q：スポーツ事業運営力の可視化の達成性			〇		
Q：授業時間外学修の可視化の達成性（授業時間外学修時間の把握）		〇			
Q：学生の学修の主体的取組等の可視化の達成性		〇			
Q：課外活動における活動の可視化の達成性		〇			
Q：卒業時における質保証に向けた、学修成果の可視化の取組の達成性		〇			

【学修及び教育改善の取組について】

点検項目	高いレベルで達成されている	適切に達成されている	達成されている	達成されていない	備考・状況
Q：学修成果等の可視化を元に、学生が主体的に学修改善を行えているか？	〇				
Q：学修成果等の可視化を元に、大学が授業科目レベルで教育改善を行えているか？	〇				
Q：学修成果等の可視化を元に、大学が大学（学位プログラム）レベルで教育改善を行えているか？		〇			
Q：卒業時における質保証に向けた、学修及び教育改善の取組の達成性	〇				

【全体的な取組の達成性について】

点検項目	高いレベルで達成されている	適切に達成されている	達成されている	達成されていない	評価コメント等
Q：平成28年度の計画の達成性		〇			
Q：平成29年度の計画の達成性		〇			
Q：平成30年度の計画の達成性		〇			
Q：平成31年度（令和元年度）の計画の達成性		〇			
Q：構想・計画の全体的・総合的な達成性		〇			
Q：卒業時における質保証の達成性		〇			
Q：卒業時における質保証の取組の強化の達成性	〇				

【総評】
本取組では、鹿屋体育大学の教育ミッション「スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおける実践的かつ創造的で市民性、国際性を備えたリーダーを育てる」の実現するために、「卒業時における質保証の取組の強化」が全学的に行われた。
4年間に亘る教育改革の取組を詳細に検討した結果、ディプロマ・ポリシー（DP）を担保する「多様なスポーツリーダーとしての自覚と実践的なスポーツ指導力の養成」と「段階的かつ継続的なライフ・キャリアデザイン力と社会人基礎力（汎用的能力）の養成」の状況を、学修行動や学修成果を可視化することを通して確認し、継続的に教育改善が行える教学システムを確立した点において大きな成果が得られたと評価できる。
本取組では、具体的な成果として、鹿屋体育大学や我が国におけるスポーツ・健康に関する人材育成の状況を踏まえ、客観的評価が容易ではない能力の数量化・可視化に挑戦し、一つのソリューションとして各種テストを開発している。特に、科目成績（GPA）や汎用的能力（PROG）、スポーツ指導者基礎力（SCCOT）の可視化は非常に高いレベルで達成されており、体育・スポーツ分野における大学教育の質保証への活用が期待できる。また、本取組を通して学生のリテラシー領域、コンピテンシー領域の評価得点が向上していることから、学修成果等の可視化を元に、学生が主体的に学修改善を行えていること、大学が授業科目レベルで教育改善を行えていることが実証されていることも高く評価できる。
今後は、スポーツ実技力・実施指導力・事業運営力の可視化の方法について検討するとともに、大学としての教育改善の状況について、教職員に対するヒアリング調査やアンケート調査等を通して評価・検討することで、我が国の体育・スポーツ系大学・学部のモデルとなるような、より高い教育の質保証が達成されることが期待される。

授業科目名	体育学実験Ⅰ	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (実験演習科目)
担当教員名	荻田　太・前田　明・中本　浩揮・髙井　洋平・モハモド　モニルル　イスラム・長島　未央子・與谷　謙吾・幾留　沙智			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1	受け入れ人数	全員
授業の概要	スポーツ・武道、ならびに体育・健康づくりの専門家を目指す体育学専攻の学生にとって、内外部環境のさまざまな刺激に対する人体の生理機能、心理機能の応答に関して学習することは重要なことである。また、同時にこれらの研究分野で用いられる基礎的な測定方法を習得することは、心身機能を評価するための第一歩でもある。本実験演習では、スポーツサイエンスの基本的な学問である「生理学」、「バイオメカニクス」、「衛生・公衆衛生学」、「栄養学」、「心理学」の各分野における基礎的な実験を行い、その測定技術を習得するとともに、測定値を評価する基礎理論の学習を目指すものである。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力		授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・各分野における基礎的な測定方法について理解する。 ・実験結果を整理し、スポーツサイエンスの知見に基づいたレポートを的確に作成することができる。			○				50
	■情意的領域	・測定に携わりながら、与えられた課題に対して自主的に取り組む。 ・実習を通して、自然科学分野に興味・関心を持つ。	○						50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業へ出席して実験・測定方法を習得し、かつ実験内容をまとめたレポートを提出（必須）することで正式な出席と認める。 授業へ出席しても、レポートを提出しない場合は出席とは認めない。出席回数は2/3以上の受講生を対象として、レポート内容（A、B、C等）に、測定技術の習得度、実験への取組状況を加味して総合的に成績を評価する（60点以上を合格）。
テキスト、教材 参　考　書	荻田：資料はその都度配付する。
履修条件・関連科目	生物化学論、解剖生理学を履修しておくことが望ましい。
備考(教員メッセージ含む)	体育学実験Ⅰの運動生理学領域では、全員が被検者となって実験（運動）を行うので、運動のできる服装（Tシャツ、短パン、ジャージなど）かつスポーツシューズを履いてくること。
オフィス・アワー	荻田　太：原則火曜日の昼休みとするが、メールであらかじめ予約をしてもらえれば随時対応。303研究室、運動生理学実験室 前田　明：事前連絡　スポーツパフォーマンス研究センター 高井洋平：随時可能ですが、あらかじめ予約をしてもらえると確実です。（スポーツトレーニング教育研究センター2階・教員室2、y-takai@nifs-k.ac.jp） 長島未央子：随時　302研究室だが予めメールにて連絡することが望ましい（nagasima@nifs-k.ac.jp) イスラム　モハモド　モニルル：教員研究室509号（内線: 4962）にて随時 幾留沙智：随時（603研究室）だが予めメールにて連絡をすることが望ましい（ikudome@nifs-k.ac.jp）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	荻田　太 與谷　謙吾	血圧の測定－簡便なメディカルチェック－	メディカルチェックにおける血圧測定の意義を理解し、本実習で測定されたデータを基にレポートを作成する。（1時間）
2	〃	筋電図の測定－異なる力発揮中の筋電図－	異なる力発揮によって得られる筋電図のデータを基にレポートを作成する。（1時間）
3	〃	心拍数の測定－運動強度と心拍数の関係－	歩行、ジョギング、ランニング時の心拍数の測定から、運動強度（速度）と心拍数の関係を導き出し、レポートを作成する。（1時間）
4	〃	体力測定－無酸素性パワー（瞬発力）と有酸素性パワー（持久力）－	無酸素性パワーと有酸素性パワーを測定し、それぞれの値から体力評価、種目特性などについてレポートを作成する。（1時間）
5	髙井　洋平	筋力、走・跳躍能力の測定	筋力、走・跳躍能力の測定方法を理解し、相互の関連についてレポートにまとめる。（1時間）
6	〃	位置座標を用いた“鬼ごっこ”の移動距離の測定	位置座標から動きを定量する方法を理解し、“鬼ごっこ”における動きの特徴をレポートにまとめる。（1時間）
7	前田　明 髙井　洋平	ハイスピードカメラを用いたスポーツ動作のフィードバック	ハイスピードカメラの特徴、種類、用途、測定方法を理解しレポートにまとめる。（1時間）
8	〃	モーションキャプチャーとフォースプレートを用いた3次元動作分析	モーションキャプチャーとフォースプレートの特徴、用途、測定方法を理解しレポートにまとめる。（1時間）
9	幾留　沙智	性格検査	性格検査の結果を元にレポートを作成する。（1時間）
10	〃	目標設定と運動パフォーマンス	目標設定と運動パフォーマンスの関係についての実験結果を元にレポートを作成する。（1時間）

11	〃	練習効果の転移	練習効果の転移についての実験結果を元にレポートを作成する。（1時間）
12	〃	反応時間	反応時間についての実験結果を元にレポートを作成する。（1時間）
13	モハモド　モニルル イスラム	バランス［閉眼片足立］，敏捷性［8フィートアップアンドゴー］の測定法	調査結果に対する評価をレポートにまとめる（1時間）
14	〃	運動時の安全性指標の計測－脈拍，主観的運動強度（RPE），動脈血酸素飽和度（SPO2）－	調査結果に対する評価をレポートにまとめる（1時間）
15	長島　未央子	食事摂取頻度法を用いた食事摂取状況調査及びその評価	調査結果に対する評価をレポートにまとめる（1時間）
16	〃	コンディション記録とその評価	記録したコンディション指標と主観的な疲労度や生活との関連についてレポートを作成する（1時間）

授業科目名	体育学実験Ⅱ－運動生理学	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (実験演習科目)
担当教員名	荻田　太・與谷　謙吾			補助担当者名	( )
単位数	4　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	20名程度
授業の概要	スポーツ・武道、ならびに体育・健康づくりの専門家を目指す体育学専攻の学生にとって、「生理学」、「バイオメカニクス」、「衛生・公衆衛生学」、「栄養学」、「心理学」など、密接に関連している自然科学領域それぞれにおいて、基礎的な知識・教養に基づき、科学的支援力や表現力を身につけることは必須である。 本実験演習Ⅱ「運動生理学」では、体育学実験Ⅰの運動生理学領域を発展させ、呼吸循環機能、神経－筋機能に関するより専門的、かつ高度な実験を実習する。これらを通じ、メディカルチェック、体力測定、運動処方、運動制御、トレーニングに関連した専門的測定技術、ならびに測定値を評価するエキスパートアイが身につくと期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識・教養							
	■認知的領域	・それぞれの実験に関する専門的知識、測定技術、およびデータの評価法について理解している。 ・実験結果を整理し、スポーツサイエンスの知見に基づいて、客観的、正確、かつ適切にデータを評価している ・学術的な表現、表記を用いてレポートやスライドを作成し、発表することができる。			○	○			50
	■情意的領域	・積極的に測定に携わりながら、与えられた課題に対して自主的に取り組んでいる。 ・実習を通して、自然科学分野の研究に興味・関心を示している。	○						50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業へ出席して実験・測定方法を習得し、かつ実験内容をまとめたレポートを提出（必須）することで、正式な出席と認める。 授業へ出席しても、レポートを提出しない場合は出席とは認めない。出席回数は2/3以上の受講生を対象として、レポート内容（A、B、C等）に、測定技術の習得度、実験への取組状況を加味して総合的に成績を評価する（60点以上を合格）。
テキスト、教材 参　考　書	実験に関するテキスト（資料）は、その都度配付する。

履修条件・関連科目	解剖生理学、運動生理学、身体科学論、生物化学論、バイオメカニクス（並行開設）を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	体育学実験Ⅱの運動生理学領域では、全員が被検者となって実験（運動）を行うので、運動のできる服装（Tシャツ、短パン、ジャージなど）で、かつスポーツシューズを履いてくること。

オフィス・アワー	荻田　太：随原則火曜日の昼休みとするが、メールであらかじめ予約をしてもらえれば随時対応。３０３研究室 與谷謙吾：随時　３０６研究室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	荻田　太 與谷　謙吾	オリエンテーション：今後の授業展開に関する資料配付等	資料を参考に今後の予定確認と来週実施するメディカルチェックについて予習(情報整理)を行う（1時間）
2	荻田　太	運動前のメディカルチェック：安静時及び運動中の心電図測定実習	メディカルチェックにおける心電図の測定意義を理解し、安静時の心電図から標準波形を理解するとともに、運動中の心電図から不整脈の有無を調べ、レポートを作成する（1時間）
3	〃	運動時の呼吸循環系応答－その1－：最大下運動時の酸素摂取量、心拍数、RPEの測定実習	呼気ガス分析より酸素摂取量等を算出するとともに、最大下運動時の呼吸循環系諸指標の変化と運動強度との関連について、レポートを作成し、復習する（1時間）
4	〃	運動時の呼吸循環系応答－その2－：最大酸素摂取量の測定実習	最大酸素摂取量の測定意義についてまとめるとともに、様々な運動で得られた最大酸素摂取量を比較する。また、競技特性と最大酸素摂取量の関係などについてもまとめ、復習する（1時間）
5	〃	運動時の呼吸循環系応答－その3－：暑熱環境下における最大下運動時の酸素摂取量、心拍数、RPEの測定実習	暑熱環境下における最大下運動時の呼吸循環系諸指標の変化と運動強度との関連について、常温環境下におけるそれと比較し、レポートを作成する。また、これまでの実習で得たデータを取り纏め、発表資料を作成する（4時間）
6	〃	これまでのデータ整理と総まとめ－発表会－	発表会で指摘された点、疑問点をまとめ上げ、復習する（1時間）
7	與谷　謙吾	筋電図の記録方法と疲労実験	筋電図の正しい記録方法と疲労に伴う筋電図の様相を記録・分析し、レポートを作成する（1時間）

8	〃	誘発筋電図（H波とM波）	電気刺激で末梢神経を刺激してH波とM波を記録し、その神経系の伝導・伝達に関するメカニズムを調べ、レポートを作成する（1時間）
9	〃	運動誘発電位潜時と筋電図反応時間－その1－	視覚または聴覚刺激に対する左右肢の筋電図反応時間を計測し、レポートを作成する（1時間）
10	〃	運動誘発電位潜時と筋電図反応時間－その2－	磁気刺激装置を用いて運動野（脳）へ刺激を与え、骨格筋までの神経伝導時間を計測する。また、筋電図反応時間の値を用いて脳処理時間を算出し、視覚、聴覚刺激に対する反応時間の傾向についてレポートを作成する。さらに、これまでの実習で得たデータを取り纏め、発表資料を作成する（4時間）
11	〃	これまでのデータ整理と総まとめ－発表会－	発表会で指摘された点、疑問点をまとめ上げ、復習する（1時間）
12	荻田　太	身体組成　ー体脂肪率を推定する各種測定法ー	競技選手が体脂肪率を把握する意義、各種測定法による推定値の違い、測定条件と誤差など、実験結果をレポートにまとめる（1時間）
13	〃	身体組成　ー骨格筋量を推定する各種測定法ー	競技選手が全身および局所の骨格筋量を把握する意義、各種測定法による推定値の違い、推定誤差など、実験結果をレポートにまとめる（1時間）
14	〃	筋力・筋サイズと筋のクオリティー	競技選手によってクオリティーの高い筋は競技パフォーマンスに強く影響する。実験では上肢と下肢の筋力と筋サイズを測定し、筋のクオリティーについて評価し、レポートにまとめる。また、これまでの実習で得たデータを取り纏め、発表資料を作成する（4時間）
15	〃	これまでのデータ整理と総まとめ　ー発表会ー	発表会で指摘された点、疑問点をまとめ上げ、復習する（1時間）

授業科目名	体育学実験Ⅱ－バイオメカニクス	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (実験演習科目)
担当教員名	前田　明・未　　定・髙井　洋平			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要	スポーツ・武道、ならびに体育・健康づくりの専門家を目指す体育学専攻の学生にとって、「生理学」、「バイオメカニクス」、「衛生・公衆衛生学」、「栄養学」、「心理学」など親密に関連している自然科学領域それぞれにおいて、科学的支援力や表現力を身につけることは必須である。 本実験演習Ⅱでは、体育学実験Ⅰを発展させ、動作分析、筋力・パワー、筋腱複合体に関するより専門的かつ高度な実験を行い、動作の習熟、運動処方、運動制御、トレーニングに関連した測定技術を習得するとともに、測定値を評価する専門理論の学習を目指すものである。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・それぞれの実験において、測定技術およびその評価法について理解する。 ・実験結果を整理し、スポーツサイエンスの知見に基づいたレポート作成、発表を行うことができる。			○	○			50
	■情意的領域	・測定に携わりながら、与えられた課題に対して自主的に取り組む。 ・実習を通して、自然科学分野に興味・関心を持つ。	○						50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業へ出席し、実験の測定方法を習得し、かつ実験内容をまとめたレポートを提出（必須）することで、正式な出席と認める。授業へ出席しても、レポートを提出しない場合は出席と認めない。出席回数は2/3以上の受講生を対象として、レポート内容（A、B、C等）に、測定技術の習得度、実験への取り組み状況を加味して総合的に成績を評価する（６０点以上を合格）。
テキスト、教材 参　考　書	実験に関するテキスト（資料）は、その都度配布する。
履修条件・ 関連科目	解剖生理学、運動生理学、身体科学論、バイオメカニクス（並行開設）を履修していることが望ましい
備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	前田　明　事前連絡（スポーツパフォーマンス研究センター） 高井洋平　随時可能だが、事前にアポイントを取ることが望ましい（スポーツトレーニング教育研究センター・教員室2、y-takai@nifs-k.ac.jp） 未　定　　オリエンテーション（第1回）で連絡

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	前田　明	オリエンテーション：バイオメカニクス研究法について、今後の授業展開について	今後行われる授業の予習を行う（1時間）
2	〃	動作分析に必要な機器の使用法・スポーツパフォーマンス研究センターの準備	筆記用具持参、運動できる格好、スポーツパフォーマンス研究センター（1時間）
3	〃	ハイスピードカメラを用いた動作分析・アスリートサポート	筆記用具持参、運動できる格好、スポーツパフォーマンス研究センター（1時間）
4	〃	ハイスピードカメラで撮影した映像の処理　専用ソフトを使用した分析	筆記用具持参、運動できる格好、スポーツパフォーマンス研究センター（1時間）
5	〃	光学式モーションキャプチャーシステムとフォースプレートを用いた3次元動作分析・アスリートサポート	筆記用具持参、運動できる格好、スポーツパフォーマンス研究センター（1時間）
6	前田　明 未　　定	2次元動作分析と地面反力　2次元動作分析（腕振り動作，SJ,CMJ,VJ），地面反力測定	実験のセッティング，校正，同期，データ取得後，振込動作について説明（1時間）
7	〃	データ分析　ディジタイズ，データ算出，スティックピクチャ	動作と力の関係（反動動作，振込動作），レポート提出（1時間）
8	〃	3次元動作分析　３次元動作分析（スウィング動作，グループ）	運動連鎖の仕組みについて知り，実際に確認する．関節角度について理解する（1時間）
9	〃	データ分析ディジタイズ，データ算出，スティックピクチャ	自身のデータと他人のデータの違いを比較する（1時間）
10	〃	プレゼンテーション　3次元動作の分析をまとめ，発表する	レポート提出を行う（1時間）
11	髙井　洋平	研究計画の設定　オリエンテーション	筆記用具持参、運動できる格好（1時間）
12	〃	筋サイズと筋力の関係	筆記用具持参、運動できる格好（1時間）
13	〃	筋サイズと関節パワーの関係	筆記用具持参、運動できる格好（1時間）
14	〃	データ処理、データ分析	筆記用具持参、情報処理室（1時間）
15	〃	筋サイズ-筋力-関節パワーの関係をまとめる	筆記用具持参、情報処理室（1時間）

授業科目名	体育学実験Ⅱ－スポーツ心理学	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (実験演習科目)
担当教員名	中本　浩揮・幾留　沙智			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要	スポーツ・武道、ならびに体育・健康づくりの専門家を目指す体育学専攻の学生にとって、「生理学」、「バイオメカニクス」、「衛生・公衆衛生学」、「栄養学」、「心理学」など、親密に関連している自然科学領域それぞれにおいて、科学的支援力や表現力を身につけることは必須である。 本実験演習Ⅱ「スポーツ心理学」では、体育学実験Ⅰを発展させ、スポーツ心理学の基本的な研究方法の基礎知識及び手法を学習するとともに、データ分析及び解釈について発表・議論し、科学的な表現力・支援力を身に付けることを目指す。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合%
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識・教養							
	■認知的領域	・それぞれの実験において、測定技術およびその評価法について理解する。 ・体育・スポーツ心理学における研究法の全体像について理解する。	○						30
	■情意的領域	・測定に携わりながら、与えられた課題に対して自主的に取り組む。 ・実習を通して、自然科学分野に興味・関心を持つ。	○			○			30
	■技能的領域	・仮説に基づいたデータ分析ができる。 ・実験結果を整理し、スポーツサイエンスの知見に基づいたレポート作成、発表を行うことができる。			○	○			40

成績評価の基準	出席回数は2/3以上の受講生を対象とし、レポート内容（A、B、C等）に、測定技術の習得度、実験への取組状況、議論への参加状況を加味して総合的に成績を評価する（60点以上を合格）。
テキスト、教材 参　考　書	テキスト（資料）は、その都度配付する。
履修条件・ 関連科目	スポーツ心理学を履修していることが望ましい。
備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	随時、だが事前にメールにて連絡をすること。 707研究室（中本:nakamoto@nifs-k.ac.jp）、603教室（幾留:ikudome@nifs-k.ac.jp）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中本　浩揮 幾留　沙智	オリエンテーション	
2	〃	基礎：体育・スポーツ心理学研究法１	体育・スポーツ心理学研究法の特徴についてまとめよ（30分）
3	〃	基礎：体育・スポーツ心理学研究法２	体育・スポーツ心理学研究法の特徴についてまとめよ（30分）
4	〃	基礎：心理プロセスの推定方法１ 反応時間	反応時間によって心理プロセスを推定する方法についてまとめよ（30分）
5	〃	基礎：心理プロセスの推定方法２ 視線計測	視線計測によって心理プロセスを推定する方法についてまとめよ（30分）
6	〃	基礎：心理プロセスの推定方法３ 脳波	脳波によって心理プロセスを推定する方法についてまとめよ（30分）
7	〃	基礎：心理プロセスの推定方法４ 経頭蓋磁気刺激	経頭蓋磁気刺激によって心理プロセスを推定する方法についてまとめよ
8	〃	基礎：心理プロセスの推定方法５ 動作計測	動作計測によって心理プロセスを推定する方法についてまとめよ（30分）
9	〃	基礎：心理プロセスの推定方法６ 質問紙研究法	質問紙法の長所・短所についてまとめよ（30分）
10	〃	演習：質問紙研究法１	信頼性・妥当性についてまとめよ（30分）
11	〃	演習：質問紙研究法２	4つの尺度水準についてまとめよ（30分）
12	〃	演習：質問紙研究法３	予備調査データを収集せよ（1時間）
13	〃	演習：質問紙研究法４	調査結果を元にグラフを作成せよ（30分）
14	〃	演習：質問紙研究法５	本調査データを収集せよ（1時間）
15	〃	演習：質問紙研究法６	調査結果についてのレポートを作成せよ（1時間）

授業科目名	体育学実験Ⅱ－衛生学・公衆衛生学、スポーツ栄養学	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (実験演習科目)
担当教員名	モハモド　モニルル　イスラム・長島　未央子			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2	受け入れ人数	10
授業の概要	スポーツ・武道、並びに体育・健康づくりの専門化を目指す体育学専攻の学生にとって、「生理学」、「バイオメカニクス」、「衛生・公衆衛生学」、「栄養学」、「心理学」など、親密に関連している自然科学領域それぞれにおいて、科学的支援力や表現力を身につけることは必須である。 本体育学実験演習Ⅱ「公衆衛生・栄養学」は、体育学実験Ⅰを発展させ、種々の環境状況の測定や食事摂取や体調の変化が影響する測定を習得するとともに、測定値を客観的に比較・評価するための専門的な学習を目指すものである。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・それぞれの実験において、測定技術及びその客観的評価法について理解する。 ・実験結果を整理し、知見に基づいたレポートの作成、対策などの発表を行うことができる。			○	○			50
	■情意的領域	・測定に携わりながら、与えられた課題に対して自主的に取り組む。 ・実験・実習を通して、自然科学分野に興味を持つ。	○						50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業へ出席して実験・測定方法を習得し、かつ実験内容をまとめたレポートを作成・提出することで正式な出席と認める。授業へ出席しても、レポートを提出しない場合は出席とは認めない。出席回数は2/3以上の受講生を対象とし、レポート内容（5段階評価）、測定技術の習得度、実験への取り組み状況を加味して、総合的に成績を評価する（60点以上を合格）
テキスト、教材 参　考　書	実験に関するテキスト（資料）などは、その都度配付する
履修条件・ 関連科目	環境論、衛生公衆衛生学、生物科学論、スポーツ栄養学を履修していることが望ましい。
備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	長島：月曜日午後、木曜日終日 イスラム：　教員研究室509号（内線: 4962）にて随時（但し，事前に申し出ること）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	モハモド　モニルル イスラム 長島　未央子	オリエンテーション	次回以降の予定の確認（３０分）
2	モハモド　モニルル イスラム	虚弱な高齢者における日常生活に必要な介護・介助について	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
3	〃	虚弱な高齢者における準備体操と整理運動（クールダウン）の方法について	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
4	〃	虚弱な高齢者における持久性運動の方法について	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
5	〃	虚弱な高齢者における筋力向上の方法（PETボトル体操）について	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
6	〃	虚弱な高齢者におけるバランス運動の方法について	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
7	〃	虚弱な高齢者におけるwell rounded exercises （ウエルラウンドトーレニング）の方法について	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
8	〃	発表会（これまでの運動内容に関する実技テスト）	
9	長島　未央子	血糖値の測定方法を知る	血糖値に関する詳細および測定方法について理解しレポートにまとめる
10	〃	血糖値の変化を知る①食事による影響の検討	測定結果をレポートにまとめる
11	〃	血糖値の変化を知る②運動による影響の検討	測定結果をレポートにまとめる
12	〃	測定結果のプレゼンテーション	
13	〃	コンディション管理に有用な測定項目およびその測定方法を知る	測定項目および測定方法について理解しレポートにまとめる
14	〃	コンディション管理に有用な項目の条件の違いによる変化を知る	測定結果をレポートにまとめる
15	〃	測定結果のプレゼンテーション	

リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等

１．科目等履修生、聴講生、研究生
https://www.nifs-k.ac.jp/entrance/schooler.html

科目等履修生・研究生・聴講生

科目等履修生とは
› 科目等履修生とは

研究生とは
› 研究生とは

論文博士取得支援プログラムについて（研究生対象）
› 論文博士取得支援プログラムについて（研究生対象）

聴講生とは
› 聴講生とは

２．公開講座
https://www.nifs-k.ac.jp/property/open-chair.html

公開講座

公開講座の申込について

公開講座の申込はそれぞれの講座のメニューから申込フォームをダウンロードしてください。申込フォームに必要事項を明記の上、電子メール、郵送、ファクスのいずれかにて下記まで送付ください。

※電話での申込は受け付けておりません。
※希望者が多い場合は先着順となります。
※希望者が一定の数に達しない場合は、講座を開催しないこともありますのであらかじめご了承願います。
※バスケットボール、バレーボールの各講座につきましては、実施場所である体育館の改修工事が予定されているため、工事のスケジュール等により講座の中止または募集人員の縮小等となる場合がありますので、あらかじめご了承のうえお申込みください。

<申込・問い合わせ先>
鹿屋体育大学 総務課 広報係
［住所］〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地
［TEL］0994-46-4819［FAX］0994-46-2831
［E-mail］kouhou※nifs-k.ac.jp
メールアドレスは「※」を「@」に変換してください

公開講座一覧

- 2020年03月16日
  【10/15～11/16】市民のためのテニス教室（秋）
- 2020年03月16日
  【1/30～1/31】バレーボール・ウィンター・キャンプ

３．社会人入試

https://www.nifs-k.ac.jp/entrance/selective/pe/society.html

社会人入試

令和２年度 社会人入試要項

学部、課程及び募集人員

学部	課程	募集人員
体育学部	スポーツ総合課程	若干人
	武道課程	若干人

４．第３年次編入学試験

https://www.nifs-k.ac.jp/entrance/selective/pe/transfer.html

第3年次編入学試験

令和３年度 体育学部第3年次編入学試験要項

第3年次編入学試験の基本方針

- スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野に関心を持ち、それらを指導し、普及させるための基本的な知識について小論文により判断します。
- スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおけるリーダーシップやマナー、コミュニケーション能力、および知識や経験に基づく思考・判断・表現力などについて面接により判断します。
- スポーツ・武道に関する基礎的な身体資質の特性を運動能力検査により判断します。

※入学者選抜に関する詳細については、入試資料請求から令和３年度第３年次編入学学生募集要項を請求、又は第３年次編入学学生募集要項のPDFファイルをダウンロードの上、ご参照ください。

科目等履修生及び聴講生・研究生の受入人数

＜体育学部＞

	科目等履修生	聴講生	研究生	計
平成 28 年度（2016 年度）	4	4	0	8
平成 29 年度（2017 年度）	14	6	1	21
平成 30 年度（2018 年度）	6	4	0	10
令和元年度（2019 年度）	1	3	2	6
計	25	17	3	45

公開講座等実施一覧（2016～2019年度）

Ⅰ．公開講座

講座種類		講座名称	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)
一般講座	一般教養講座	Picture Description～写真を見せて、やさしい英語で説明してみよう！	10			
		Easy Storytelling～自分の経験などを英語で語ってみよう！		8		
		Short Story Creation～簡単な物語を英語で作って、発表しよう！ 【事業戦略講座（かごしま県民大学連携講座）を兼ねる】			7	
		（英語講座） あなたの18番は？-Talking about your favorite songs in English				12
	健康講座	腰痛・関節症者のための水中運動教室	19	28	23	21
	スポーツ講座	楽しいマリンスポーツ～各種マリンスポーツ体験編～	18	20	16	13
		楽しいスキンダイビング～初級者編～	20	21	20	24
		少年少女楽しいマリンスポーツキャンプ	24	21	24	24
		SUP（スタンドアップパドルボード）健康教室		10	12	
		バスケットボール・サマー・キャンプ（Ⅰ）～基本動作から応用へ～	49	21	33	38
		バスケットボール・サマー・キャンプ（Ⅱ）～基本動作から応用へ～	79	53	97	76
		バスケットボール・サマー・キャンプ（Ⅲ）～基本動作から応用へ～	90	中止		
		バレーボール・サマー・キャンプ	86	112	137	127
		バレーボール・ウインター・キャンプ	36	36	23	42
合　計			431	330	392	377

Ⅱ．事業戦略講座等

講座種類	講座名称	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)
東京SC講座	みんなで貯筋	24			
	逃すな！発育発達期！ 知っておきたいジュニア期の食事		27		
	健康づくり・介護予防講座　歩く脳トレ運動～スクエアステップ～			30	26
	一流選手の特徴から学ぶ～伸びる子どもを育てる方法～			5	
大学連携講座かごしま県民	みんなで貯筋～元気な老後に備えて貯金と貯筋	30	11		
	現代に生きる「薩摩のハマ投げ」		20		
	Short Story Creation～簡単な物語を英語で作って、発表しよう！ 【一般講座を兼ねる】			(7)	
	健康づくり・介護予防講座　歩く脳トレ運動～スクエアステップ～				29
大学開放事業等	【大学開放事業（蒼天祭）】 学長杯破魔投げ大会	47	中止	58	中止
	【大学開放事業（蒼天祭）】 SPLab（スポーツパフォーマンス研究センター）見学・体験ツアー ※見学のみの参加人数を含む	50	74	105	46
	【大学開放事業（蒼天祭）】 研究室へようこそ（パネル展示）	－	－	－	－
	【大学開放事業（蒼天祭）】 重点プロジェクト事業成果報告会（パネル展示）		－	－	－
	【大学開放事業（蒼天祭）】 NIFSギャラリー開館	－	－	－	－
	【大学開放事業（蒼天祭）】 蒼天祭ボッチャ体験会　1964年オリンピック・パラリンピック特別展示			265	
	【大学開放事業（蒼天祭）】 ～パラリンピック競技を体験しよう～蒼天祭ボッチャ体験会				162
	【大学開放事業（蒼天祭）】 みんなのオリジナルメダルを作ろう				
	【大学開放事業（蒼天祭）】 蒼天祭特別展示～東京1964大会について知ろう！～				－
	【大学開放事業（蒼天祭）】 2020応援ソング「パプリカ」をみんなで踊ろう				10
	【オリンピック・パラリンピック関連講座】 ＜東京2020応援プログラム＞ 桑田真澄氏による野球教室		61		
	【オリンピック・パラリンピック関連講座】 金メダリストによるゴールボール体験教室＆講演会 鹿屋で世界を体感しよう！		50		
	【オリンピック・パラリンピック関連講座、大学開放事業（蒼天祭）】 ＜TOKYO2020応援プログラム＞ サッカーによるダイバーシティの推進　みんなプレーを楽しめる		80		
	【オリンピック・パラリンピック関連講座】 ＜東京2020応援プログラム＞ 小宮山氏・黒木氏による野球イベント　※野球教室のみの参加人数			50	
	【オリンピック・パラリンピック関連講座】 ＜東京2020応援プログラム＞ 鹿屋で世界を体験しよう！水中スクーター体験！　※体験教室のみの参加人数			12	
	【オリンピック・パラリンピック関連講座】 ＜東京2020応援プログラム＞ 北京オリンピック競泳銅メダリスト　宮下純一氏講演会「出会いに感謝　思い続けたオリンピック」				48
	【オリンピック・パラリンピック関連講座】 ＜東京2020応援プログラム＞ ヨーコ・ゼッターランドさんとのバレーボールイベント　※バレー教室のみの参加人数				64
合　計		151	323	525	385

■・・・開設していない講座

「－」・・・自由参加等のため参加者数のカウント無し

・　標準修業年限内卒業率

2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
94.6%	93.8%	93.4%	93.3%

（算出方法）

標準修業年限内卒業（修了）率※注１　＝

標準修業年限で卒業（修了）した者の数

÷ 標準修業年限（例：４年制学部であれば４年）前の入学者数

※注１　長期履修制度を利用している学生及び編入学による学生については、基本的に算入しないでください。算入する場合には、その旨を明記してください。

・　「標準修業年限×1.5」年内卒業率

2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
94.9%	97.8%	97.3%	96.6%

（算出方法）

「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率※注１・２　＝

Ａのうち、（標準修業年限×1.5）年間に学位を取得した者の数※注３

÷　（標準修業年限×1.5）年前の入学者数（Ａ）

※注１　長期履修制度を利用している学生及び編入学による学生については、基本的に算入しないでください。算入する場合には、その旨を明記してください。

※注２　「標準修業年限×1.5」の算出において、端数がある場合は、１年として切り上げる。

※注３　博士課程においては、便宜上、単位取得満期退学後に学位を取得した者を含める。

免許(資格)・受験資格の取得者数一覧

2020.6.2現在

	年度 / 資格名		H28年度(2016)	H29年度(2017)	H30年度(2018)	R1年度(2019)	合計
教免法	教育職員免許状	中一種	86	96	83	93	358
		高一種	125	123	109	112	469
	各年度の卒業生の教員免許取得率※1		63%	63%	57%	60%	61%
免除適応コース※2 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会	共通科目ⅠⅡⅢ（スポーツリーダー）		120	111	107	94	432
	アスレティックトレーナー						0
	ジュニアスポーツ指導員		0	0	0	2	2
	スポーツプログラマー		0	0	0	1	1
	アシスタントマネージャー		0	0	1	1	2
	指導員(～H30) コーチ１(R1～)	水泳	1	2	0	1	4
		セーリング	4	0	5	0	9
		バレーボール	8	9	4	6	27
	教師	水泳	7	0	6	0	13
	コーチ(～H30) コーチ３(R1～)	水泳	5	8	10	8	31
	卒業時の資格取得数（平均）※3		1.8	1.8	1.7	1.7	-

関係団体	社会体育指導員（初級）〔全日本剣道連盟公認〕		35	23	15	23	96
	C級コーチ〔日本サッカー協会公認〕		19	19	42	20	100
	柔道初段〔講道館公認〕		75	77	78	48	278
イベ協	イベント検定		6	9	6	3	24
	授業科目と連動した資格取得数		135	128	141	94	498

※1：卒業生の教員免許取得率＝（高一種合格者数）／（学位取得者数）　％　として算出。
　　なお、高一種合格者数＝教員免許合格者の実数　となる。
※2：日本スポーツ協会関連資格の数字は、修了証明書の取得者数を示す。
※3：卒業時の資格取得数(平均)＝｛(教員免許取得数)+(公認スポーツ指導者資格取得数)｝／（学位取得者数）
　　として算出。
※4：新型コロナウイルス感染症の影響で2019年度後期申請分が未確定のため2019年度は前期分のみの人数。

平成28年度鹿屋体育大学卒業・修了者の進路状況について

平成29年5月1日現在

Ⅰ　体育学部卒業者

〔課程別内訳〕

学部全体			スポーツ総合課程	武道課程
卒業者数		**199 名**	**145 名**	**54 名**
就職希望者数	(A)	**165 名**	**116 名**	**49 名**
就職者数	(B)	**161 名**	**112 名**	**49 名**
教員(非常勤講師を含む)		35 名	21 名	14 名
公務員(教員を除く)		45 名	20 名	25 名
スポーツ関連企業		29 名	28 名	1 名
一般企業		52 名	43 名	9 名
未就職者数		**4 名**	**4 名**	**0 名**
一般企業希望		4 名	4 名	0 名
就職非希望者数		**34 名**	**29 名**	**5 名**
進学		23 名	18 名	5 名
教員・公務員再受験		5 名	5 名	0 名
大学院等再受験		2 名	2 名	0 名
その他(就職を希望しない者)		4 名	4 名	0 名

就職率　＊ 就職率　就職者(B)／就職希望者(A)

	本　学	国公立大学平均	全国大学平均
平成28年度	**97.6** %	97.3 %	97.6 %
平成27年度	98.1 %	97.1 %	97.3 %
平成26年度	99.3 %	97.7 %	96.7 %

※「国公立大学平均」「全国大学平均」の数値は、文部科学省及び厚生労働省が抽出調査を行い、

Ⅱ　大学院修士課程修了者

修士課程		
修了者数		**17 名**
就職希望者数	(A)	**10 名**
就職者数	(B)	**8 名**
教員(非常勤講師を含む)		2 名
公務員(教員を除く)		0 名
スポーツ関連企業		1 名
一般企業		5 名
未就職者数		**2 名**
一般企業希望		2 名
就職非希望者数		**7 名**
進学		4 名
教員・公務員再受験		1 名
大学院等再受験		0 名
就職を希望しない		0 名
その他(復職・現職)		2 名

就職率　就職者B／就職希望者A

平成28年度	80.0 %
平成27年度	100.0 %
平成26年度	100.0 %

Ⅲ 大学院博士後期課程修了者

博士後期課程		
修了者数		**1 名**
就職希望者数	(A)	**0 名**
就職者数	(B)	**0 名**
教員(非常勤講師を含む)		0 名
公務員(教員を除く)		0 名
スポーツ関連企業		0 名
一般企業		0 名
未就職者数		**0 名**
一般企業希望		0 名

満期退学者3名 内就職決定者2名

就職非希望者数		**1 名**
教員・公務員再受験		0 名
就職を希望しない		0 名
その他(復職・現職)		1 名

満期退学者	名

就職率　就職者B／就職希望者A

平成28年度	— %
平成27年度	100.0 %
平成26年度	100.0 %

平成29年度鹿屋体育大学卒業･修了者の進路状況について

平成30年5月1日現在

Ⅰ 体育学部卒業者

〔課程別内訳〕

学部全体			スポーツ総合課程	武道課程
卒業者数		**195 名**	**142 名**	**53 名**
就職希望者数	(A)	**167 名**	**123 名**	**44 名**
就職者数	(B)	**166 名**	**123 名**	**43 名**
教員(非常勤講師を含む)		46 名	35 名	11 名
公務員(教員を除く)		25 名	8 名	17 名
スポーツ関連企業		34 名	31 名	3 名
一般企業		61 名	49 名	12 名
未就職者数		**1 名**	**0 名**	**1 名**
一般企業希望		1 名	0 名	1 名
就職非希望者数		**28 名**	**19 名**	**9 名**
進学		19 名	13 名	6 名
教員･公務員再受験		4 名	1 名	3 名
大学院等再受験		0 名	0 名	0 名
その他(就職を希望しない者)		5 名	5 名	0 名

就職率　　＊ 就職率　就職者(B)／就職希望者(A)

	本　学	国公立大学平均	全国大学平均
平成29年度	**99.4** %	98.0 %	98.0 %
平成28年度	97.6 %	97.3 %	97.6 %
平成27年度	98.1 %	97.1 %	97.3 %

※「国公立大学平均」「全国大学平均」の数値は、文部科学省及び厚生労働省が抽出調査を行い、4月1日現在の集計値を公表したものである。

Ⅱ 大学院修士課程修了者

修士課程			体育学	スポ国開学
修了者数		**18 名**	**16 名**	**2 名**
就職希望者数	(A)	**14 名**	**12 名**	**2 名**
就職者数	(B)	**14 名**	**12 名**	**2 名**
教員(非常勤講師を含む)		3 名	3 名	0 名
公務員(教員を除く)		1 名	1 名	0 名
スポーツ関連企業		5 名	3 名	2 名
一般企業		5 名	5 名	0 名
未就職者数		**0 名**	**0 名**	**0 名**
一般企業希望		0 名	0 名	0 名
就職非希望者数		**4 名**	**4 名**	**0 名**
進学		3 名	3 名	0 名
教員･公務員再受験		0 名	0 名	0 名
大学院等再受験		0 名	0 名	0 名
就職を希望しない		0 名	0 名	0 名
その他(復職･現職)		1 名	1 名	0 名

就職率　　就職者B／就職希望者A

平成29年度	100.0 %
平成28年度	80.0 %
平成27年度	100.0 %

Ⅲ 大学院博士後期課程修了者

博士後期課程			体育学	体スポ学
修了者数		**5 名**	**4 名**	**1 名**
就職希望者数	(A)	**3 名**	**2 名**	**1 名**
就職者数	(B)	**3 名**	**2 名**	**1 名**
教員(非常勤講師を含む)		2 名	1 名	1 名
公務員(教員を除く)		0 名	0 名	0 名
スポーツ関連企業		1 名	1 名	0 名
一般企業		0 名	0 名	0 名
未就職者数		**0 名**	**0 名**	**0 名**
一般企業希望		0 名	0 名	0 名

満期退学者3名 内就職決定者2名

就職非希望者数		**2 名**	**2 名**	**0 名**
教員･公務員再受験		0 名	0 名	0 名
就職を希望しない		0 名	0 名	0 名
その他(復職･現職)		2 名	2 名	0 名
満期退学者		5 名	5 名	0 名

就職率　　就職者B／就職希望者A

平成29年度	100.0 %
平成28年度	－ %
平成27年度	100.0 %

平成30年度鹿屋体育大学卒業・修了者の進路状況について

令和元年5月1日現在

Ⅰ　体育学部卒業者

〔課程別内訳〕

学部全体			スポーツ総合課程	武道課程
卒業者数		**192 名**	**141 名**	**51 名**
就職希望者数	(A)	**160 名**	**112 名**	**48 名**
就職者数	(B)	**159 名**	**111 名**	**48 名**
教員(非常勤講師を含む)		29 名	19 名	10 名
公務員(教員を除く)		38 名	14 名	24 名
スポーツ健康関連企業		33 名	33 名	0 名
一般企業・自営業		59 名	45 名	14 名
未就職者数		**1 名**	**1 名**	**0 名**
一般企業希望		1 名	1 名	0 名
就職非希望者数		**32 名**	**29 名**	**3 名**
進学		25 名	23 名	2 名
教員・公務員再受験		2 名	2 名	0 名
大学院等再受験		1 名	1 名	0 名
その他(就職を望まない、不明)		4 名	3 名	1 名

就職率　　＊ 就職率　就職者(B)／就職希望者(A)

	本　学	国公立大学平均	全国大学平均
平成30年度	**99.4** %	97.3 %	97.6 %
平成29年度	99.4 %	98.0 %	98.0 %
平成28年度	97.6 %	97.3 %	97.6 %

※「国公立大学平均」「全国大学平均」の数値は、文部科学省及び厚生労働省が抽出調査を行い、
4月1日現在の集計値を公表したものである。

Ⅱ　大学院修士課程修了者

修士課程			体育学	国際開発学
修了者数		**15 名**	**12 名**	**3 名**
就職希望者数	(A)	**7 名**	**6 名**	**1 名**
就職者数	(B)	**7 名**	**6 名**	**1 名**
教員(非常勤講師を含む)		1 名	1 名	0 名
公務員(教員を除く)		0 名	0 名	0 名
スポーツ健康関連企業		3 名	2 名	1 名
一般企業・自営業		3 名	3 名	0 名
未就職者数		**0 名**	**0 名**	**0 名**
一般企業希望		0 名	0 名	0 名
就職非希望者数		**8 名**	**6 名**	**2 名**
進学		7 名	5 名	2 名
教員・公務員再受験		0 名	0 名	0 名
大学院等再受験		0 名	0 名	0 名
就職を希望しない		0 名	0 名	0 名
その他(復職・現職)		1 名	1 名	0 名

就職率　　就職者B／就職希望者A

平成30年度	100.0 %
平成29年度	100.0 %
平成28年度	80.0 %

Ⅲ　大学院博士後期・3年制博士課程修了者

博士後期課程			体育学	高度化共同
修了者数		**7 名**	**5 名**	**2 名**
就職希望者数	(A)	**4 名**	**3 名**	**1 名**
就職者数	(B)	**4 名**	**3 名**	**1 名**
教員(非常勤講師を含む)		2 名	1 名	1 名
公務員(教員を除く)		0 名	0 名	0 名
スポーツ健康関連企業		0 名	0 名	0 名
一般企業・自営業		2 名	2 名	0 名
未就職者数		**0 名**	**0 名**	**0 名**
一般企業希望		0 名	0 名	0 名
就職非希望者数		**3 名**	**2 名**	**1 名**
教員・公務員再受験		0 名	0 名	0 名
就職を希望しない		0 名	0 名	0 名
その他(復職・現職)		3 名	2 名	1 名
満期退学者		6 名	6 名	0 名

就職率　　就職者B／就職希望者A

平成30年度	100.0 %
平成29年度	100.0 %
平成28年度	－ %

令和元年度鹿屋体育大学卒業・修了者の進路状況について

令和2年5月1日現在

Ⅰ　体育学部卒業者

〔課程別内訳〕

学部全体			スポーツ総合課程	うち編入生	武道課程
卒業者数		**187 名**	**137 名**	**18 名**	**50 名**
就職希望者数	(A)	**161 名**	**117 名**	**14 名**	**44 名**
就職者数	(B)	**161 名**	**117 名**	**14 名**	**44 名**
教員(非常勤講師を含む)		34 名	20 名	4 名	14 名
公務員等(教員を除く)		37 名	17 名	1 名	20 名
スポーツ健康関連企業		36 名	36 名	8 名	0 名
その他の一般企業		54 名	44 名	1 名	10 名
未就職者数		**0 名**	**0 名**	**0 名**	**0 名**
一般企業希望		0 名	0 名	0 名	0 名
就職非希望者数		**26 名**	**20 名**	**4 名**	**6 名**
進学		17 名	14 名	2 名	3 名
教員・公務員再受験		4 名	2 名	0 名	2 名
大学院等再受験		0 名	0 名	0 名	0 名
その他(就職を望まない、不明)		5 名	4 名	2 名	1 名

就職率　　＊ 就職率　就職者(B)／就職希望者(A)

	本　学	国公立大学平均	全国大学平均
令和元年度	**100.0** %	98.2 %	98.0 %
平成30年度	99.4 %	97.3 %	97.6 %
平成29年度	99.4 %	98.0 %	98.0 %

※「国公立大学平均」「全国大学平均」の数値は、文部科学省及び厚生労働省が抽出調査を行い、
4月1日現在の集計値を公表したものである。

Ⅱ　大学院修士課程修了者

修士課程			体育学	国際開発学
修了者数		**9 名**	**9 名**	**0 名**
就職希望者数	(A)	**5 名**	**5 名**	**0 名**
就職者数	(B)	**4 名**	**4 名**	**0 名**
教員(非常勤講師を含む)		1 名	1 名	0 名
公務員(教員を除く)		0 名	0 名	0 名
スポーツ健康関連企業		3 名	3 名	0 名
一般企業・自営業		0 名	0 名	0 名
未就職者数		**1 名**	**1 名**	**0 名**
一般企業希望		1 名	1 名	0 名
就職非希望者数		**4 名**	**4 名**	**0 名**
進学		4 名	4 名	0 名
教員・公務員再受験		0 名	0 名	0 名
大学院等再受験		0 名	0 名	0 名
就職を希望しない		0 名	0 名	0 名
その他(復職・現職)		0 名	0 名	0 名

就職率　　就職者B／就職希望者A

令和元年度	80.0 %
平成30年度	100.0 %
平成29年度	100.0 %

Ⅲ　大学院博士後期・3年制博士課程修了者

博士後期・３年制博士課程			体育学	高度化共同
修了者数		**1 名**	**0 名**	**1 名**
就職希望者数	(A)	**1 名**	**0 名**	**1 名**
就職者数	(B)	**1 名**	**0 名**	**1 名**
教員(非常勤講師を含む)		1 名	0 名	1 名
公務員(教員を除く)		0 名	0 名	0 名
スポーツ健康関連企業		0 名	0 名	0 名
一般企業・自営業		0 名	0 名	0 名
未就職者数		**0 名**	**0 名**	**0 名**
一般企業希望		0 名	0 名	0 名
就職非希望者数		**0 名**	**0 名**	**0 名**
教員・公務員再受験		0 名	0 名	0 名
就職を希望しない		0 名	0 名	0 名
その他(復職・現職)		0 名	0 名	0 名
満期退学者		5 名	5 名	0 名

就職率　　就職者B／就職希望者A

令和元年度	100.0 %
平成30年度	100.0 %
平成29年度	100.0 %

大学教育の満足度に関するアンケート調査結果（平成28年度～令和元年度）
－卒業生による本学の教育評価－

●回答者数

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
計	178/195	91.3%	180/191	94.2%	179/191	93.7%	171/185	92.4%

●あなたの本学での目標は何でしたか？（複数回答可）

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
スポーツ・武道についての専門的知識や技能の修得	115	31.5%	127	28.9%	126	32.9%	117	29.5%
スポーツ・武道についての実践的な指導能力の修得	72	19.7%	84	19.1%	76	19.8%	74	18.7%
スポーツ・武道についての専門的資格の修得	51	14.0%	44	10.0%	54	14.1%	56	14.1%
自分の専門とする競技に専念し、競技力の向上	74	20.3%	111	25.3%	75	19.6%	91	23.0%
社会人基礎力（汎用的能力）の向上	42	11.5%	58	13.2%	39	10.2%	42	10.6%
漠然としていた	5	1.4%	13	3.0%	8	2.1%	14	3.5%
その他	3	0.8%	2	0.5%	5	1.3%	2	0.5%
無回答	3	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	365		439		383		396	

その他内訳 教員免許状取得のため（4名）、体育教師になるため（4名）、課外活動で成果を上げるため（4名）、
スポーツトレーナーになるため（2名）、専門知識・技術習得のため（2名）、スポーツ指導者になるため、
プロのアスリートになるため

●あなたが卒業時までに身につけた力の満足度についてお伺いします。下の項目についてそれぞれ選択してください。

実技力

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	未実施		45	25.0%	62	34.6%	52	30.4%
2. 満足している			106	58.9%	90	50.3%	98	57.3%
3. あまり満足していない			23	12.8%	26	14.5%	16	9.4%
4. 全く満足していない			6	3.3%	1	0.6%	5	2.9%
計			180		179		171	

実技指導力

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	未実施		33	18.4%	46	25.7%	47	27.5%
2. 満足している			106	59.2%	108	60.3%	100	58.5%
3. あまり満足していない			31	17.3%	22	12.3%	20	11.7%
4. 全く満足していない			9	5.0%	3	1.7%	4	2.3%
計			179		179		171	

事業運営力

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	未実施		28	15.6%	32	17.9%	27	15.8%
2. 満足している			85	47.2%	93	52.0%	99	57.9%
3. あまり満足していない			55	30.6%	46	25.7%	38	22.2%
4. 全く満足していない			12	6.7%	8	4.5%	7	4.1%
計			180		179		171	

指導者基礎力

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	未実施		35	19.4%	41	22.9%	40	23.4%
2. 満足している			106	58.9%	112	62.6%	106	62.0%
3. あまり満足していない			33	18.3%	23	12.8%	23	13.5%
4. 全く満足していない			6	3.3%	3	1.7%	2	1.2%
計			180		179		171	

コミュニケーション力

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	未実施		57	31.7%	65	36.3%	69	40.4%
2. 満足している			100	55.6%	93	52.0%	85	49.7%
3. あまり満足していない			20	11.1%	17	9.5%	14	8.2%
4. 全く満足していない			3	1.7%	4	2.2%	3	1.8%
計			180		179		171	

リーダーシップ

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	未実施		41	22.8%	37	20.7%	45	26.3%
2. 満足している			89	49.4%	110	61.5%	94	55.0%
3. あまり満足していない			44	24.4%	30	16.8%	27	15.8%
4. 全く満足していない			6	3.3%	2	1.1%	5	2.9%
計			180		179		171	

キャリアデザインカ

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	未実施		26	14.4%	38	21.2%	45	26.3%
2. 満足している			89	49.4%	101	56.4%	94	55.0%
3. あまり満足していない			53	29.4%	37	20.7%	24	14.0%
4. 全く満足していない			12	6.7%	3	1.7%	8	4.7%
計			180		179		171	

課題解決力

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	未実施		37	20.6%	51	28.5%	48	28.1%
2. 満足している			105	58.3%	109	60.9%	107	62.6%
3. あまり満足していない			32	17.8%	19	10.6%	15	8.8%
4. 全く満足していない			6	3.3%	0	0.0%	1	0.6%
計			180		179		171	

一般教養・倫理

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	未実施		18	10.0%	34	19.0%	29	17.0%
2. 満足している			104	57.8%	101	56.4%	111	64.9%
3. あまり満足していない			49	27.2%	38	21.2%	28	16.4%
4. 全く満足していない			9	5.0%	6	3.4%	3	1.8%
計			180		179		171	

科学的支援力

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	未実施		20	11.1%	41	22.9%	27	15.8%
2. 満足している			90	50.0%	82	45.8%	98	57.3%
3. あまり満足していない			57	31.7%	51	28.5%	42	24.6%
4. 全く満足していない			13	7.2%	5	2.8%	4	2.3%
計			180		179		171	

科学的表現力

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	未実施		19	10.6%	37	20.7%	25	14.6%
2. 満足している			85	47.2%	88	49.2%	106	62.0%
3. あまり満足していない			62	34.4%	48	26.8%	37	21.6%
4. 全く満足していない			14	7.8%	6	3.4%	3	1.8%
計			180		179		171	

専門的な知識・教養

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	未実施		46	25.6%	62	34.6%	59	34.5%
2. 満足している			106	58.9%	105	58.7%	101	59.1%
3. あまり満足していない			24	13.3%	11	6.1%	10	5.8%
4. 全く満足していない			4	2.2%	1	0.6%	1	0.6%
計			180		179		171	

●あなたの本学における勉学の満足度についてお伺いします。

Q1. 本学4年間（編入生は2年間）での自分自身の成長について満足していますか。

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	59	33.1%	87	48.3%	81	45.3%	80	46.8%
2. 満足している	106	59.6%	71	39.4%	88	49.2%	82	48.0%
3. あまり満足していない	11	6.2%	19	10.6%	10	5.6%	8	4.7%
4. 全く満足していない	0	0.0%	3	1.7%	0	0.0%	1	0.6%
無回答	2	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

Q2. 本学に入学したことについて満足していますか。

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	105	59.0%	96	53.3%	101	56.4%	108	63.2%
2. 満足している	66	37.1%	69	38.3%	68	38.0%	53	31.0%
3. あまり満足していない	2	1.1%	10	5.6%	8	4.5%	7	4.1%
4. 全く満足していない	0	0.0%	5	2.8%	2	1.1%	3	1.8%
無回答	5	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

●各授業科目区分での学びはあなたを満足させるものでしたか。下の項目についてそれぞれ選択してください。

「基礎科目A」は、「体育学の基礎となる内容」を理解する科目として満足させるものでしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	51	28.7%	33	18.3%	41	22.9%	41	24.0%
2. 満足している	109	61.2%	118	65.6%	118	65.9%	113	66.1%
3. あまり満足していない	13	7.3%	23	12.8%	19	10.6%	16	9.4%
4. 全く満足していない	1	0.6%	6	3.3%	1	0.6%	1	0.6%
無回答	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

「基礎科目B」は、「スポーツ・武道及び体育・健康づくりについての指導・普及に役立つ基礎的な内容」を理解する科目として満足させるものでしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	56	31.5%	32	17.8%	34	19.0%	43	25.1%
2. 満足している	108	60.7%	118	65.6%	124	69.3%	108	63.2%
3. あまり満足していない	9	5.1%	24	13.3%	20	11.2%	19	11.1%
4. 全く満足していない	1	0.6%	6	3.3%	1	0.6%	1	0.6%
無回答	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

「応用科目」は、「スポーツ・武道及び体育・健康づくりについての指導・普及に役立つ応用的な内容」を身につける科目として満足させるものでしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	52	29.2%	40	22.2%	50	27.9%	57	33.3%
2. 満足している	115	64.6%	115	63.9%	111	62.0%	103	60.2%
3. あまり満足していない	6	3.4%	18	10.0%	17	9.5%	10	5.8%
4. 全く満足していない	1	0.6%	7	3.9%	1	0.6%	1	0.6%
無回答	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

「実験演習科目」は、「スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する基礎的な科学的支援力や表現力」を身につける科目として満足させるものでしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	59	33.1%	48	26.7%	57	31.8%	55	32.2%
2. 満足している	98	55.1%	113	62.8%	107	59.8%	106	62.0%
3. あまり満足していない	12	6.7%	14	7.8%	14	7.8%	9	5.3%
4. 全く満足していない	1	0.6%	5	2.8%	1	0.6%	1	0.6%
0. 未受講	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

「関連実技科目」は、「スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する基礎的な実技力」を身につける科目として満足させるものでしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	78	43.8%	67	37.2%	73	40.8%	70	40.9%
2. 満足している	92	51.7%	101	56.1%	92	51.4%	95	55.6%
3. あまり満足していない	4	2.2%	8	4.4%	13	7.3%	5	2.9%
4. 全く満足していない	0	0.0%	4	2.2%	1	0.6%	1	0.6%
無回答	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

「ゼミナール」「卒業研究」は、「スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおける関心のあるテーマについて、これまでの知識を総合的に活用し、課題設定、解決、説明する能力」を身につける科目としてあなたを満足させるものでしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	91	51.1%	78	43.3%	101	56.4%	93	54.4%
2. 満足している	79	44.4%	85	47.2%	68	38.0%	67	39.2%
3. あまり満足していない	4	2.2%	11	6.1%	9	5.0%	10	5.8%
4. 全く満足していない	0	0.0%	6	3.3%	1	0.6%	1	0.6%
無回答	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

「専修科目」は、「スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関して、年齢、目的に応じた体系的な実技指導力や事業運営能力」を身につける科目として満足させるものでしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	63	35.4%	48	26.7%	53	29.6%	55	32.2%
2. 満足している	101	56.7%	115	63.9%	104	58.1%	102	59.6%
3. あまり満足していない	10	5.6%	11	6.1%	21	11.7%	12	7.0%
4. 全く満足していない	0	0.0%	6	3.3%	1	0.6%	2	1.2%
無回答	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

「指導実践科目」は、「専修科目で身につけた体系的な実技指導力や事業運営能力を実地的・実践的に活用」できる科目として満足させるものでしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	64	36.0%	55	30.6%	53	29.6%	58	33.9%
2. 満足している	97	54.5%	108	60.0%	110	61.5%	100	58.5%
3. あまり満足していない	9	5.1%	11	6.1%	15	8.4%	11	6.4%
4. 全く満足していない	1	0.6%	6	3.3%	1	0.6%	2	1.2%
0. 未受講	3	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

「コミュニケーション科目」は、「国際社会で活躍できる語学力とコミュニケーション能力」を身につける科目として満足させるものでしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	53	29.8%	38	21.1%	46	25.7%	46	26.9%
2. 満足している	89	50.0%	111	61.7%	108	60.3%	103	60.2%
3. あまり満足していない	28	15.7%	26	14.4%	22	12.3%	17	9.9%
4. 全く満足していない	4	2.2%	5	2.8%	3	1.7%	5	2.9%
無回答	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

「社会・文化・自然科目」は、「人間、社会、文化、自然および環境に関する教養や態度」を身につける科目として満足させるものでしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	52	29.2%	30	16.7%	38	21.2%	36	21.1%
2. 満足している	96	53.9%	113	62.8%	112	62.6%	104	60.8%
3. あまり満足していない	24	13.5%	30	16.7%	26	14.5%	27	15.8%
4. 全く満足していない	2	1.1%	7	3.9%	3	1.7%	4	2.3%
無回答	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

「総合科目」は、「基礎的な情報リテラシー、表現力や討論力」を身につける科目として満足させるものでしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	50	28.1%	30	16.7%	41	22.9%	46	26.9%
2. 満足している	102	57.3%	117	65.0%	120	67.0%	100	58.5%
3. あまり満足していない	21	11.8%	27	15.0%	16	8.9%	20	11.7%
4. 全く満足していない	1	0.6%	6	3.3%	2	1.1%	5	2.9%
無回答	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

「キャリアデザイン科目」は、「実践的、創造的なリーダーとしての将来を展望し、勤労感・職業観及びキャリアデザインカ」を醸成する科目として満足させるものでしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	49	27.5%	36	20.0%	48	26.8%	44	25.7%
2. 満足している	92	51.7%	110	61.1%	99	55.3%	98	57.3%
3. あまり満足していない	22	12.4%	23	12.8%	27	15.1%	22	12.9%
4. 全く満足していない	9	5.1%	11	6.1%	5	2.8%	7	4.1%
0. 未受講	2	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

教職科目について満足していますか?

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	未実施		38	21.1%	49	27.4%	55	32.2%
2. 満足している			106	58.9%	87	48.6%	83	48.5%
3. あまり満足していない			23	12.8%	34	19.0%	19	11.1%
4. 全く満足していない			13	7.2%	9	5.0%	14	8.2%
0. 未受講			0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答			0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計			180		179		171	

教職の専門科目について満足していますか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	未実施		47	26.1%	47	26.3%	53	31.0%
2. 満足している			111	61.7%	99	55.3%	91	53.2%
3. あまり満足していない			14	7.8%	24	13.4%	16	9.4%
4. 全く満足していない			8	4.4%	9	5.0%	11	6.4%
0. 未受講			0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答			0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計			180		179		171	

教育実習について満足していますか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	69	38.8%	78	43.3%	76	42.5%	75	43.9%
2. 満足している	62	34.8%	52	28.9%	46	25.7%	41	24.0%
3. あまり満足していない	6	3.4%	6	3.3%	5	2.8%	5	2.9%
4. 全く満足していない	2	1.1%	3	1.7%	1	0.6%	2	1.2%
5. 履修していない	36	20.2%	41	22.8%	51	28.5%	48	28.1%
無回答	3	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

生涯スポーツ実習について満足していますか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	42	23.6%	未実施		未実施		未実施	
2. 満足している	77	43.3%						
3. あまり満足していない	10	5.6%						
4. 全く満足していない	2	1.1%						
5. 履修していない	44	24.7%						
無回答	3	1.7%						
計	178							

スポーツ指導実習について満足していますか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	未実施		84	46.7%	90	50.3%	85	49.7%
2. 満足している			80	44.4%	74	41.3%	71	41.5%
3. あまり満足していない			11	6.1%	10	5.6%	13	7.6%
4. 全く満足していない			1	0.6%	4	2.2%	1	0.6%
5. 履修していない			4	2.2%	1	0.6%	1	0.6%
無回答			0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計			180		179		171	

介護等体験について満足していますか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	未実施		53	29.4%	53	29.6%	58	33.9%
2. 満足している			73	40.6%	55	30.7%	51	29.8%
3. あまり満足していない			5	2.8%	5	2.8%	6	3.5%
4. 全く満足していない			5	2.8%	1	0.6%	1	0.6%
5. 履修していない			44	24.4%	65	36.3%	55	32.2%
無回答			0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計			180		179		171	

●あなたが履修した科目で満足度の高い授業科目名とその理由を記入してください。（複数記述可）

【解答例】スポーツ栄養学、スポーツ心理学：自分の競技に役立った

記載省略

●4年次の前後期それぞれ、1週間あたりの平均学修時間（授業時間以外に自分で学修した時間、就活の時間は含んで良い）を選択してください。

Q1. 【前期】1週間あたり授業以外で学修した時間

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 0-1時間	未実施		未実施		61	34.1%	55	32.2%
2. 1-3.5時間					71	39.7%	61	35.7%
3. 3.5-7.5時間					22	12.3%	25	14.6%
4. 7.5-15時間					9	5.0%	10	5.8%
5. 15-30時間					10	5.6%	11	6.4%
6. 30時間以上					6	3.4%	9	5.3%
計					179		171	

Q2. 【後期】1週間あたり授業以

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 0-1時間					62	34.6%	60	35.1%

外で学修した時間

2. 1-3.5時間	未実施	未実施	73	40.8%	66	38.6%
3. 3.5-7.5時間			21	11.7%	20	11.7%
4. 7.5-15時間			10	5.6%	11	6.4%
5. 15-30時間			4	2.2%	4	2.3%
6. 30時間以上			9	5.0%	10	5.8%
計			179		171	

●授業科目の履修状況についてお伺いします。

Q1. 教養科目（一般科目及びキャリア形成科目）は希望どおり履修できて満足していますか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	68	38.2%	未実施		未実施		未実施	
2. 満足している	89	50.0%						
3. あまり満足していない	8	4.5%						
4. 全く満足していない	2	1.1%						
無回答	11	6.2%						
計	178							

Q2. 専門科目は希望どおり履修できて満足していますか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	69	38.8%	未実施		未実施		未実施	
2. 満足している	87	48.9%						
3. あまり満足していない	10	5.6%						
4. 全く満足していない	1	0.6%						
無回答	11	6.2%						
計	178							

授業科目は希望どおりの履修ができて満足していますか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	未実施		88	48.9%	92	51.4%	78	45.6%
2. 満足している			86	47.8%	84	46.9%	86	50.3%
3. あまり満足していない			5	2.8%	2	1.1%	6	3.5%
4. 全く満足していない			1	0.6%	1	0.6%	1	0.6%
無回答			0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計			180		179		171	

履修できなかった科目名を教えてください。

上級英語
弓道
関連実技科目で人気な競技をほとんどできたかった。体育大学ならもっとたくさんの競技の授業
実技科目各学年で取らなければいけない授業をとってきたのにもかかわらず、4年で余っていたのがとってきたもの
教職難しかったから
ゴルフ

●サークル活動（部活動）についてお伺いします。

部活動に参加していましたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
参加した	未実施		159	88.3%	165	92.2%	154	90.1%
参加したが途中でやめた			15	8.3%	9	5.0%	10	5.8%
最初から参加していない			6	3.3%	5	2.8%	7	4.1%
計			180		179		171	

【上の質問で部活動に参加したと回答した方のみ】部活動の取り組みは、あなたを満足させるものでしたか。
以下の項目ごとに回答してください。

Q1. サークル活動はあなたの「社会性や人間性の成長」を満足させるものでしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	120	67.4%	99	59.3%	113	63.1%	103	60.2%
2. 満足している	32	18.0%	57	34.1%	54	30.2%	48	28.1%
3. あまり満足していない	5	2.8%	6	3.6%	6	3.4%	7	4.1%
4. 全く満足していない	1	0.6%	5	3.0%	6	3.4%	2	1.2%
0. 参加していない	8	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	12	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	11	6.4%
計	178		167		179		171	

Q2. サークル活動はあなたの「競技力の向上」を満足させるものでしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	111	62.4%	93	55.7%	103	57.5%	85	49.7%
2. 満足している	38	21.3%	60	35.9%	54	30.2%	56	32.7%
3. あまり満足していない	7	3.9%	9	5.4%	15	8.4%	15	8.8%
4. 全く満足していない	2	1.1%	5	3.0%	7	3.9%	4	2.3%
0. 参加していない	8	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	12	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	11	6.4%
計	178		167		179		171	

Q3. サークル活動はあなたの「実践的指導能力の修得」を満足させるものでしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	111	62.4%	96	57.5%	99	55.3%	89	52.0%
2. 満足している	38	21.3%	51	30.5%	61	34.1%	52	30.4%
3. あまり満足していない	7	3.9%	13	7.8%	13	7.3%	16	9.4%
4. 全く満足していない	2	1.1%	7	4.2%	6	3.4%	1	0.6%
0. 参加していない	8	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	12	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	13	7.6%
計	178		167		179		171	

Q4. サークル活動をする環境（人的・施設等）は、あなたにとって満足でしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	114	64.0%	96	57.5%	106	59.2%	92	53.8%
2. 満足している	39	21.9%	53	31.7%	53	29.6%	52	30.4%
3. あまり満足していない	4	2.2%	11	6.6%	13	7.3%	14	8.2%
4. 全く満足していない	1	0.6%	7	4.2%	7	3.9%	1	0.6%
0. 参加していない	8	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	12	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	12	7.0%
計	178		167		179		171	

●最後に、卒業後のスポーツリーダー／指導者としての意気込みをお伺いします。

Q1. あなたは、卒業後、有給・無給に関わらず、家庭、職場、地域等でスポーツ指導者あるいはリーダーとしてどのように関わろうと考えていますか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 積極的に関わりたい	74	41.6%	98	54.4%	90	50.3%	86	50.3%
2. 要請があれば関わりたい	72	40.4%	60	33.3%	67	37.4%	63	36.8%
3. 無給では関わりたくない	9	5.1%	14	7.8%	17	9.5%	17	9.9%
4. 全く関わりたくない	1	0.6%	8	4.4%	5	2.8%	5	2.9%
無回答	22	12.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

●最後に、本学の教育課程や教育について、意見・感想があればお願いします。（令和元年度のみ記載）

記載省略

平成30年度　卒業後調査結果

および

前年度との比較

卒業後3年および10年後にあたるを対象として

卒業生アンケート回収結果

2017年度

2018年度

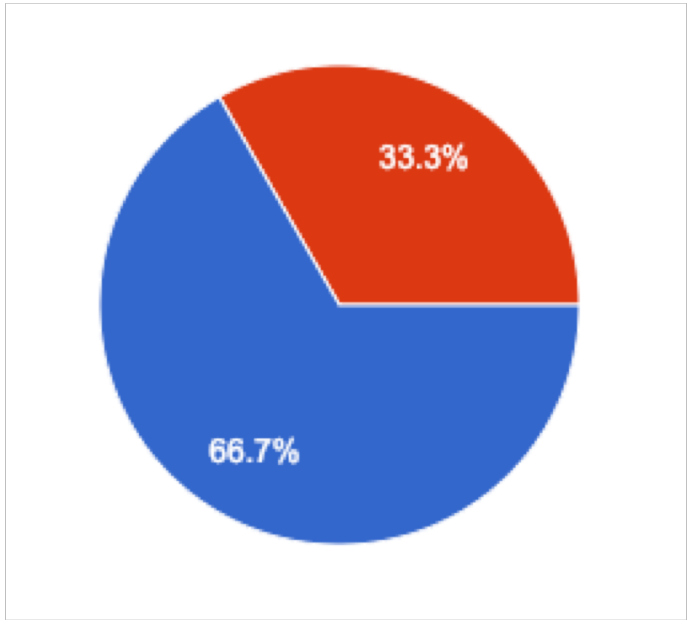
回答数 52 件/284件、回答率 18.3 %

回答数 68 件/301件、回答率 22.6 %

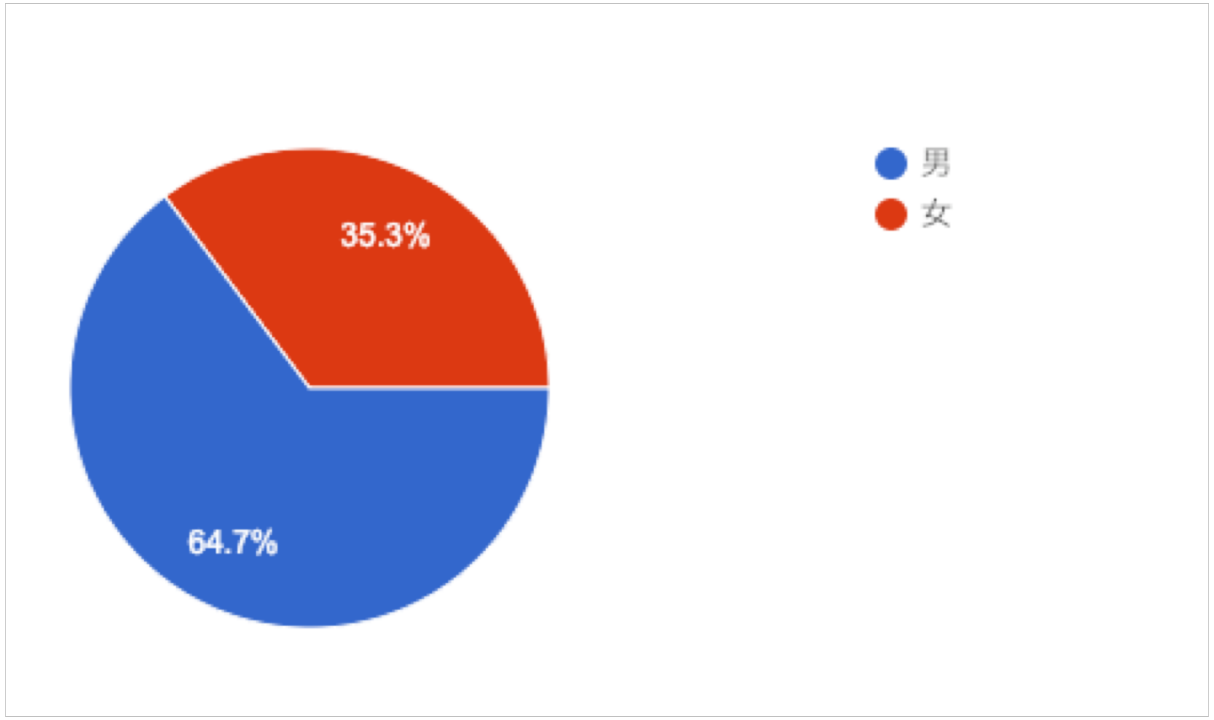
2018年度は、**16件**回答数が増加し、割合も**4.3%**増加した。

プロフィール

2017年度



2018年度



年度毎の傾向は似ている。

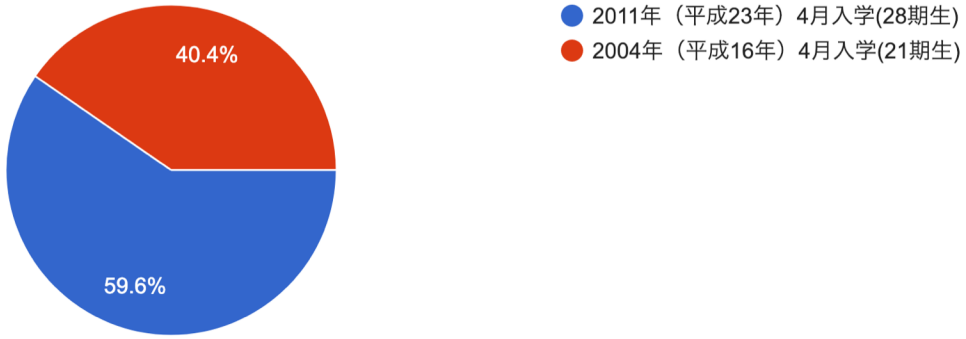
男性の方が約65%と高いが、全体の男女の割合で見ると回答率は同じくらい。

プロフィール

2017年度

●入学年（入学期）

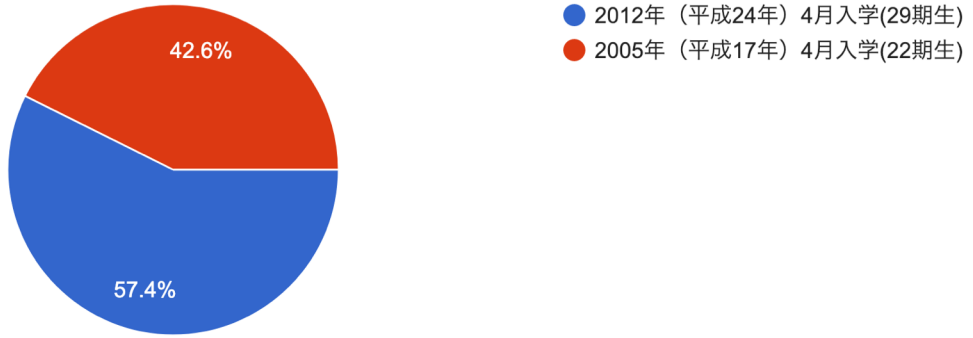
52 件の回答



2018年度

●入学年（入学期）

68 件の回答

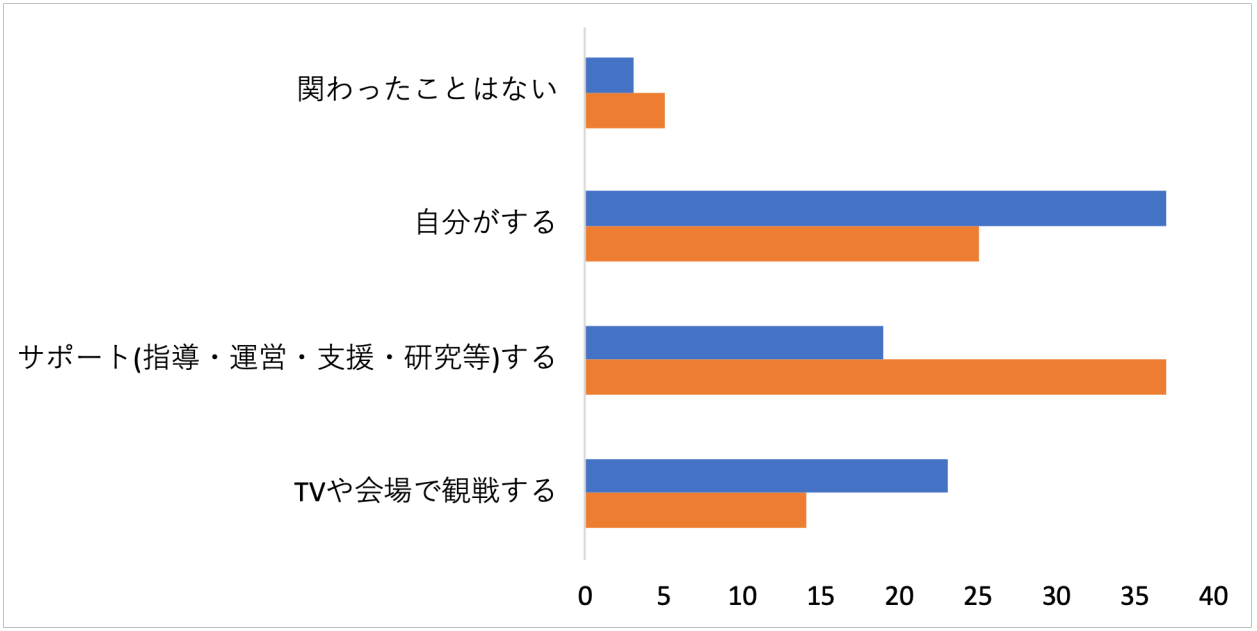


年度毎の傾向は似ている。

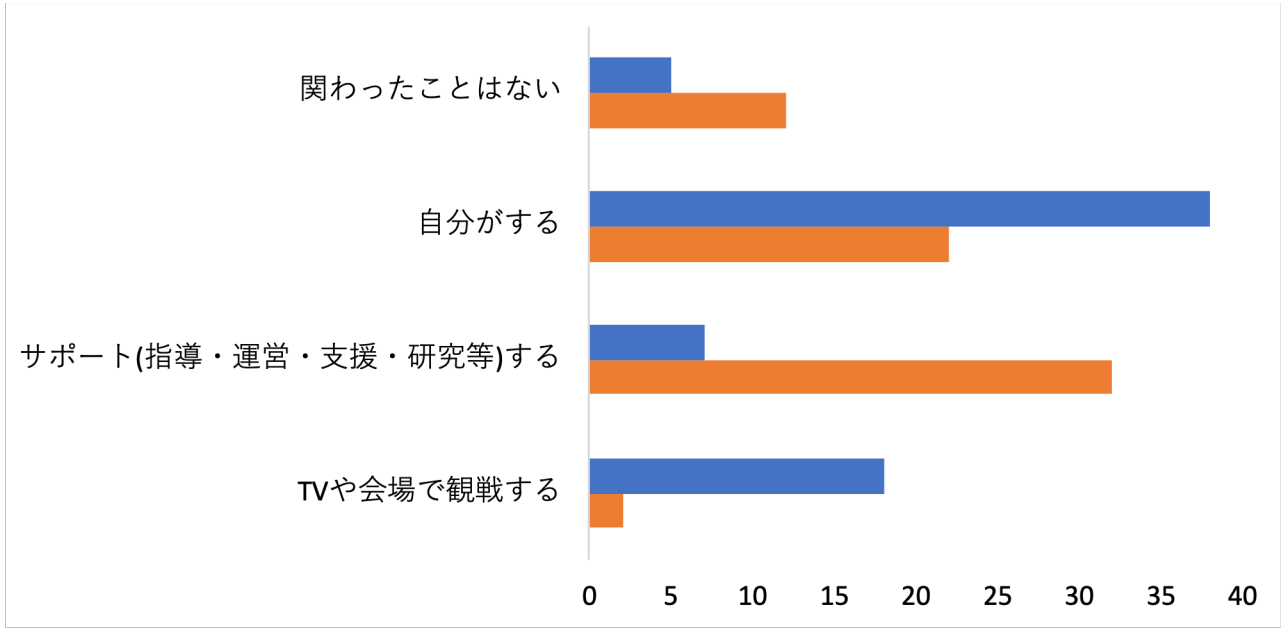
卒業後3年の割合の方が多い（約60%）

Q.1 卒業後、スポーツ・武道・健康づくりにどのように関わったことがありますか 。

2017年度



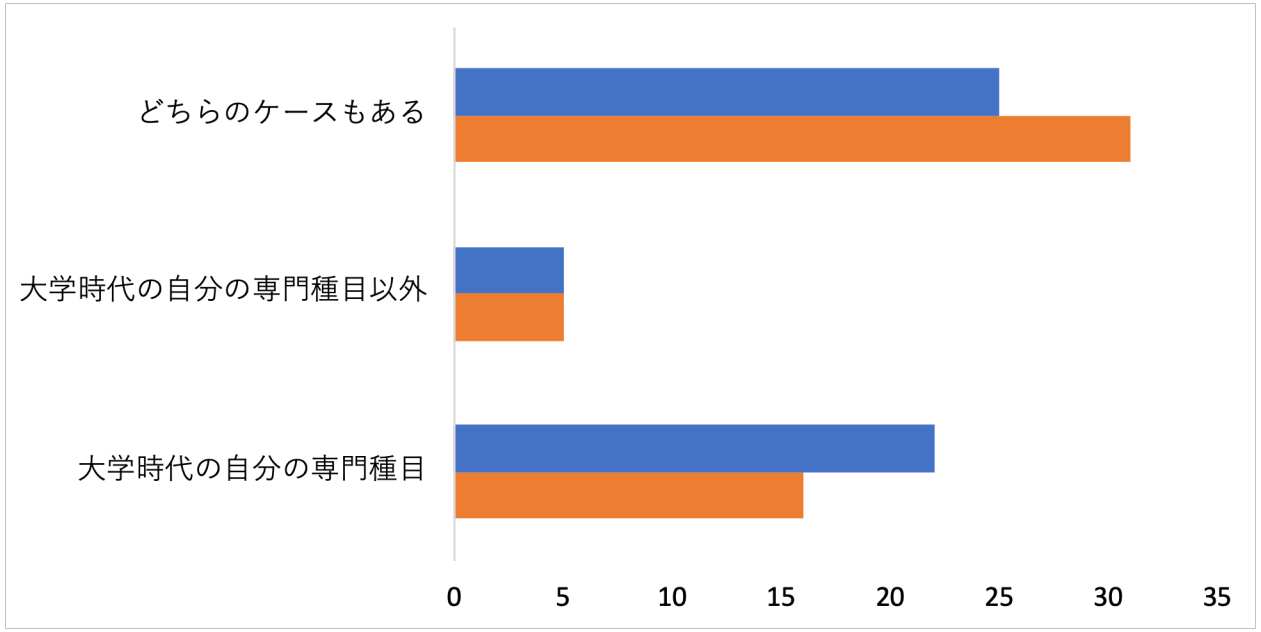
2018年度

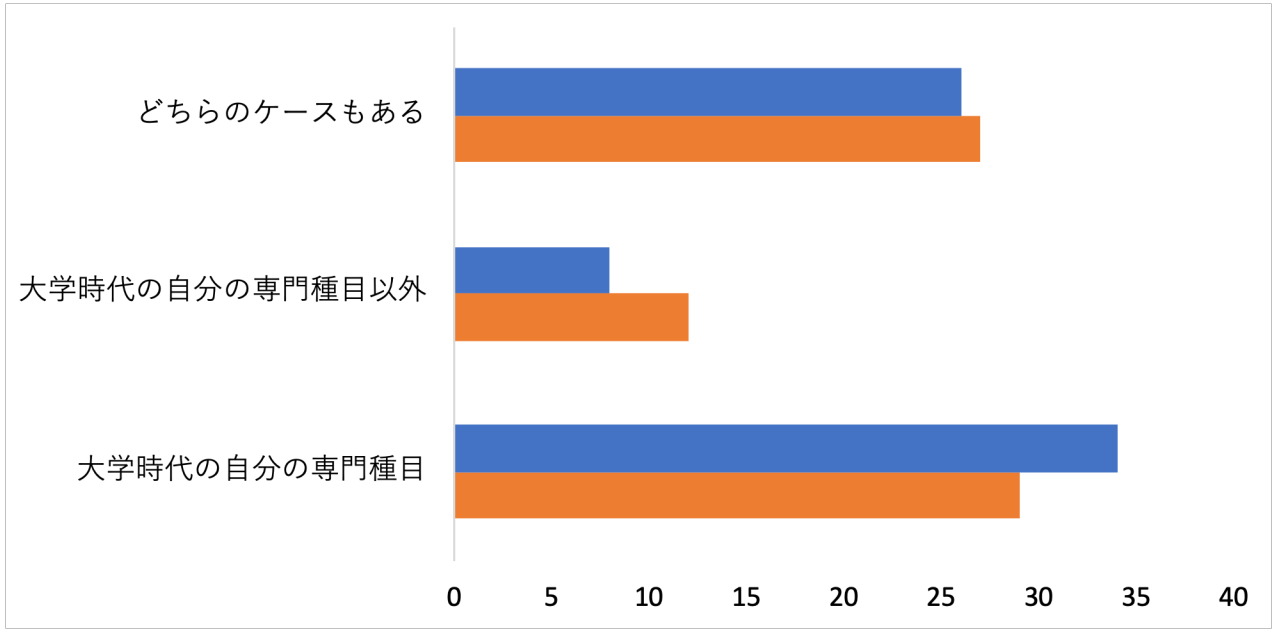


プライベートで　仕事で

年度毎の傾向は似ている。
プライベートでは**「自分でする」「観戦する」**が多く
仕事では**「サポートする」**が多い傾向。

Q2. どのような種目での関わりでしたか。





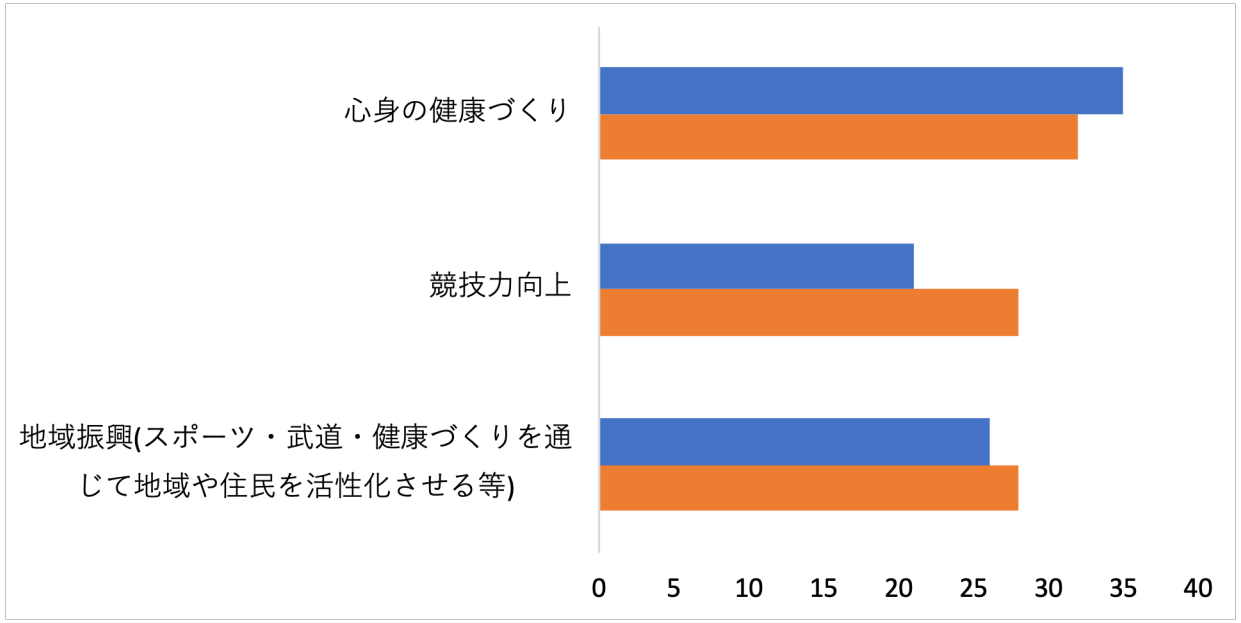
プライベートで　仕事で

年度毎の傾向は似ている。

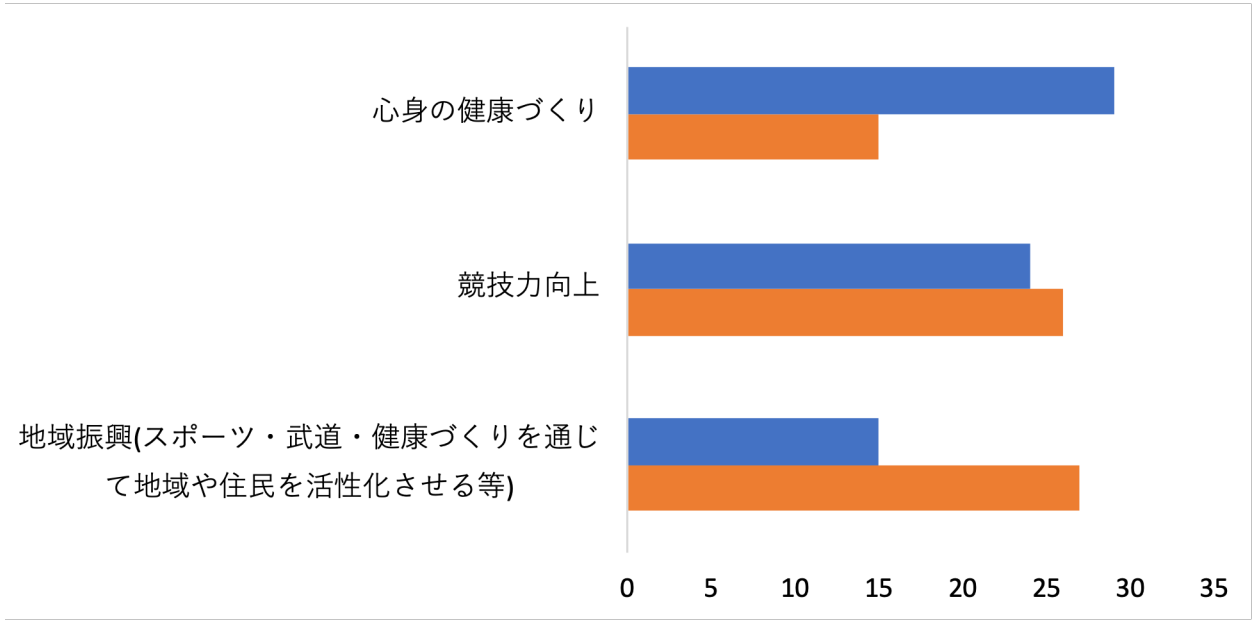
プライベート・仕事ともに**「専門種目」**に関わることが**多い傾向。**

Q4.どのような目的で関わってきましたか

2017年度



2018年度



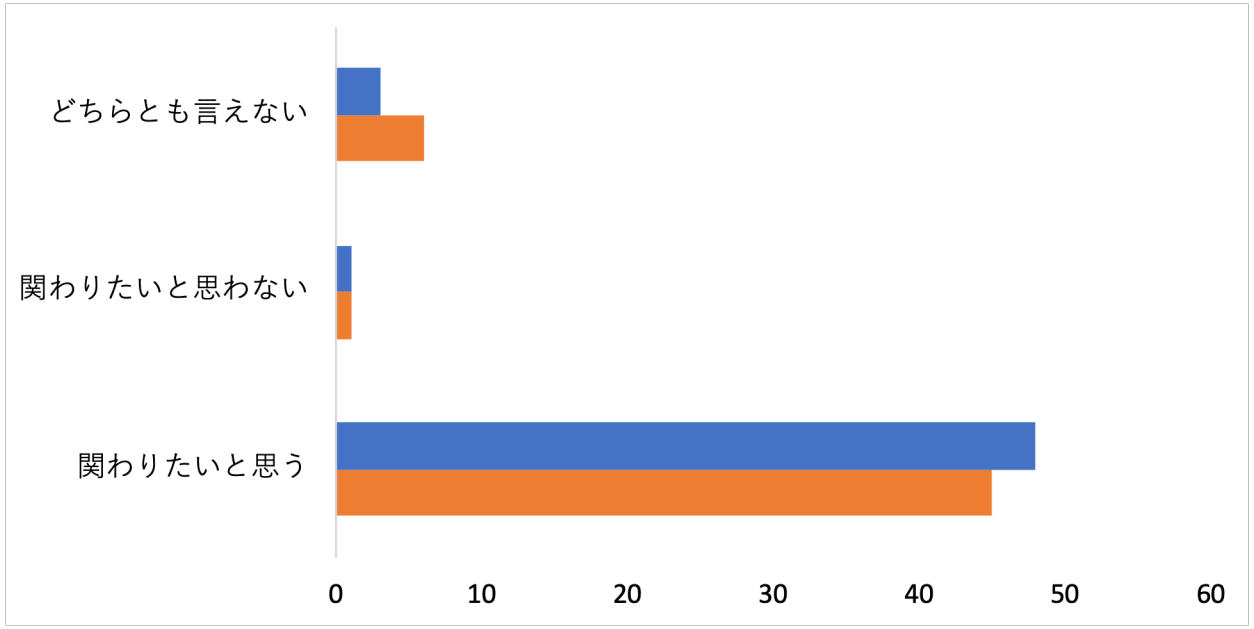
プライベートで　仕事で

年度毎の傾向が若干異なる。

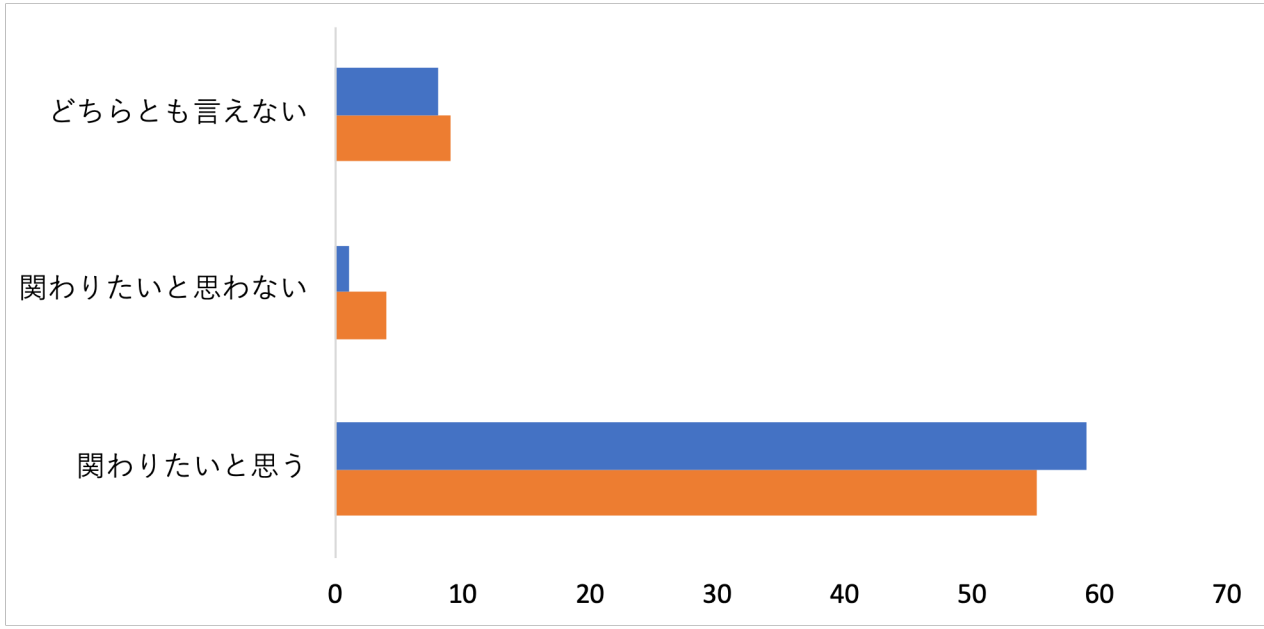
プライベート・仕事ともにスポーツに関わる目的は年度によって異なる**傾向**。

Q5.今後、スポーツ・武道・健康づくりに関わりたいと思いますか。

2017年度



2018年度

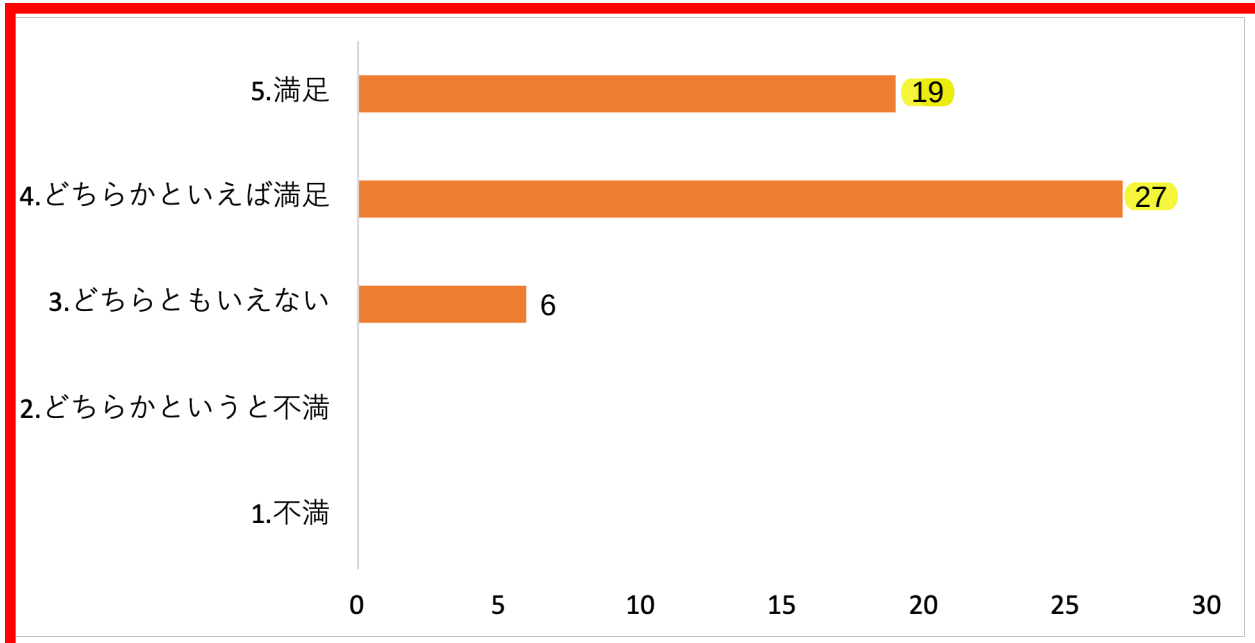


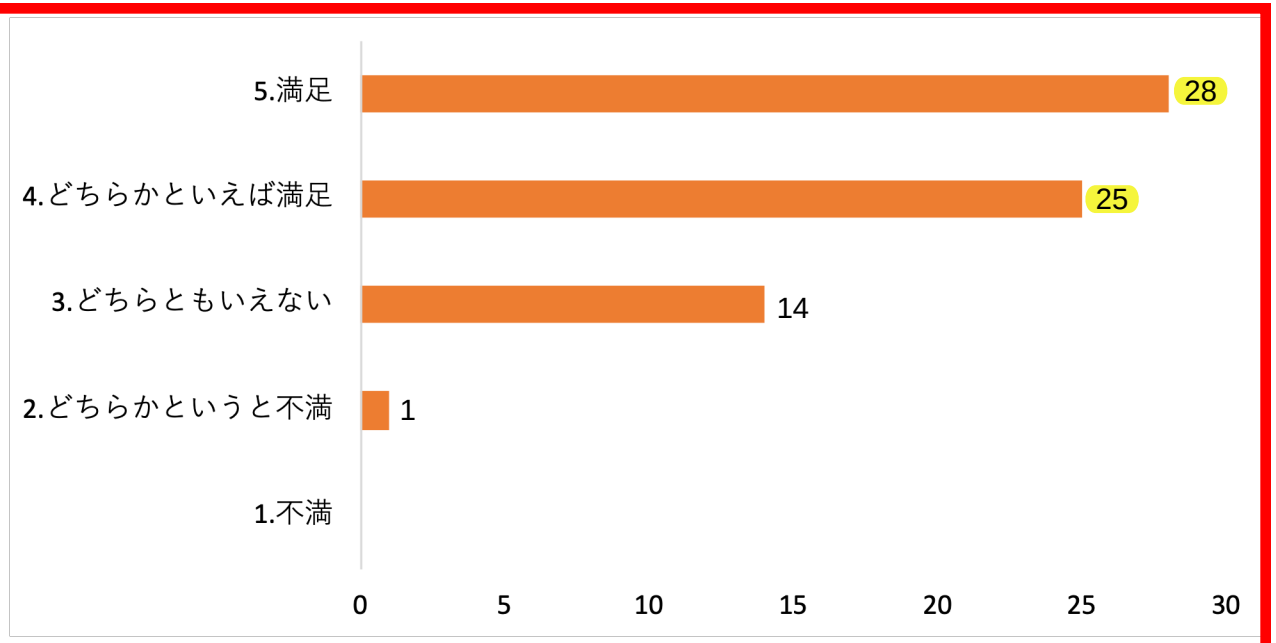
プライベートで　仕事で

年度毎の傾向は似ている。

プライベート・仕事ともに**「関わりたいと思う」人が多い傾向。**

Q6.今、鹿屋体育大学での教育を振り返って、総合的に満足していますか。





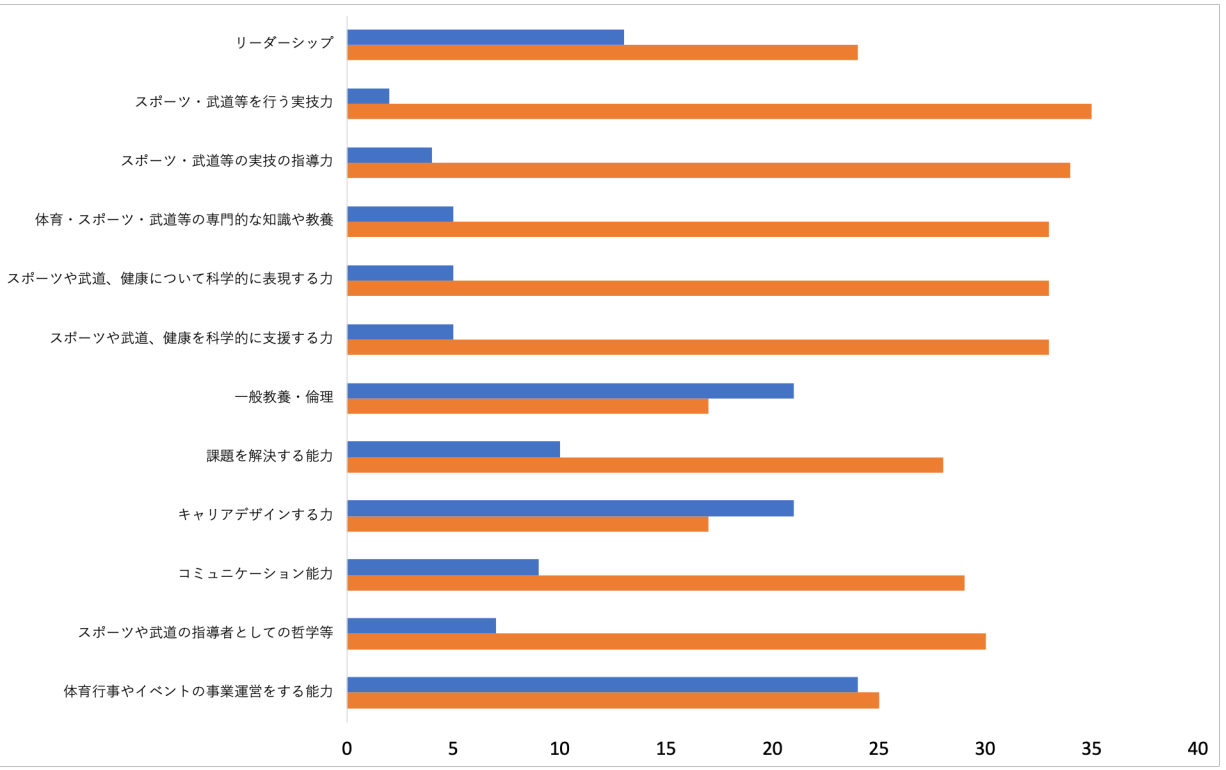
プライベートで　仕事で

年度毎の傾向は似ている。

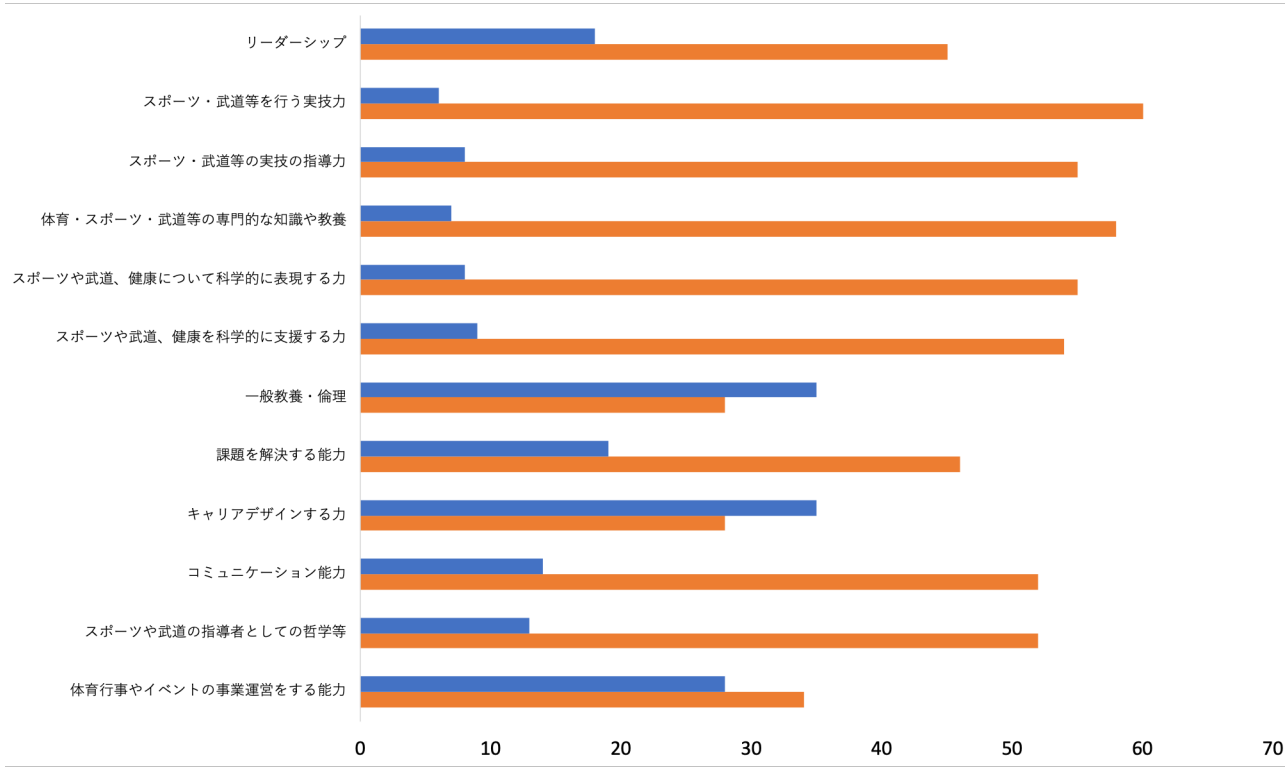
2018年度は「5.満足」と回答した人が増加。

Q7.本学の教育で目指す以下の資質・能力について、①本学の教育で、社会に出て役立ったもの ②本学の教育で不足しているものをそれぞれ回答ください。

2017年度



2018年度



不足している　役立った

年度毎の傾向は似ている。

「一般教養・倫理」「キャリアデザイン」は不足しているが役立ったより多い。

まとめ

2018年度も2017年度と同様に、仕事・プライベートともにスポーツ・武道・健康づくりに関わっており、今後も関わりたいと回答した人が多い。

2018年度も2017年度と同様に、

- **キャリアデザイン力**
- **一般教養倫理**

で本学の教育が不足していると回答している人が満足している人より多く

- **リーダーシップ**
- **事業運営力**
- **課題解決力**

も不足していると回答している人が多い。

令和元年度　卒業後調査結果

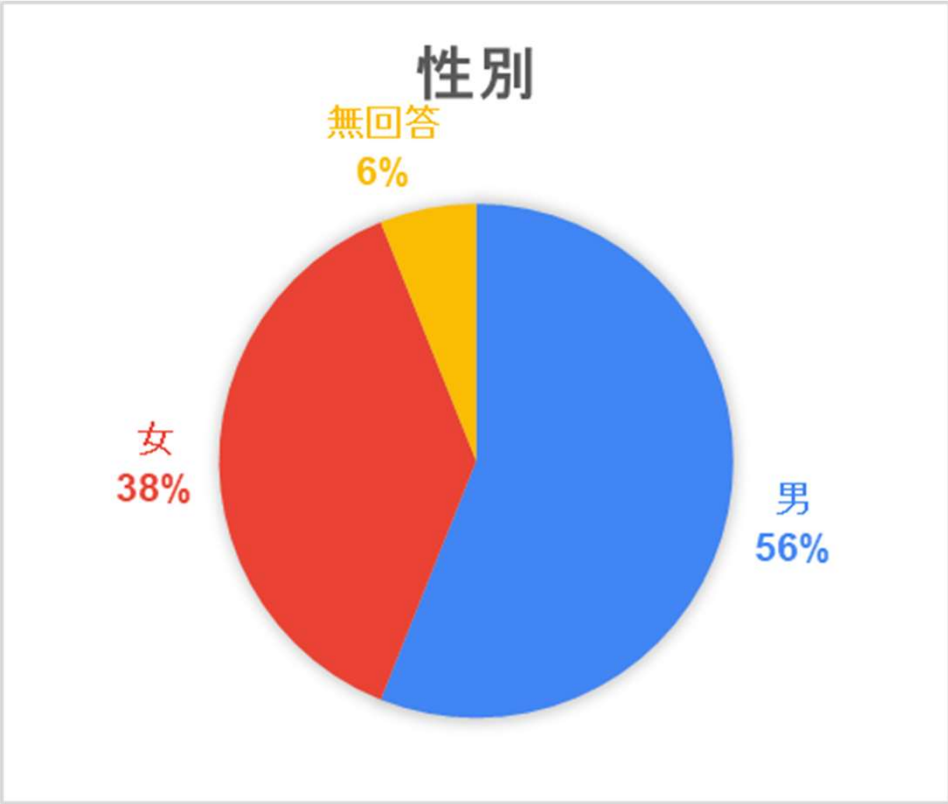
23期生（2009年度卒業）・30期生（2016年度卒業）

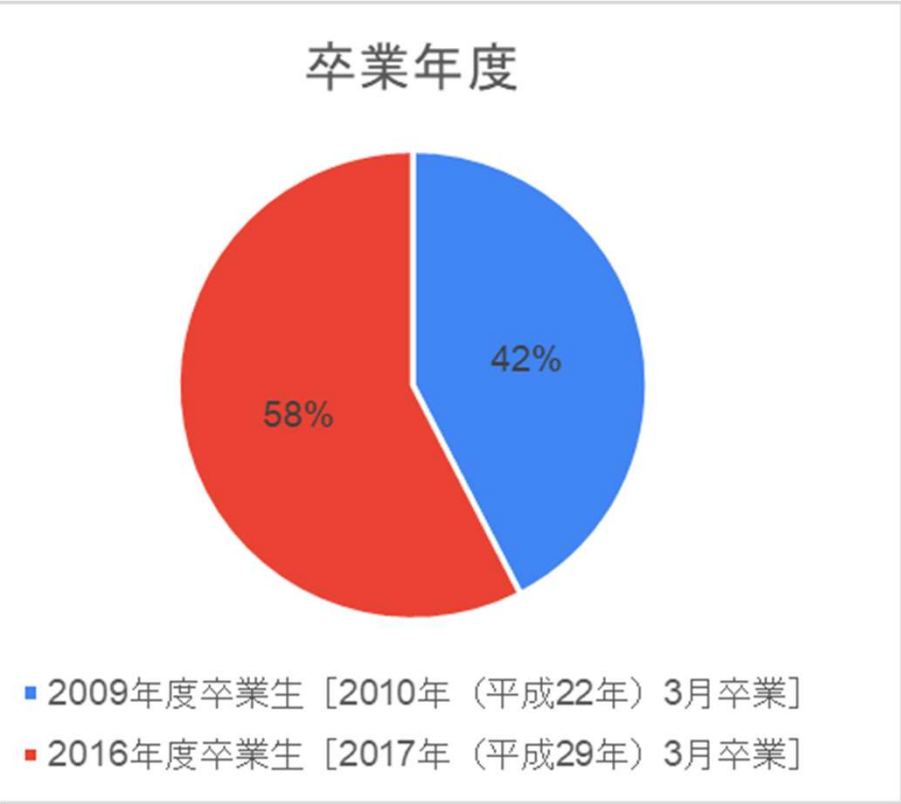
66人 / 290人（22.7％）　（昨年度も22.6％）

→目標20%達成！（APフォローアップ報告書より）

今年度の目標は**20%（58名）**で、前会議時点では7.3%（21名）だった回答率を上げることができた。SNSでの呼びかけや再度12月末に郵送したのが奏功した。今年の年末年始が長かったため、実家帰省の際に回答してくれたのでは？

2020/01/23 教育企画・評価室
岡田

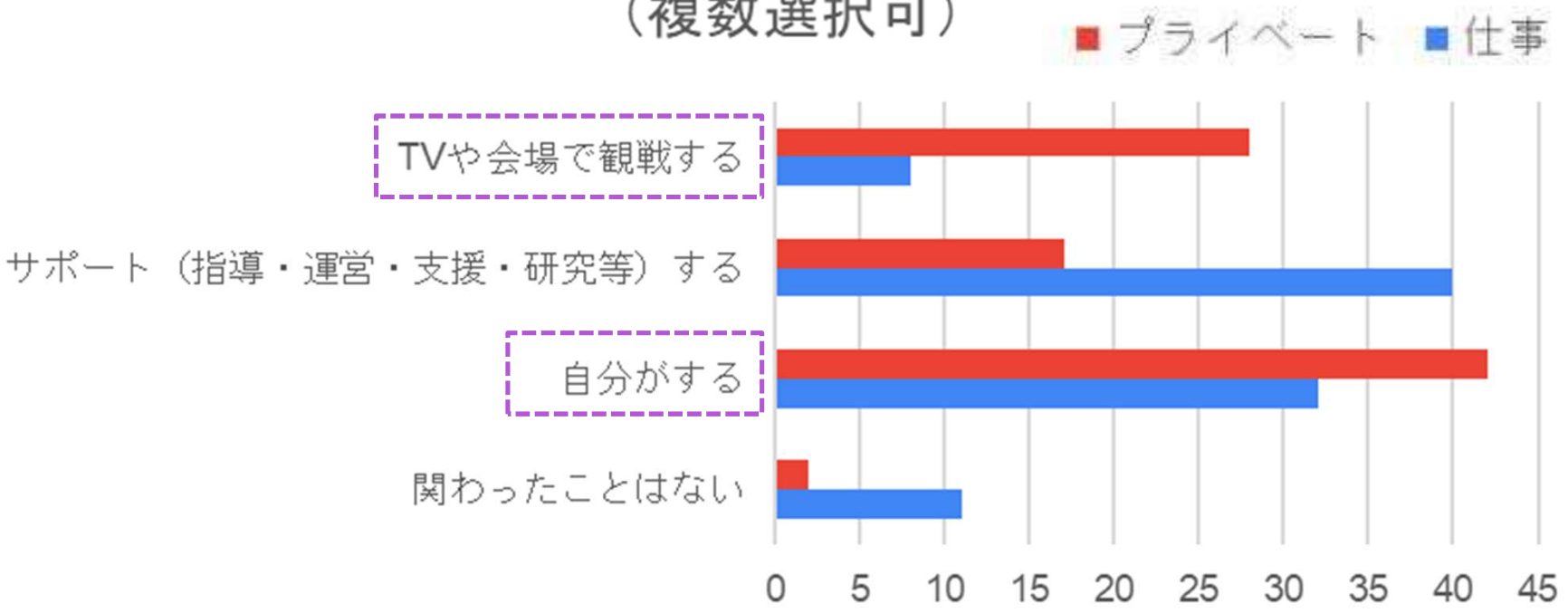




男女比としては、卒業生の割合で考えると、**女性の回答率が少し高い**。例年は卒業生の割合とほぼ同じである。

毎年度卒業年度の割合の傾向は似ている。
卒業後３年の割合が高い（約60%）。

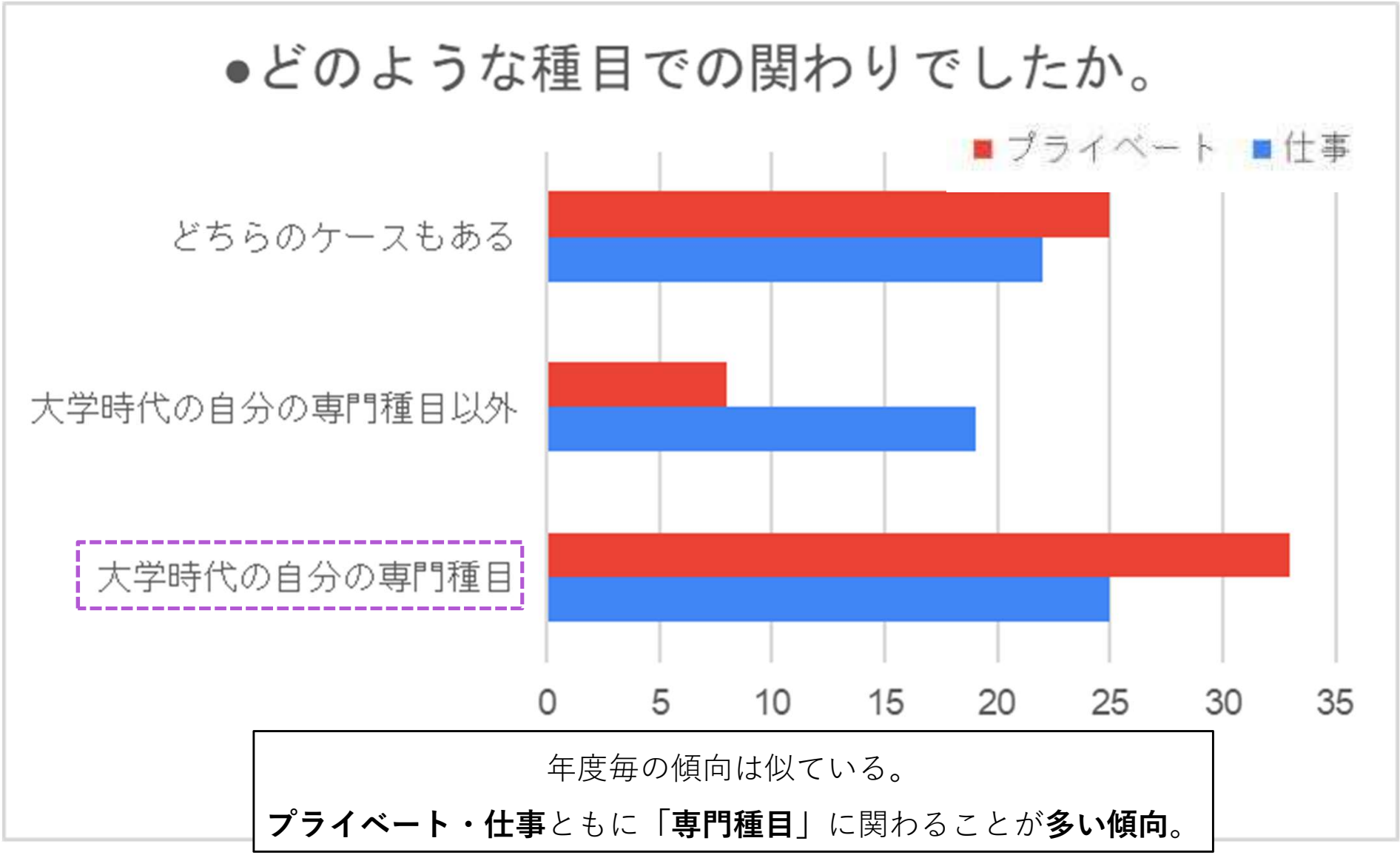
●卒業後、スポーツ・武道・健康づくりに どのように関わったことがありますか。（複数選択可）



年度毎の傾向は似ている。

プライベートでは「**自分でする**」「**観戦する**」が多く

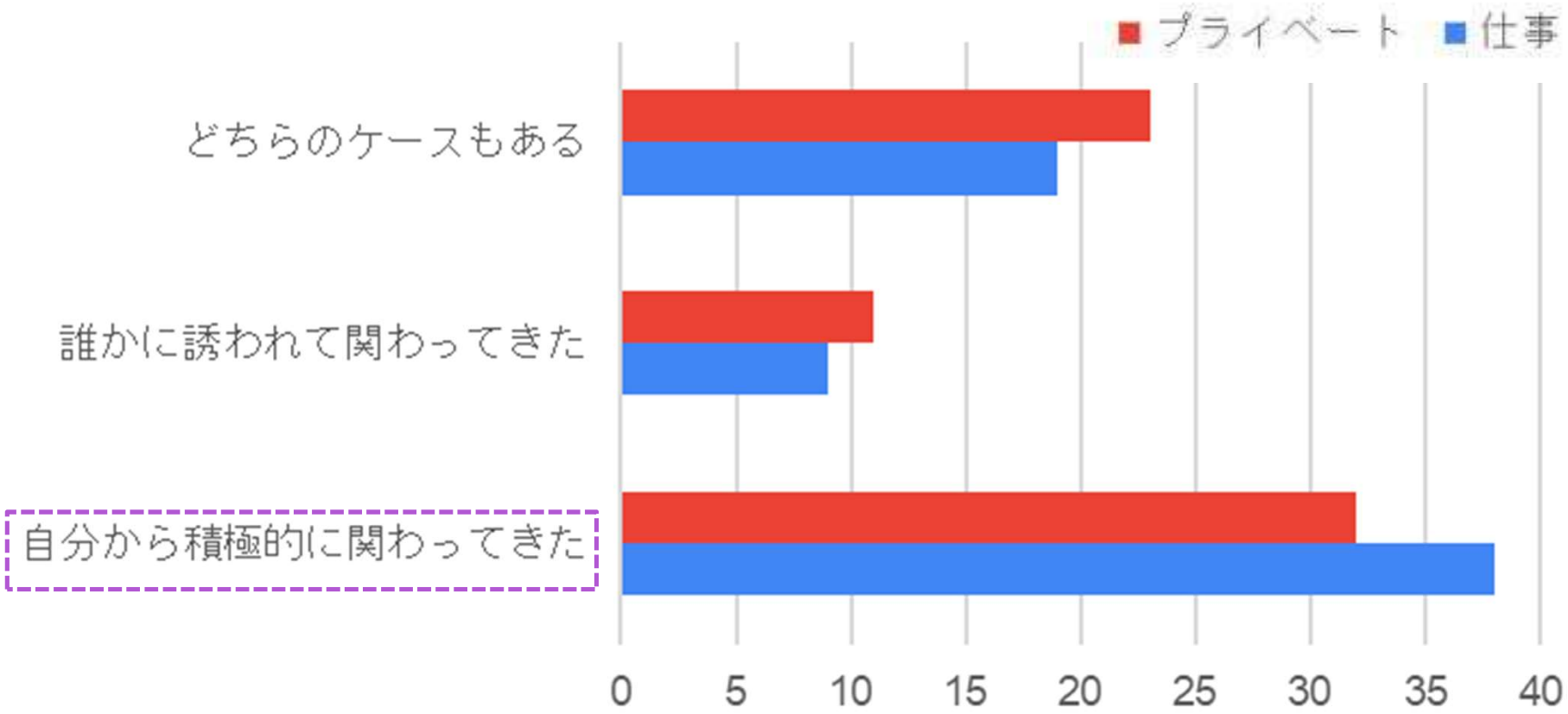
仕事では「**サポートする**」が多い傾向。



年度毎の傾向は似ている。

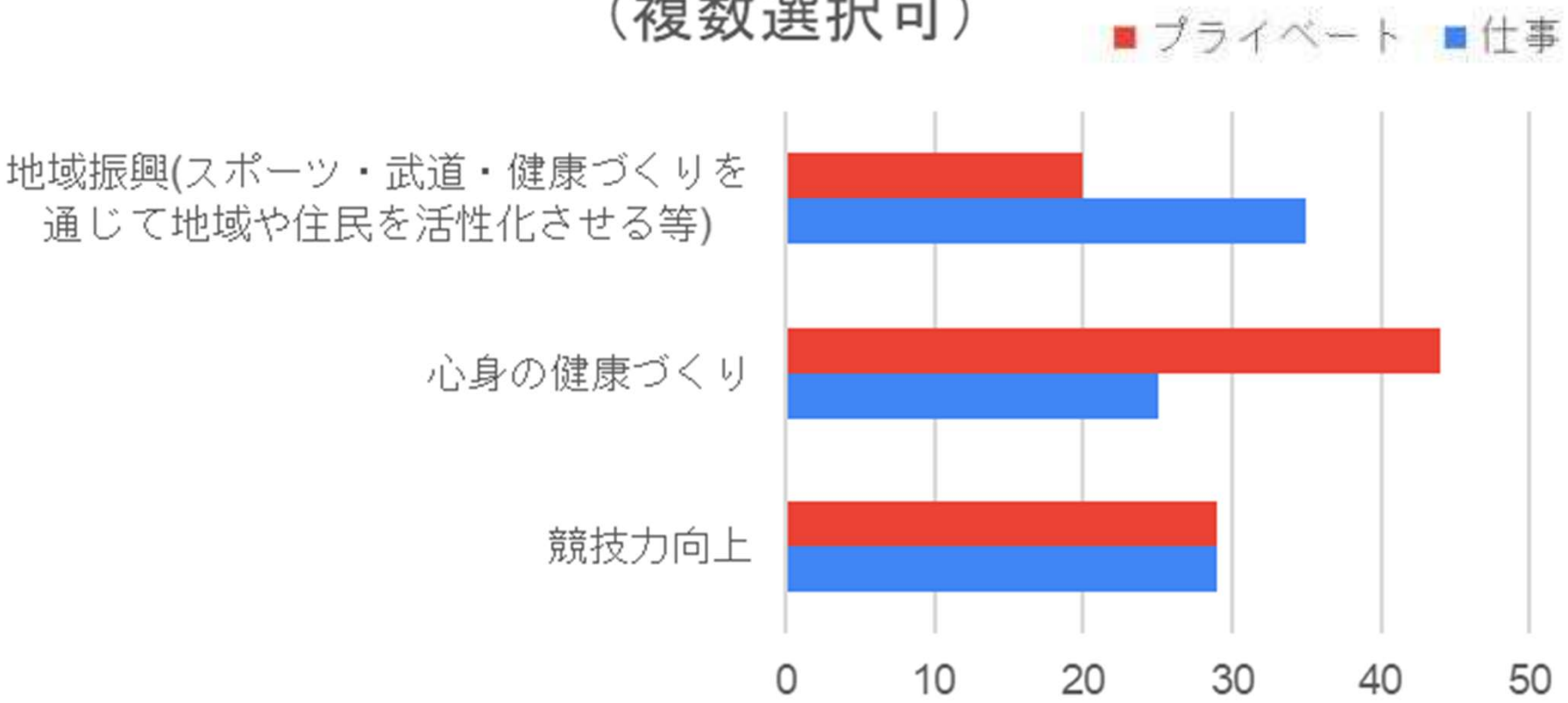
プライベート・仕事ともに「**専門種目**」に関わることが**多い傾向**。

●どのように関わってきましたか。

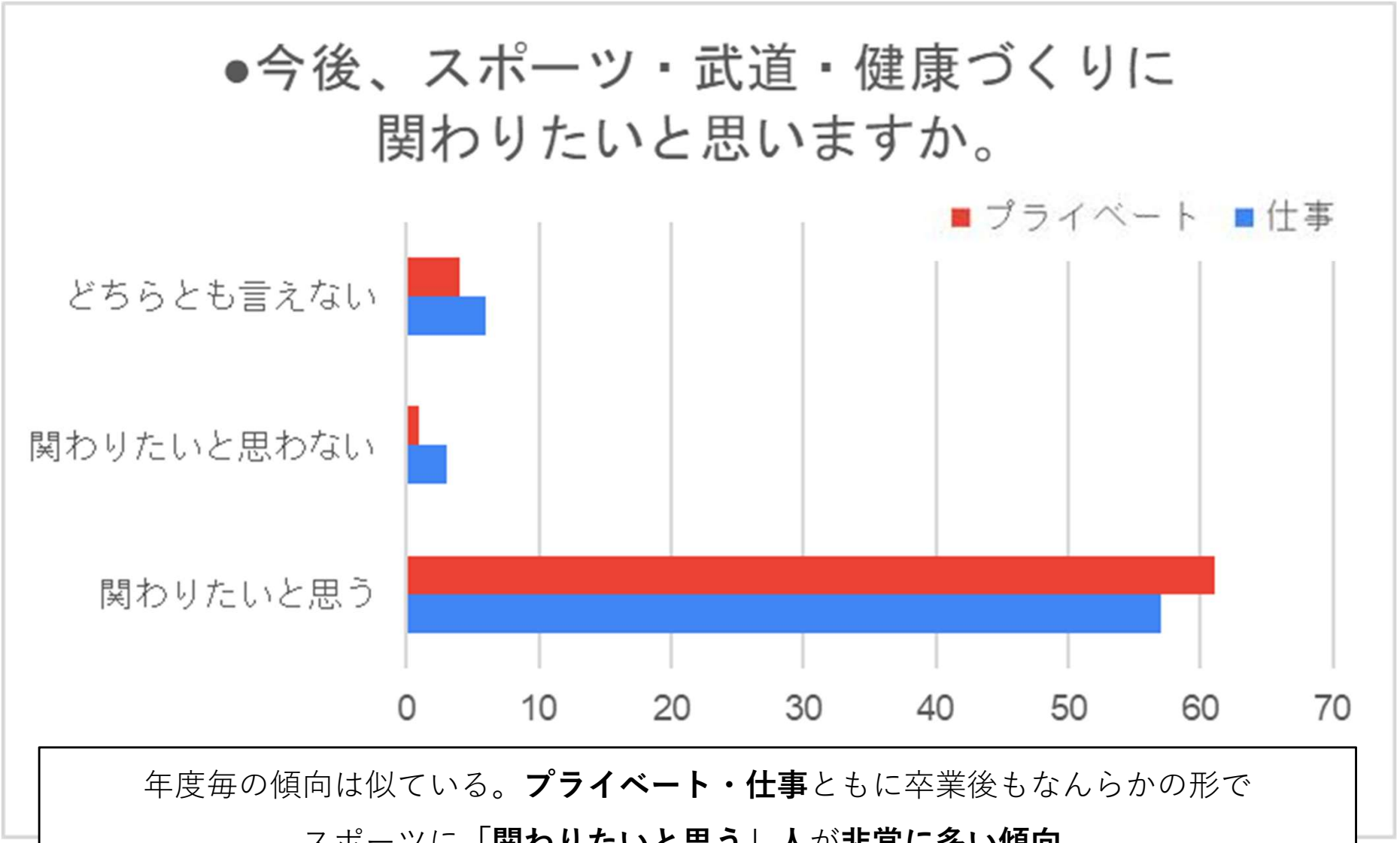


プライベート・仕事ともに卒業後もスポーツに関わる人が多い。

●どのような目的で関わってきましたか。
（複数選択可）



プライベート・仕事ともに卒業後も競技力向上や心身の健康づくりだけでなく、地域振興のためにスポーツに関わる人も多い。



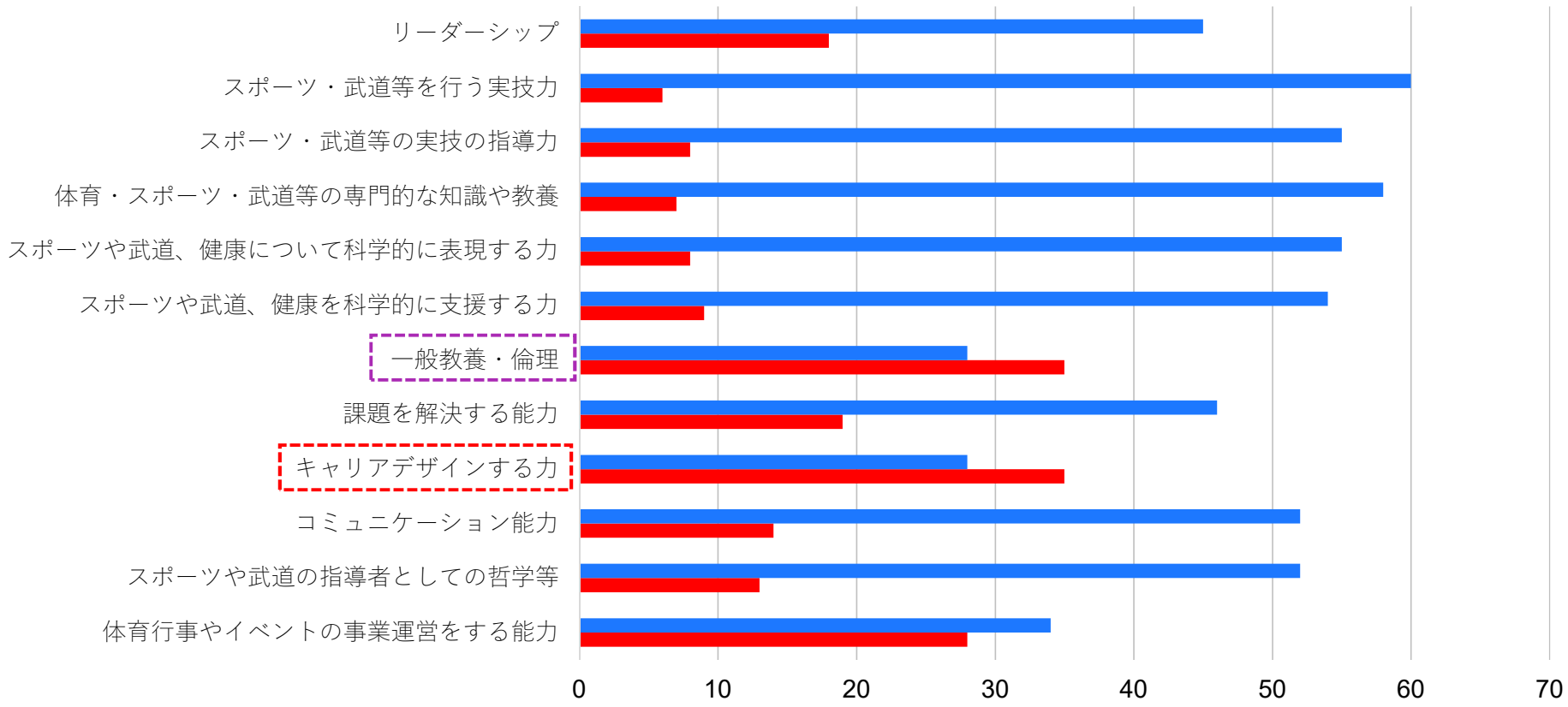
年度毎の傾向は似ている。**プライベート・仕事**ともに卒業後もなんらかの形で
スポーツに「**関わりたいと思う**」**人**が**非常に多い傾向**。

●今、鹿屋体育大学での教育を振り返って、総合的に満足していますか。

■5.満足　■4.どちらかといえば満足　■3.どちらともいえない
■2.どちらかというと不満　■1.不満

毎年度傾向は似ているが、**「5.満足」「4.どちらかといえば満足」**の回答率が**83%と依然高い。**

・本学の教育で目指す以下の資質・能力について、
①本学の教育で社会に出て役立ったもの
②本学の教育で不足しているもの をそれぞれ回答ください。
（複数回答可）



年度毎の傾向は似ている。

「一般教養・倫理」「キャリアデザイン」は「不足している」が多い。

自由記述

鹿屋での生活は最高でした。ただ授業中スマホをずっといじっている同級生達がいることを当時はとても残念でした。体育大学唯一の国立誇って言えるようにわたしもこれからキャリアを積んで行きます。
鹿屋体大学に行って良かったです。
キャリアや人生設計についてやや苦手としているかなと思います。キャリア関係の授業でもっと卒業生の話を聞いたり、関わりを持つ事で克服出来るのでは無いかと思います。会社と私にご連絡頂ければ私も是非、協力させていただきます。大学時代は入試課のお手伝いをさせて頂いておりました。何卒よろしくお願いいたします。
現在、福岡県にいるが、大学の一般利用を開放的に実施しているところがほとんどない。その点、鹿屋体大は開放しているのてますごくいいことだと思う。
当時の記憶ですが…最先端の機材を使わせてもらったり、理論を学ばせていただいたりしたことが、財産になっています。これからも鹿屋体育大学らしさを大切にしてもらえたらいいなと思います。また、改善点としては教員免許を取るために必要な授業についてです。大学院で他大学に行ったときに内容の違いや考え方に驚いた記憶にあります。参考になれば幸いです。
他大学との関わりや、企業との関わりなどがもっとできるとよかった。また、一見スポーツとは無関係なものと繋がっていくネットワークが欲しかったです。
鹿屋は鹿屋の魅力や強みがあると思いますが、知られていないことの方が多いと思いますし、学生もより多様な学生生活が送れるような指導も必要かと思います。
よりトレーナーの育成に力を入れて欲しい
教員養成の分野で。指導案作成にかなりしんどい思いをしました。教材観、指導観などの違いをもっと詳しく知れていると学生も困らないと思います。是非、教員養成にも力を入れていただけたらと思います。よろしくお願いします。
一般教養についてもう少し科目があると良いと思います
教職に関する支援体制の充実が必要な気がします。

まとめ

例年同様に、仕事・プライベートともにスポーツ・武道・健康づくりに関わっており、
今後も関わりたいと回答した人が多い。

2019年度も例年同様に、

・キャリアデザイン力

・一般教養・倫理

の分野で『社会に出て役に立った』の回答より『本学の教育が不足している』
と回答している人が多く

・リーダーシップ

・事業運営力

・課題解決力

も不足していると回答している割合も多い。

回答者66名のうち、
氏名を回答してくれた方が55名
メールアドレスを回答した方が47名
住所を回答してくれた方が46名